



PATTERN MAGIC

パターンマジック
vol. 2

中道友子

Contents



基本のレッスン

4

Part 1 ジオメトリックで遊ぶ



球を着る

09.....23
22



円を着る

10.....24
11.....26



三角を着る

12.....28



四角を着る

30



後ろにニョキッと

14.....33
32



前にニョキッと

15.....37
34.....36



ストールみたいに

16.....38



球のジャバラ

17.....41
40



円のジャバラ

18.....43
42



サークルスリーブ

19.....45



四角のジャバラ

20.....46

基本になっているボディは文化式原型成人女子用を使用。詳しくは96ページを参照。

また、作図はすべてMサイズ(バスト83cm、ウエスト64cm、背丈38cm)。

切開き線の位置や分量などはサイズの大小によって変わる。

$\frac{1}{2}$ のボディを使うときは、作図上の実物大ボディのための寸法を $\frac{1}{2}$ にしてパターン展開する。

Part 2 デコレーションの仕組み



ノット

49.....60
58



ジャングル

50.....64



スター

51.....66



クイックターン

52.....70
68



見返し・しだい

53.....75
73



カウルネック

54.....76



カウルネックの応用

55.....78
56.....79

Part 3 消える……



消えるスカーフ

81.....86



消えるネクタイ

82.....88



消えるラベル

83.....90



消えるポケット

84.....92
94

この本の使い方
95

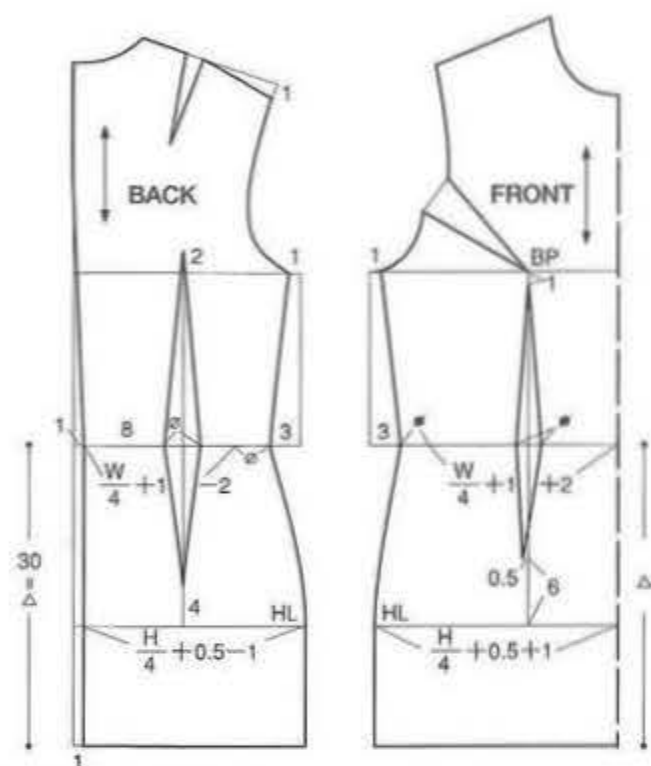
文化式原型成人女子用の
作図のしかた
96

文化式原型
成人女子用Mサイズ($\frac{1}{2}$)
98

基本のレッスン

切替え線だけで立体を作る

パターン作りのベースになっている文化式原型は、ダーツ(胸ぐせダーツ、後ろ肩ダーツ、ウエストダーツ)によってボディにフィットさせている。まず、ベーシックなトルソーのパターンに、ダーツではなく自由に入れた切替えのラインで立体を表現してみたい。

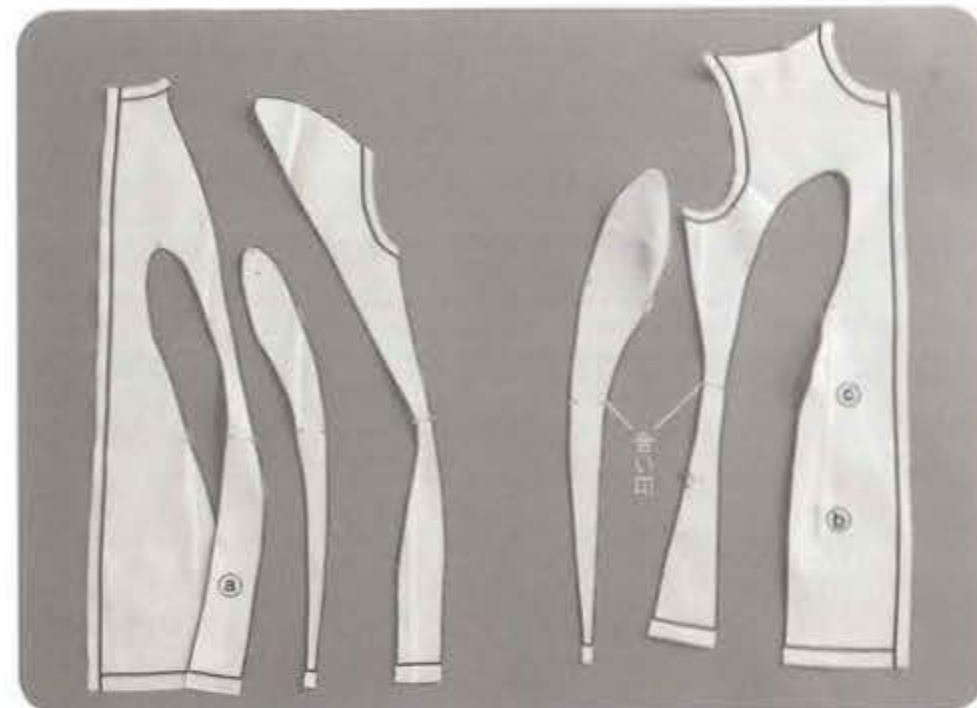


① トルソーの作図をする。

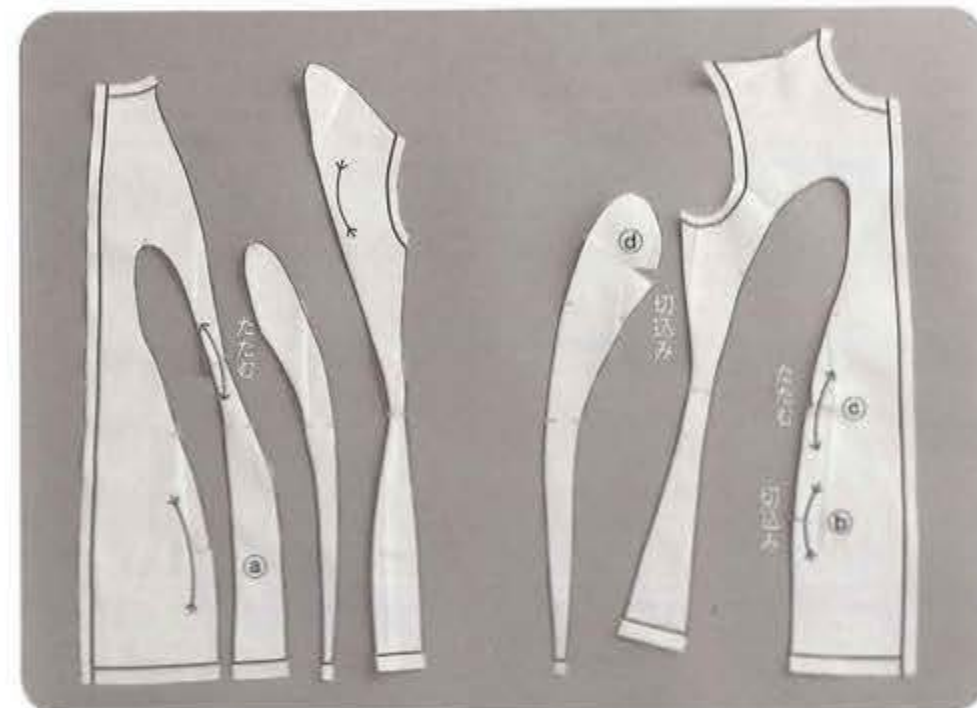


② ボディを縫い上げ、ダーツ止り、ウエストラインに●印をつける。

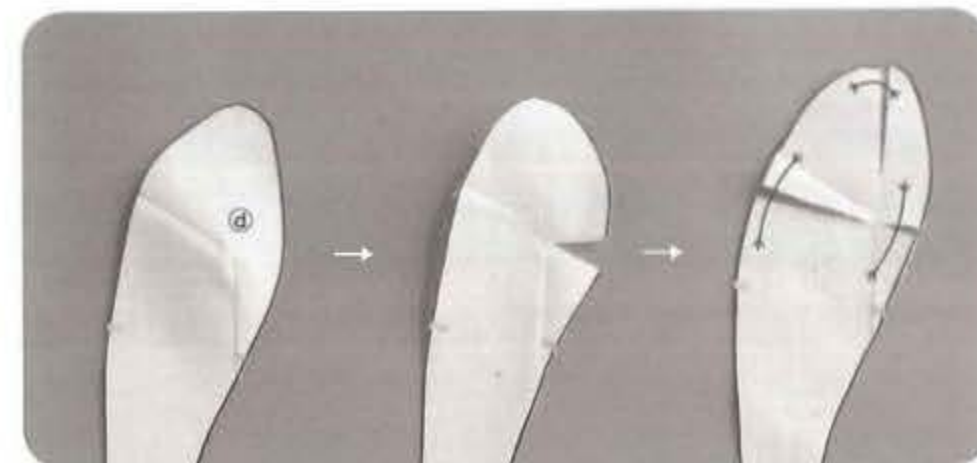
●の位置に関係なく自由にラインを入れる。縫い合わせるときのために、合い印も入れておく。



③ ラインどおりに切ると均一に平面にならず、④のように交差するところができる。



④ ③はたたむことで縫い代分を出した。そのほか平らにならないところは⑤のように、ダーツ止りに向かって切込みを入れる。⑥のように余って浮いているところは、たたむなどして平らにした。縫合せでは、たたんだところは伸ばし、切込みを入れたところはいせるかつぶす。



⑤ ④は切込みを入れたが切開き分が多いので、3か所に切込みを入れていせを分散することにした。

④を裁断する



(1) 布の上に布パターンを置き、縫い代をつけて裁断する。



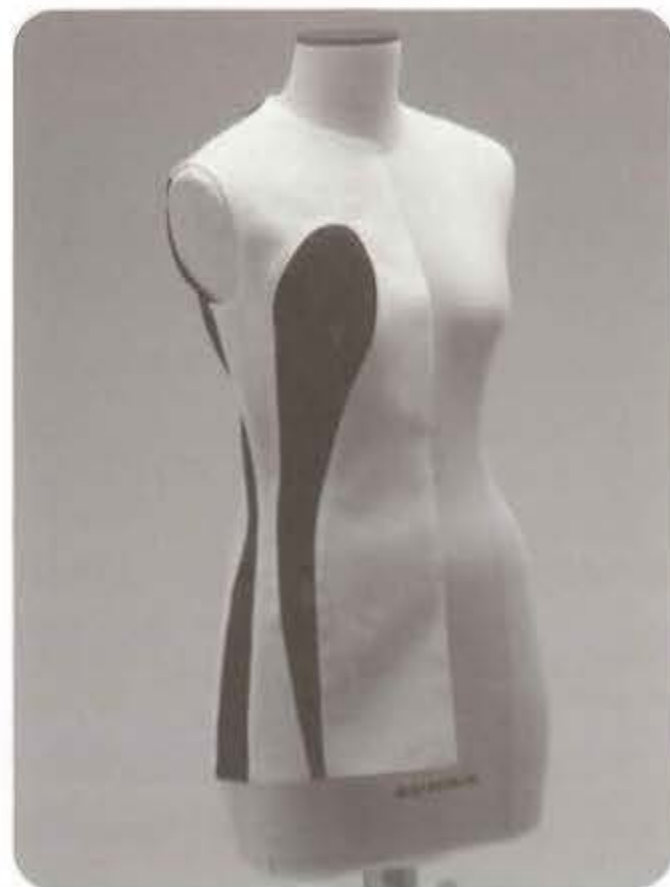
(2) 合い印も忘れずに入れる。



(3) 切り開いたところは粗ミシンをかけて縫い縮め、アイロンでいせ込む。

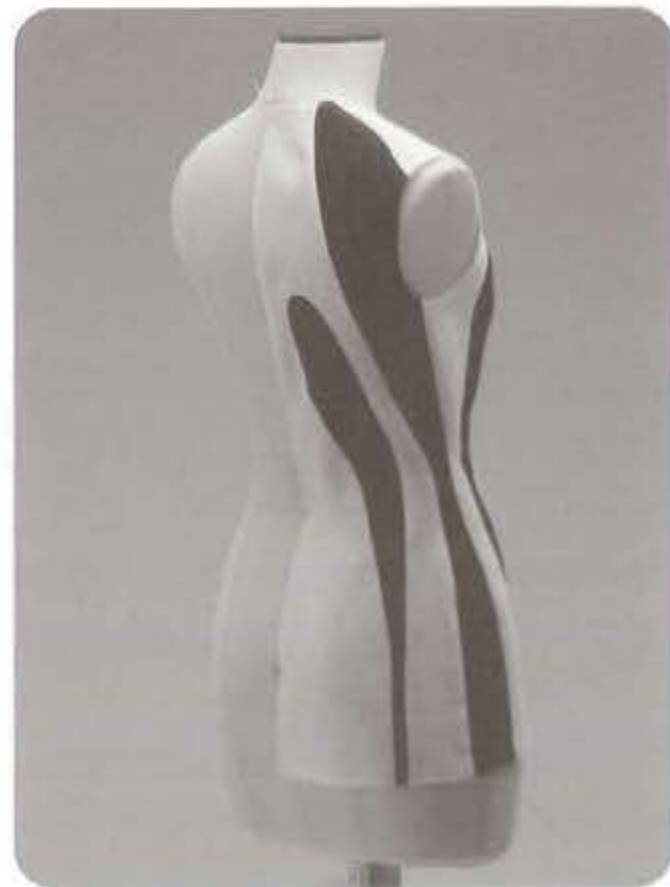


(4) ダーツがなくても、胸にフィットする。



⑤ 縫い上げて完成

切替え線が●印から離れていればいるほど、くせとりが必要になる。離れすぎている場合は、素材にもよるが、くせとりだけでは無理なので、切替え線を増やすなどのデザイン変更が必要になることもある。



さらに応用として、裾にフレアを入れてみた



①②のパターンを使い、フレアを入れたい場所にラインを入れる。



③ フレア分を切り開く。前身頃は脇にフレア分を出した。後ろ身頃は重なってしまう、1枚のパターンとしては成り立たない。重なり分が多いので、上部をたたんでも縫い代分を出すことはできないので、切り替えて2枚のパターンに分けることにした。



切り替えた2枚のパターン。



⑤ 縫い上げて完成

切替え線の入る方により、パターン作りにさまざまなハズニングが起きてくる。そのつど柔軟な考え方で、完成への方策を探してほしい。



Part 1 ジオメトリックで遊ぶ

数学で、図形の勉強をしているときから

“円”が好きだった。

どんな形より、穏やかで安心できるから。

まず、円から始めて三角、四角……と、

服のパターンにしてみた。

体を入れると余ってくる、本来なら必要のない部分が

フレアやドレープになるおもしろさにはまった。

さらにオブジェのようなフォルムの服、

ディテールにも取り入れてみた。

ジオメトリックな図形は、形の美しさの原点。

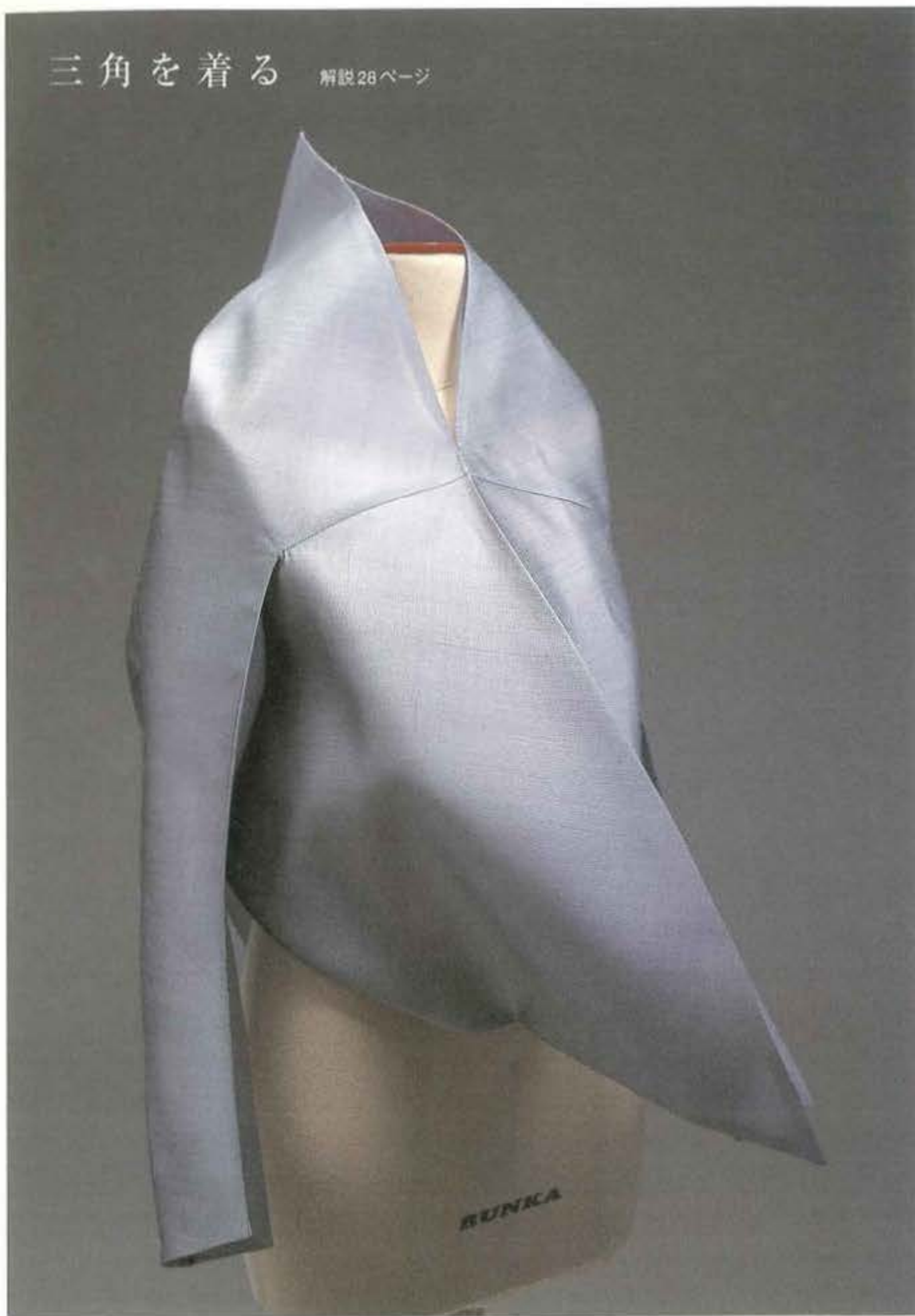
さまざまな方法で再構築して、

パターンで遊んでみたい。





三角を着る 解説28ページ

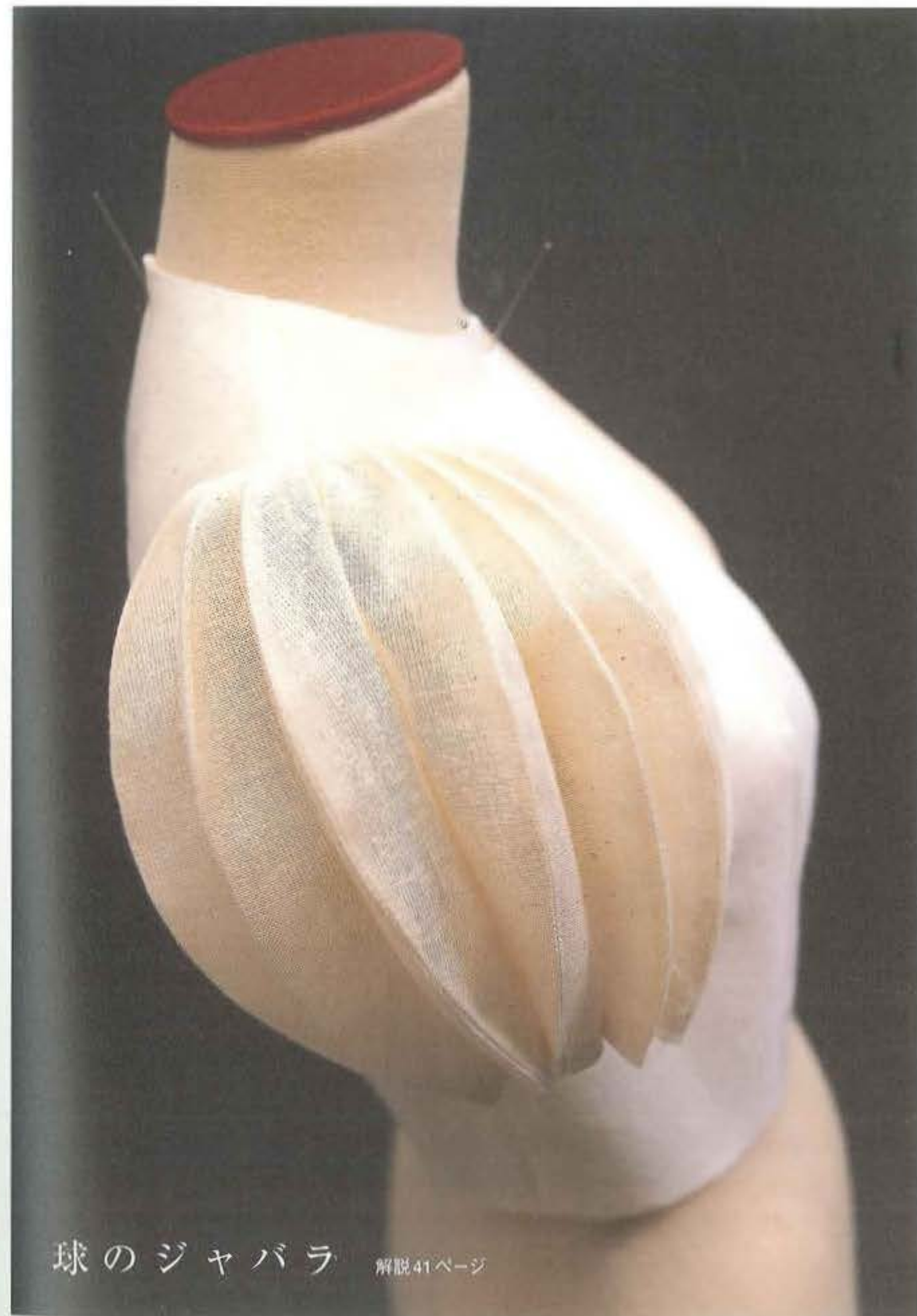


後ろにニヨキッと 解説33ページ



前にニヨキッと 解説37ページ

ストールみたいに 解説38ページ



球のジャバラ 解説41ページ



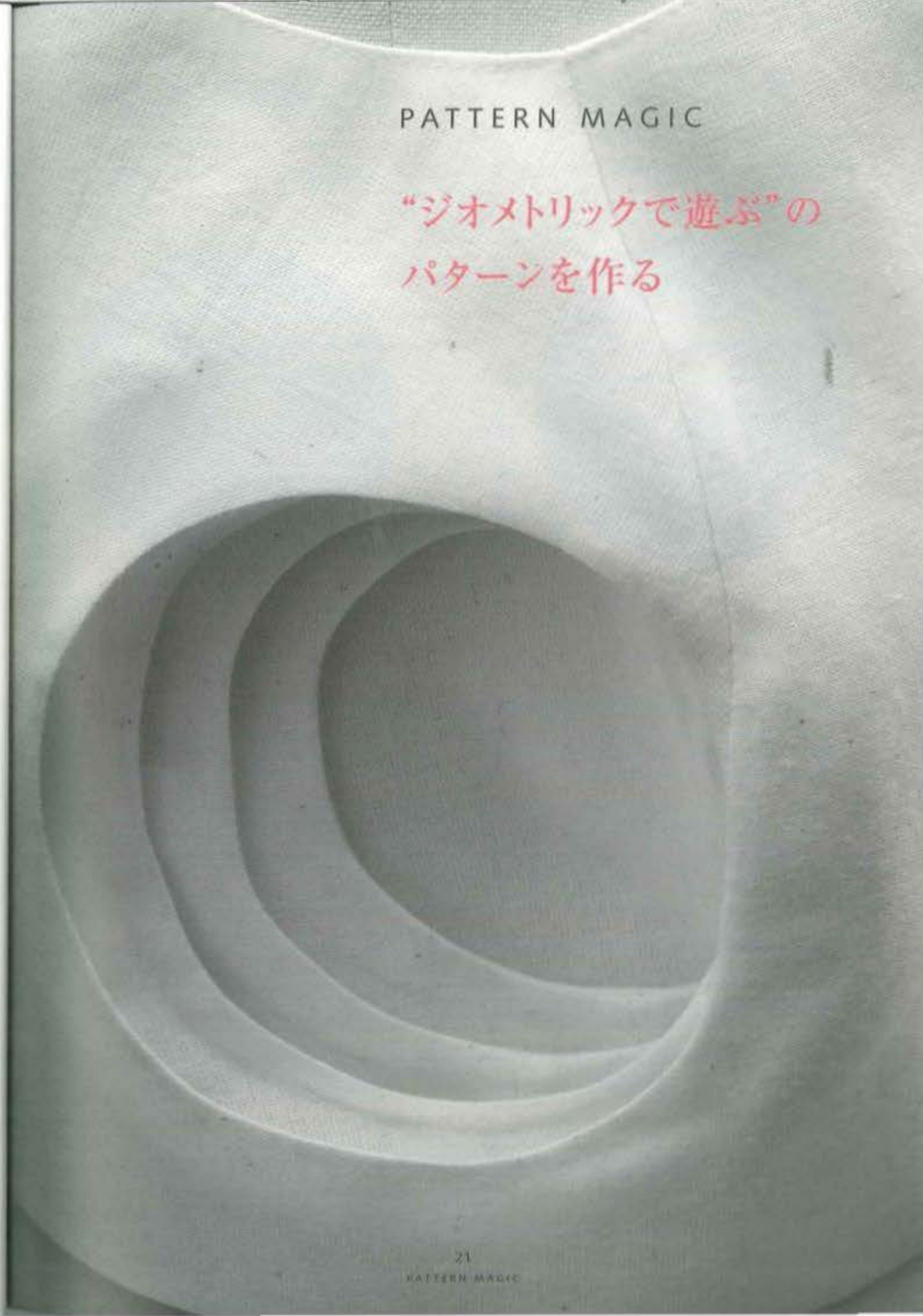
四角のジャバラ 解説46ページ



BUNKA

PATTERN MAGIC

“ジオメトリックで遊ぶ”の
パターンを作る

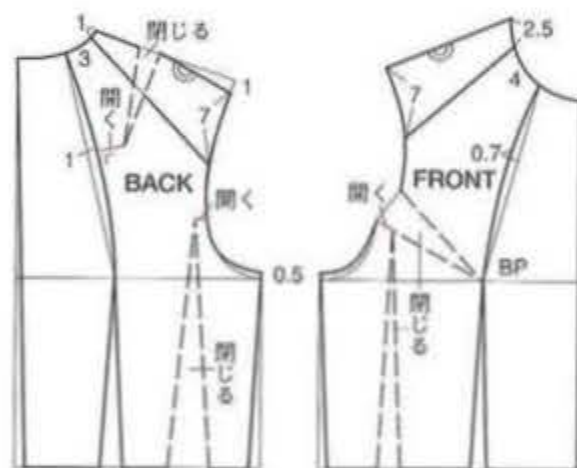
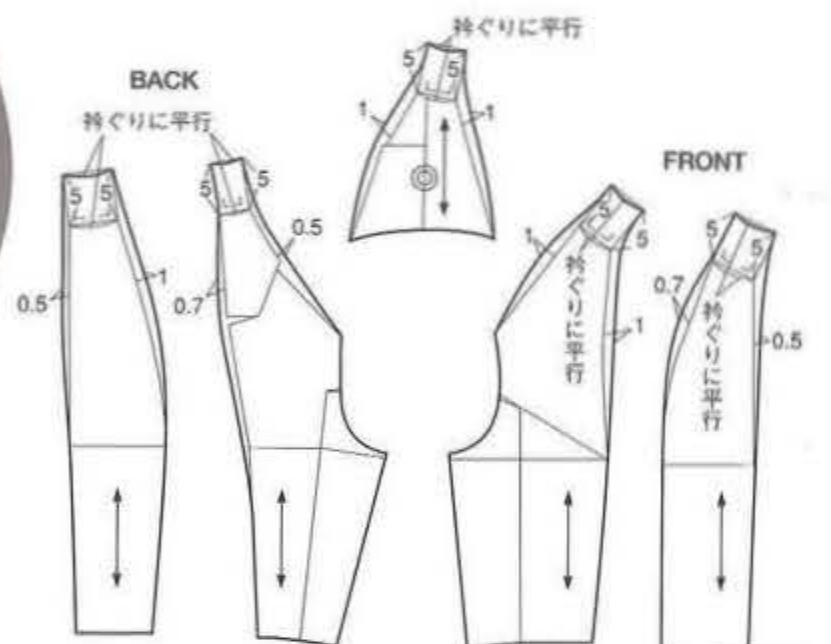


球を着る

空にふわふわと浮かぶ気球の写真を見ていて思いついた服。

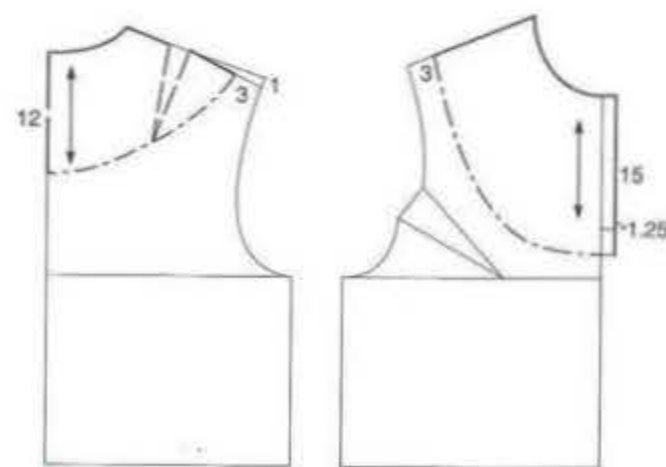
体から浮かせたフォルムは、立体裁断で表現するのは難しい。

原型に入れた切替え線をふくらませて、服として美しい球体を探ってみた。



① 原型にバランスよく切替え線を入れる。

- ② ダーツはすべてたたむ。
- ・衿ぐり線より高い位置からふくらませるので、衿ぐりを5cm高くし、元の衿ぐり線を写した。
- ・横のふくらみ分は0.5~1cmずつ追加し、つながりよく線をかく。
- ・前中心線がカーブなので、持出しはバイアスとする。
- ・ふくらみ分を追加してきた切替え線の縫合で長さが合わない場合は、いせや伸しで合わせる。差が大きい場合は、衿ぐりで逃がす。

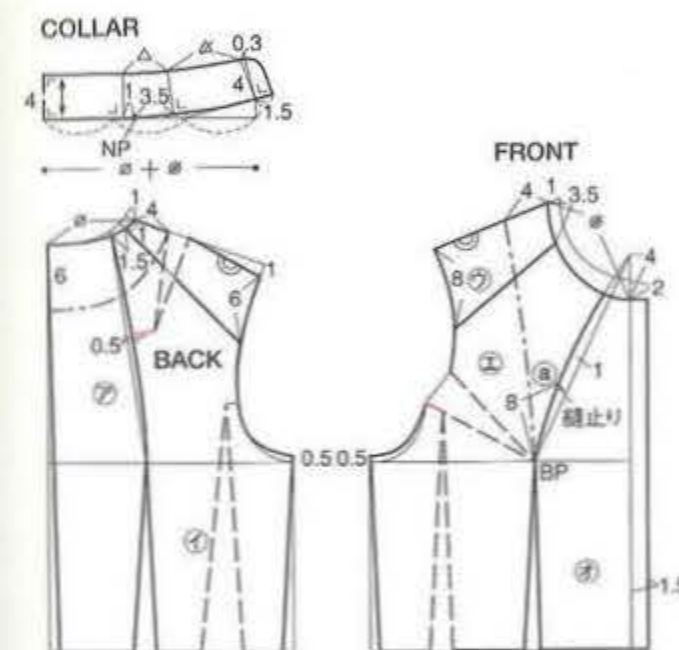


③ 見返しは、肩周辺が浮きやすいので幅広くとる。

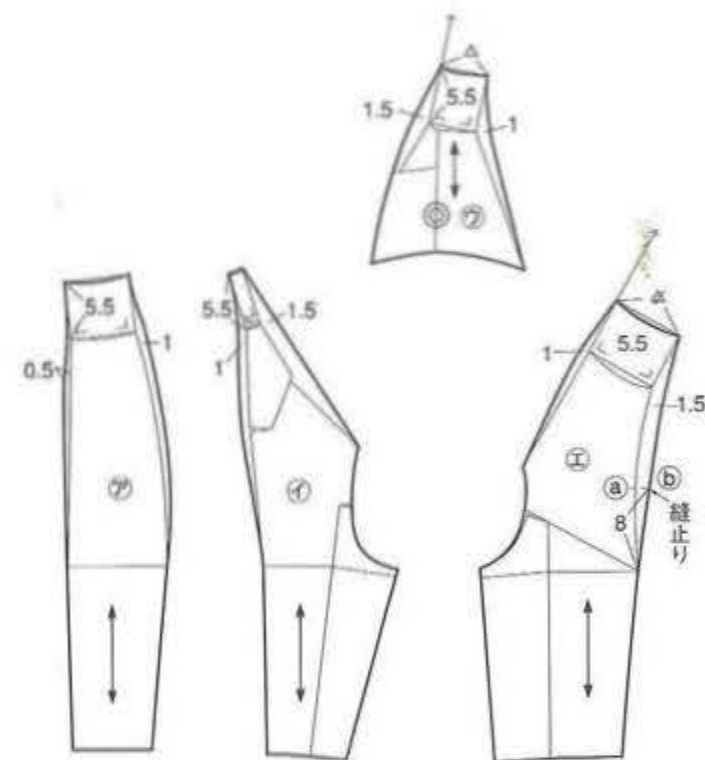
9ページ“球を着る”

スタンドカラーについた大きな衿がふわっとふくらんで、

ボディに溶け込んだよう。



① 原型にバランスよく切替え線を入れる。②の前中心側の切替え線は、台衿幅分の上端にぶつかるように延長し、BPを通りつながりよく結ぶ。4cm幅のスタンドカラー(見返しも兼ねる)をかく。



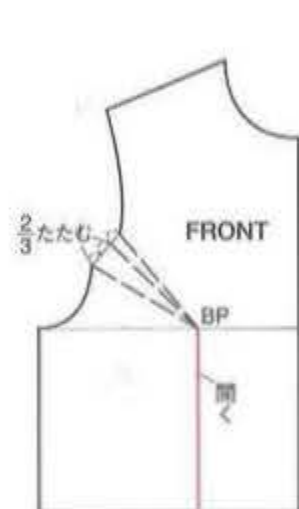
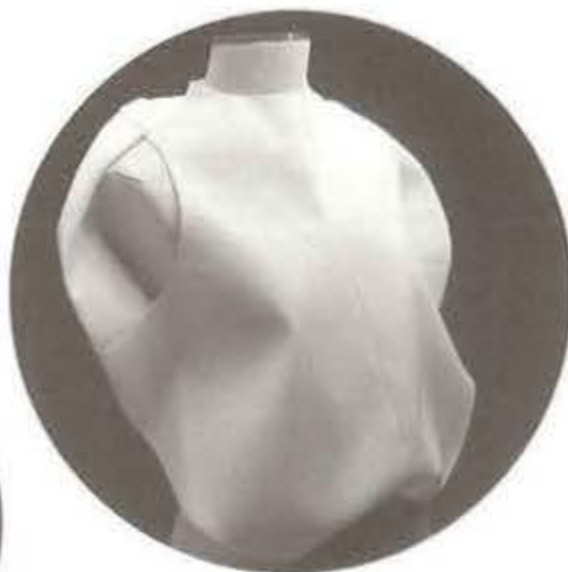
- ③ ダーツはすべてたたむ。
- ・衿ぐり線より高い位置をふくらみ始めとするので、②③④⑤それぞれの衿ぐりを5.5cm高くし、元の衿ぐりの線を写した。
- ・横のふくらみ分は0.5~1cmずつ追加し、つながりよく線を訂正する。



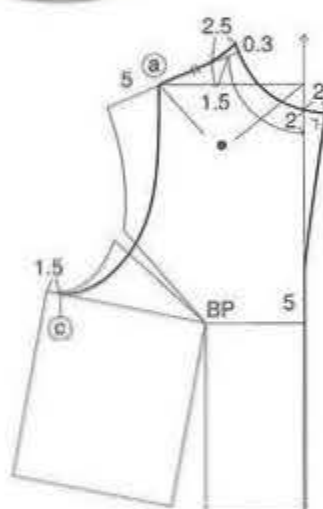
③ 見返しの作図をする。④は前身頃と見返しを兼ねる。最後に④⑤を合わせて縫止りまで縫う。

10 ページ“円を着る”

円形の布を2枚合わせ、間に体を入れてみた。
体を優しく包み込むように、
ラウンドのラインが生かされたトップスになった。



① 原型のアームホールダーツの量をたたむ。



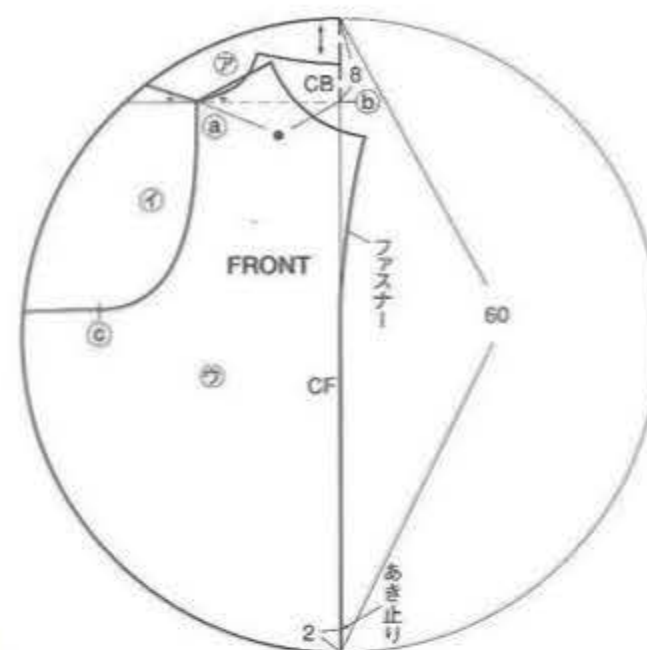
② 衿ぐりにハイネックラインをかく。前の衿ぐりが不足するので、前中心で追加した。肩幅を決め、③とする。



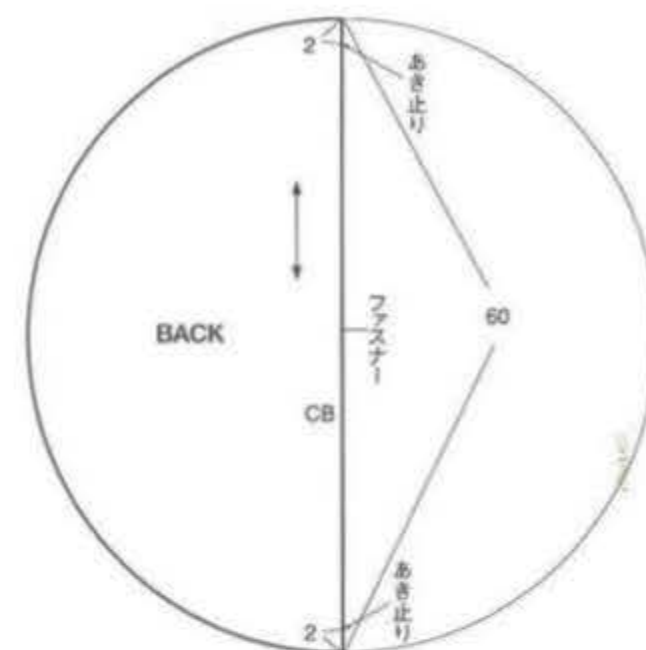
③ 後ろも前と同様、衿ぐりをハイネックにし、前肩幅と同じ長さの④をとる。④から水平に後ろ中心にぶつかる位置を⑤とする。



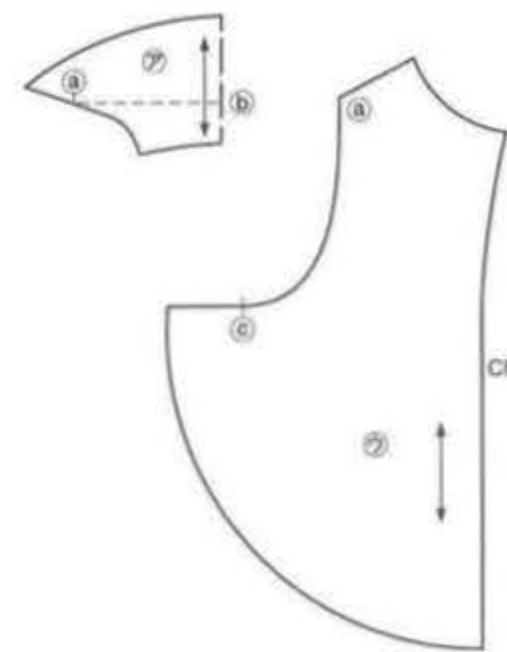
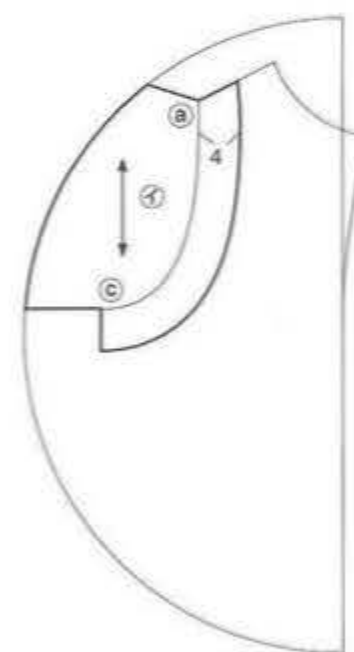
たたんだ状態



④ 半径30cmの円をかく。中心線から8cm入り、そこから水平に●寸法をとったところを⑥とする。⑥を合わせて前身頃、後ろ身頃を写し取り、⑥～⑦から円周に向かって切替えのラインをかく。ラインは自由でいいが、今回は⑥から水平に入れた。もう一本は⑥を水平に通る線に対して、前肩線と対称に同角度をとり、切替えのラインを入れた。



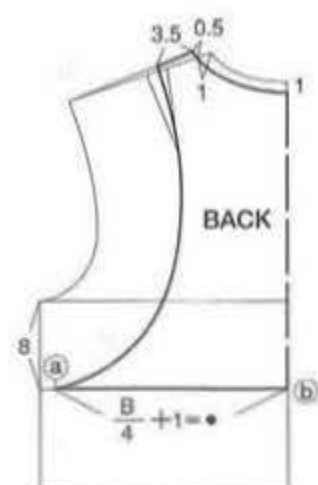
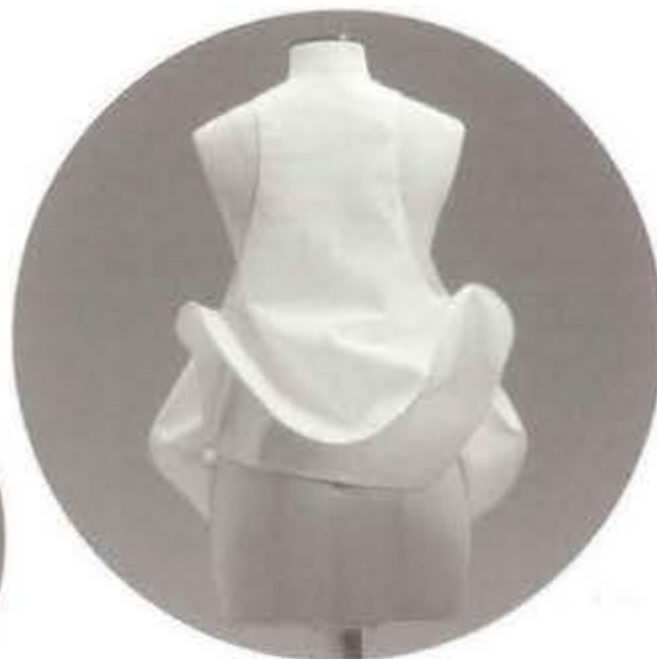
⑤ 後ろ身頃は半円を2枚合わせたパターンになる。後ろ中心はファスナーあきにした。



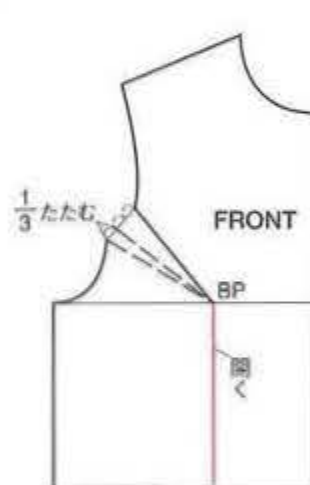
⑥ 前身頃のパターンは三つのパーツから成り立つ。⑦は⑥～⑦の線で、上図のように反転して写す。⑧は前身頃の袖ぐりに隠れている部分が必要になるので、4cm幅で袖ぐりに平行に追加する。

11 ページ“円を着る”

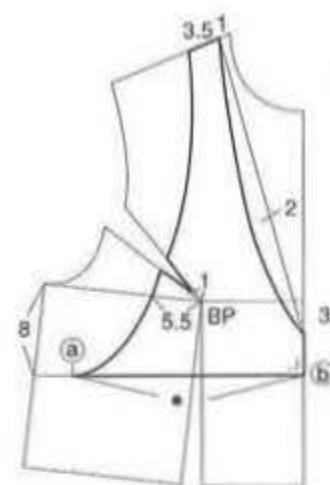
円から垂直に体を出したところが、円錐のよう。
裾の、あきの位置や大きさを、
また、布地の重みによって変わるフォルムが楽しい。



① 円から体を出したい位置を決め、そこに身幅をとり、a～bとする。



② アームホールダートをたたみ、切り開く。



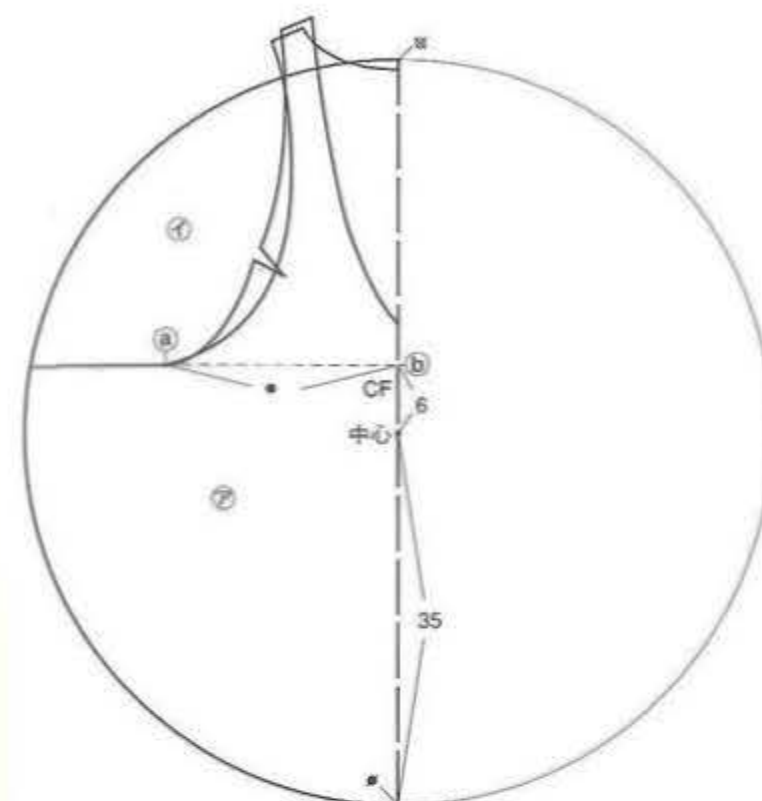
③ 後ろ身頃と同様に、前身頃にも同寸の身幅をとる。



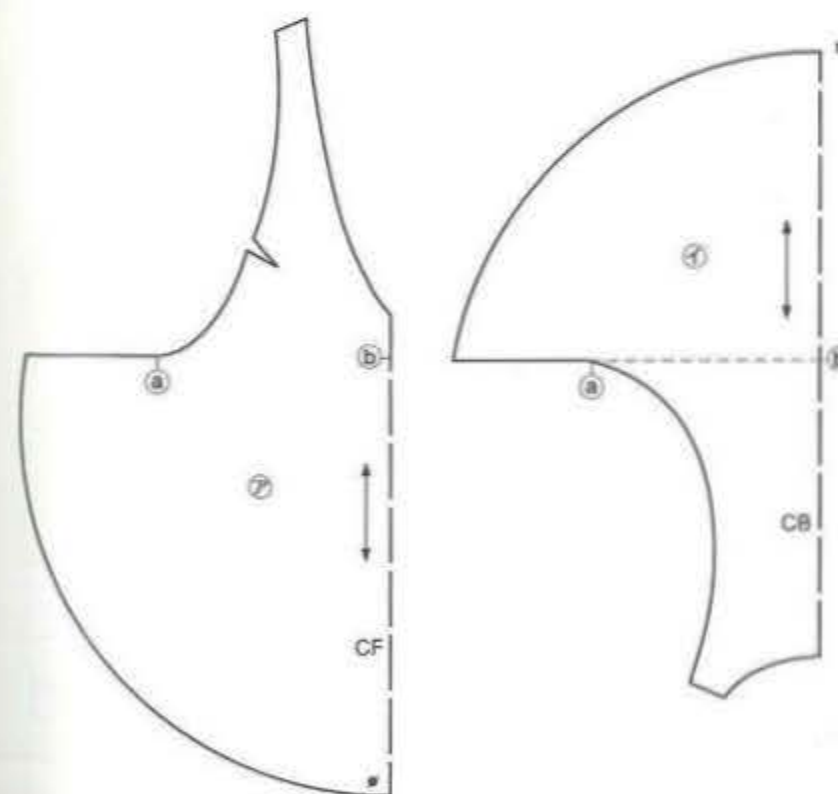
たたんだ状態



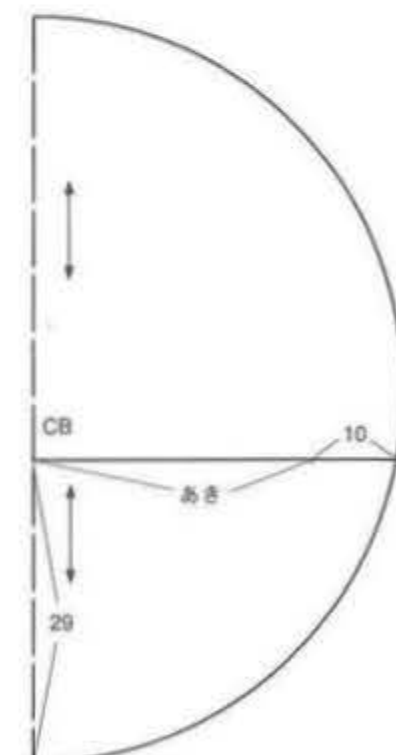
後ろ



① 半径35cmの円をかき、体を出したい位置を前中心上に決め、bとする。
bから水平線上に●寸法をとったところがaとなる。a～bを合わせて前後身頃を写す。



② パターンは前身頃②と後ろ身頃③でできている。④のパターンはa～bの線で反転して写す。



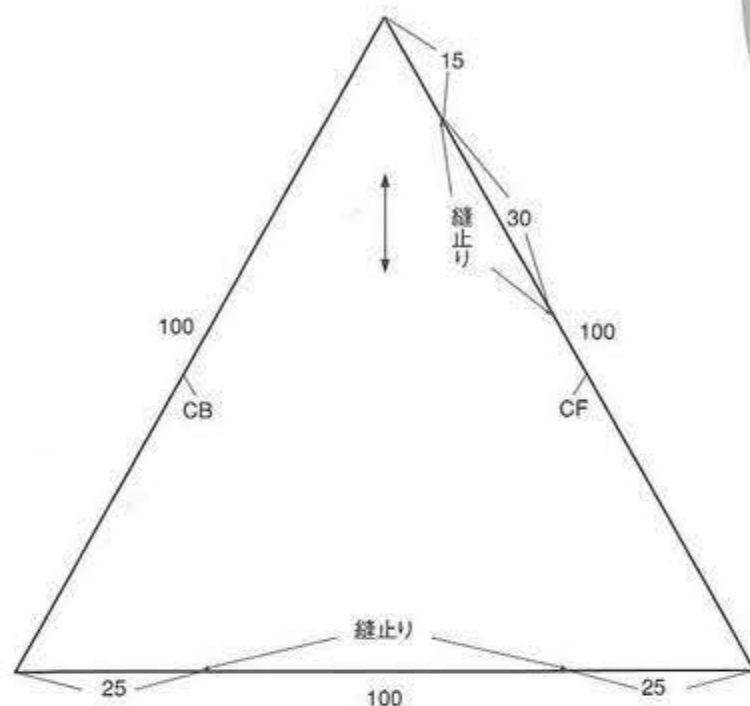
③ 裏側になる円は着用してから、あきをスナップなどで調節する。

12ページ“三角を着る”

オブジェのようなフォルムの服に体を入れてみる。

ジオメトリックな立体に

“着る”ことで表われる新鮮な表情が楽しくて、
さまざまな形で試してみた。三角はとびきりシャープに。



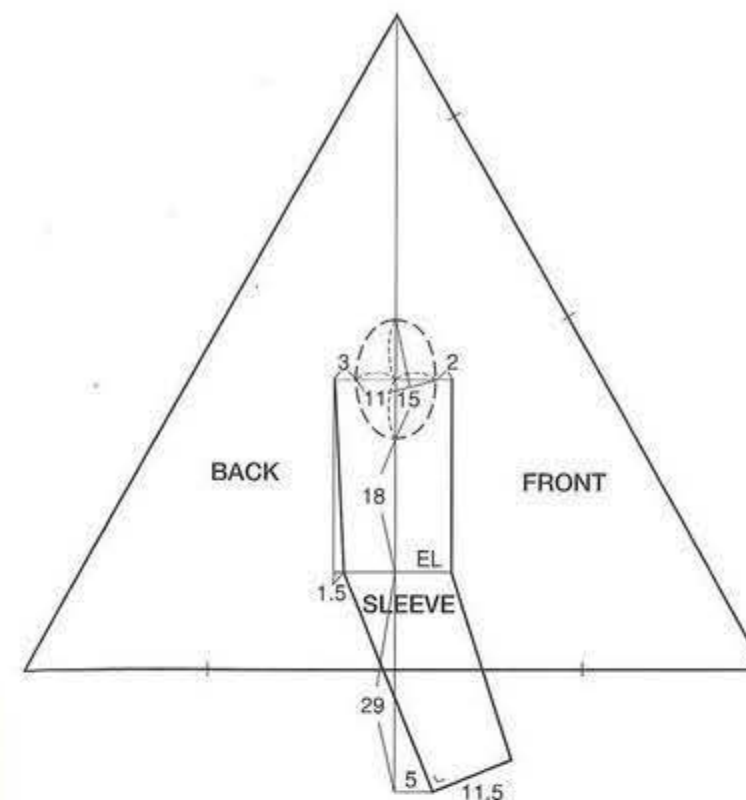
① 体が入る大きさの三角形を2枚裁つ。ここでは、1辺が100cmの正三角形にし、頭と裾にあきを作った。あきは、ファスナー(両あき)にしてもおもしろい表情になる。出来上がってから調節するとい。



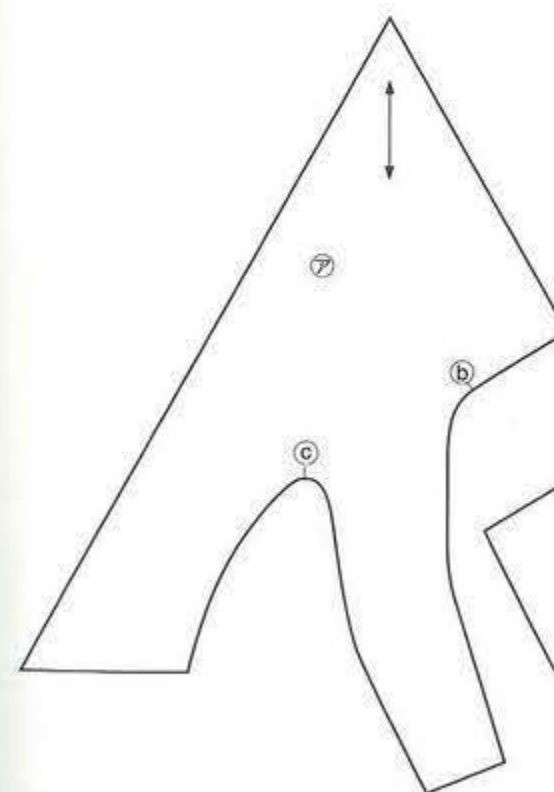
② 縫い合わせた三角形の布をボディに着せる。



③ アームホールの位置を布にしるす。



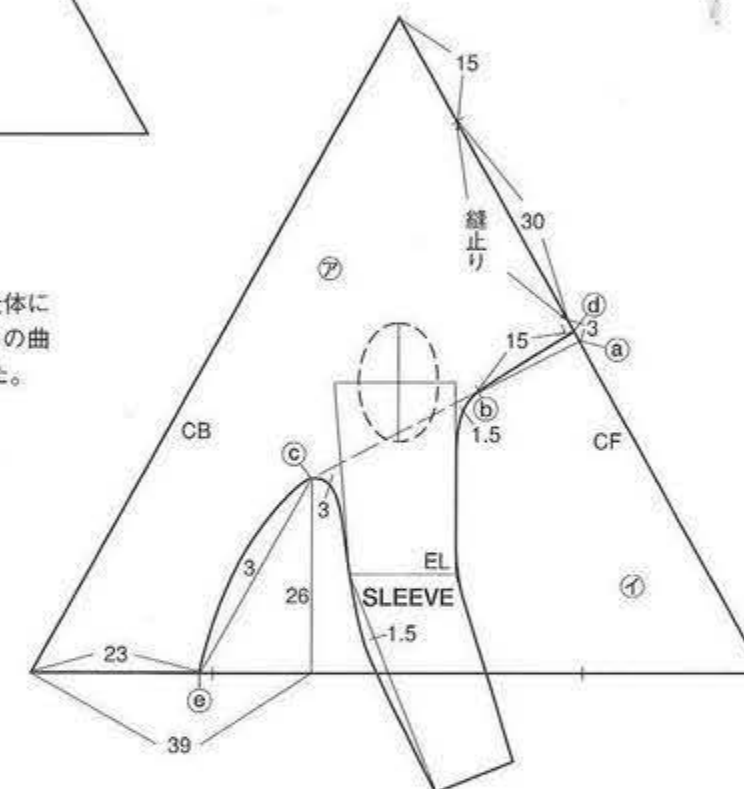
④ アームホールの位置を基準にして、袖の作図をする。全体に大きなフォルムなので、バランスを考えて袖丈も長く、ひじの曲がる角度も大きくしてオブジェとしてのおもしろさを追求した。



パターンは⑦と⑧の二つのパターンできている。⑦のパターンは⑥⑦の線で袖をおこすように反転して写す。

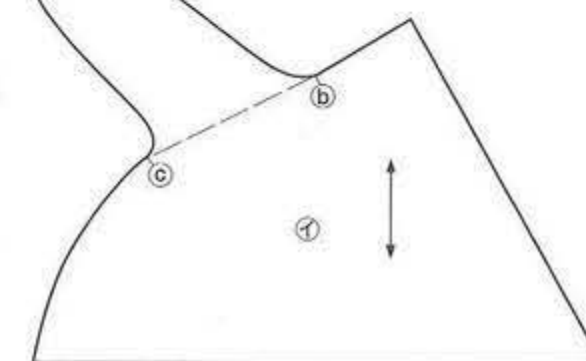


たたんだ状態

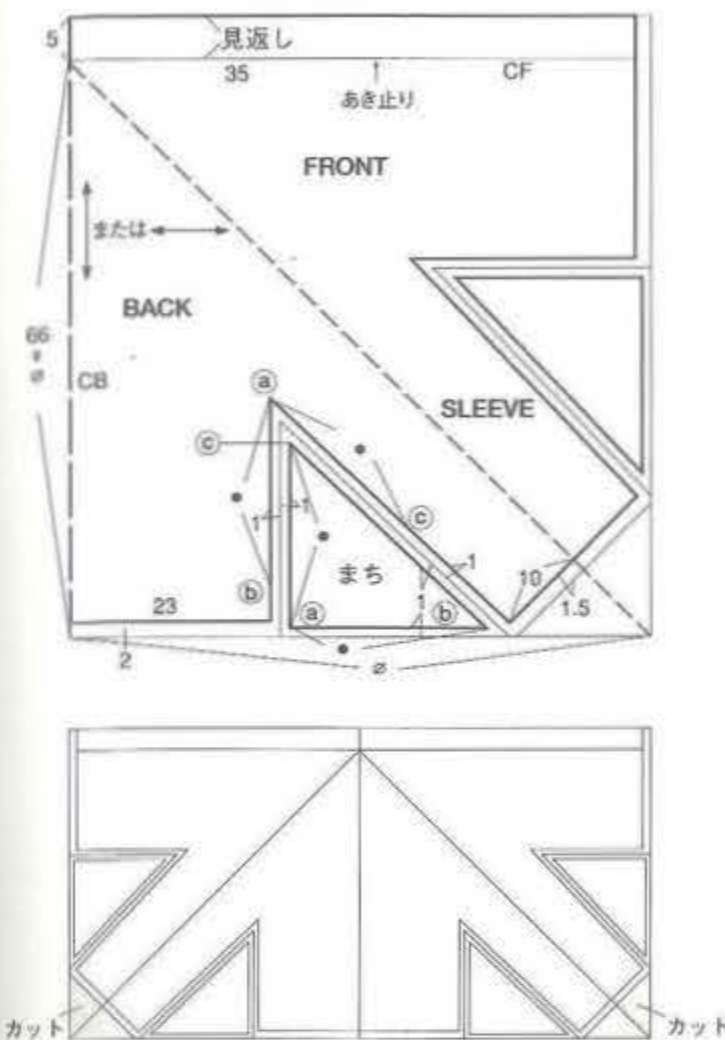


⑤ 身頃から袖に続く切替えのラインをパターンに入れる。位置はバランスを見て決めていいが、⑥～⑦を結ぶラインは腕つけ根を通るので、上すぎるとつかえてしまうので注意。

- 1 ⑥⑦を結ぶ。
- 2 ⑥から直角に、前中心に⑧をとる。
- 3 ⑧⑥を結ぶ。前袖のラインをかく。
- 4 ⑦⑥を結ぶ。後ろ袖のラインをかく。



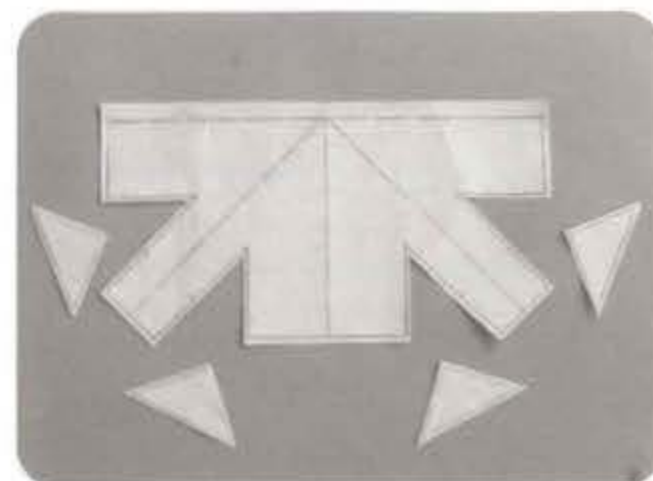
最小限の用尺と縫製で仕上げたブルオーバー。



自分の寸法で作図をする場合



前中心線から、45°の角度でとった肩、袖山線を引き、そこに前原型をすえ、身幅のゆとりや着丈、袖丈などを決めていく。



● 裁断团



④ 見返しを折り、まちをつける。



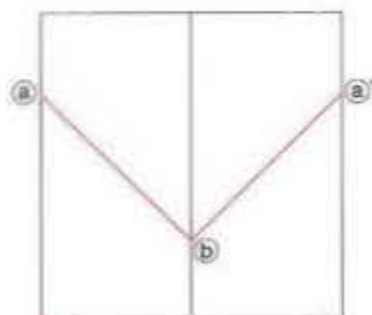
⑨ 前中心の裾からあき止りまでを縫う。袖下、まち、脇を縫い袖口、裾を上げる。前中心全体にファスナーをつけて、あきを自由にしてもいい。

ニョキッと

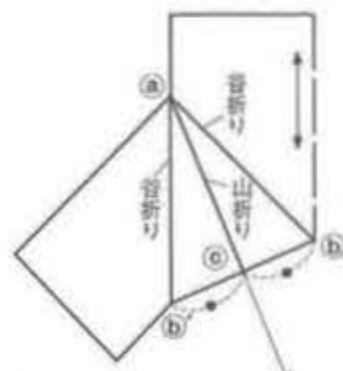
フィットしたボディから布が突き出した、ニョキッと！ 大波小波のように、波の角度は自由自在に。
不思議だが服にデザインされると、ドレープよりもモダンで、同じくらいエレガントなディテールだ。

平らな布からニョキッと

A



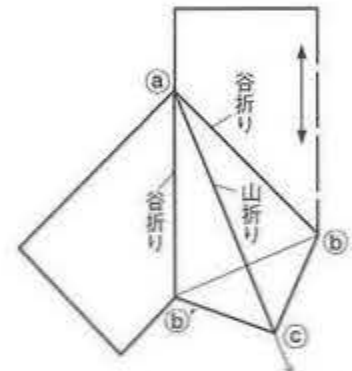
① ニョキッと出したい位置を決める (a~b~a')。



② シンメリーなので、半分のパターンとする。突出させたい高さ (b~c) の2倍をaを基点にして開き、(b')とし、(b)と(b')を直線で結ぶ。a~c~(b)間が90°になる。

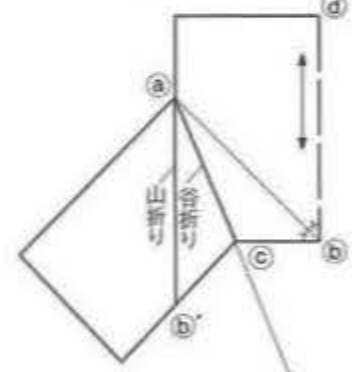
写真のようにcを鋭角に突出させるためには、山折り線上で(b~b')を結んだ線より延長したところにcを求めればよい。

B

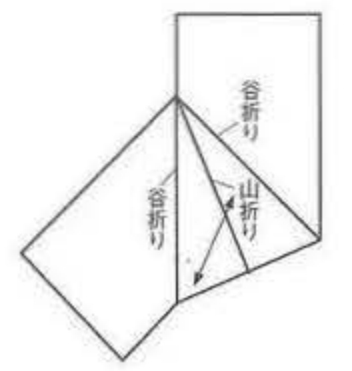


写真のように平らにするには、bが直角になるまでcをaに近づける。cの位置を動かすことによっていろいろな表情が見えてくる。

C



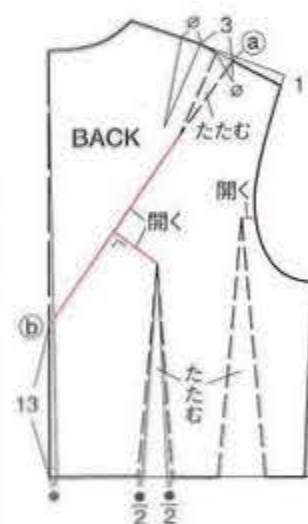
D



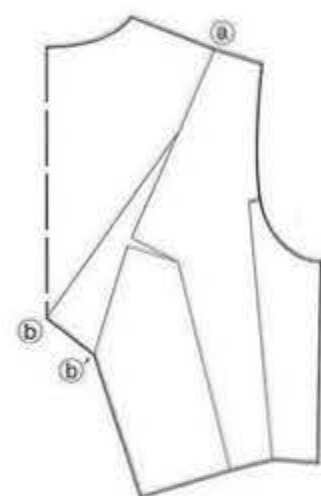
基本Aと同じ90°に突出させるパターンだが、布目を山折りでバイアスにすると、カーブした柔らかな表情になる。

14ページ“後ろにニョキッと”

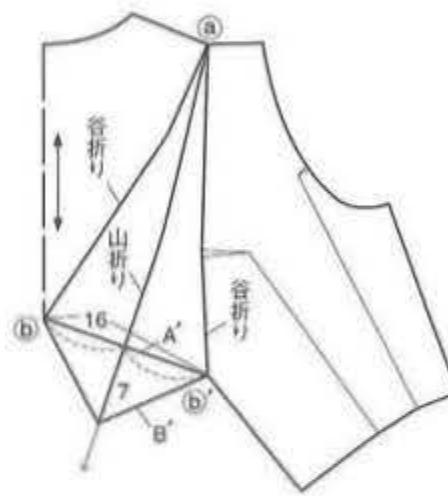
後ろ身頃にニョキッと突出させてみた。
体にフィットさせたボディの
バックスタイルから突き出した布。
まるで鳥のくちばしのように。



① ニョキッと出したい位置を決める (a~b)。肩ダーツをa~b線上に移動する。



② 肩ダーツをたたんで切り開き、(b')とする。



③ 高さが不足なので、aを基点にしてさらに開いた。ウエストダーツをたたんだため、a~bよりa~b'が長くなるが、少しなので外回りのゆとりとする。山折り線の決め方により、A'、B'のニョキッと、になる。



前にニョキッと 解説36ページ

ソフトなのに力強い布の流れ。

前身頃からニョキッと、持ち上がった。

胸もとに現われた、斬新なアクセサリのような。

角度も思うまま、自由自在に、

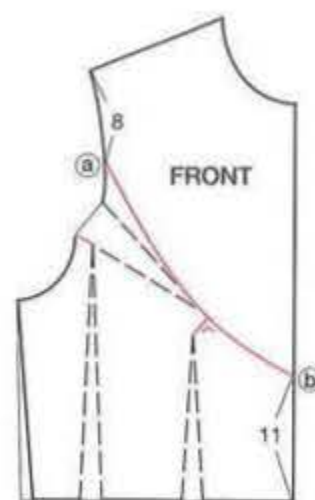
いくつかを組み合わせれば、さらに繊細な表情になる。



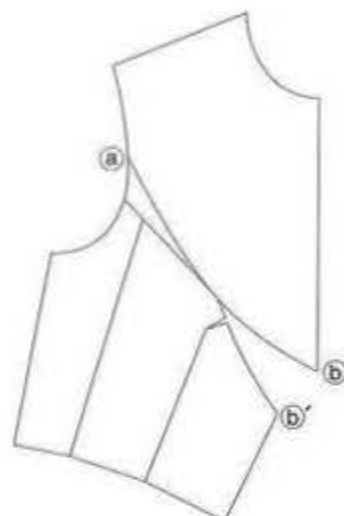
34 ページ “前にニョキッと”

直角に突出させた“ニョキッと”を前身頃に。

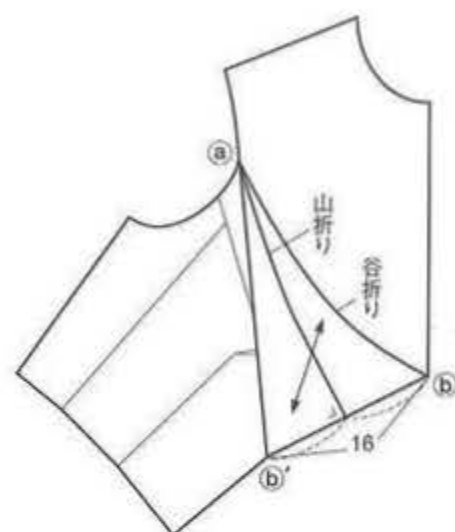
布目をバイアスにすることで、優雅に布が流れている。



① ニョキッと出したい位置を決める (a~b)。



② ダーツをすべてたたんだが、高さ (b~b') が足りない。

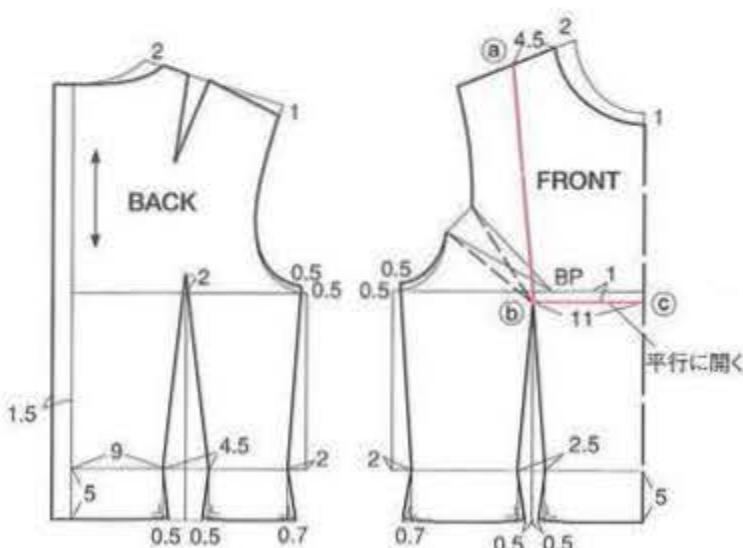


③ 高さの不足分をaを基点にさらに開く (ここでは16cm)。布目を山折り線にバイアスに通す。

35 ページ “前にニョキッと”

肩からと、胸もとの“ニョキッと”を

ネックレスのようにつなげてみた。個性的なアクセントだ。



① ウエストラインから丈を少し長くしたトップス。前身頃にa~b~cの切り開き線を入れる。アームホルダーズをbまで移動する。



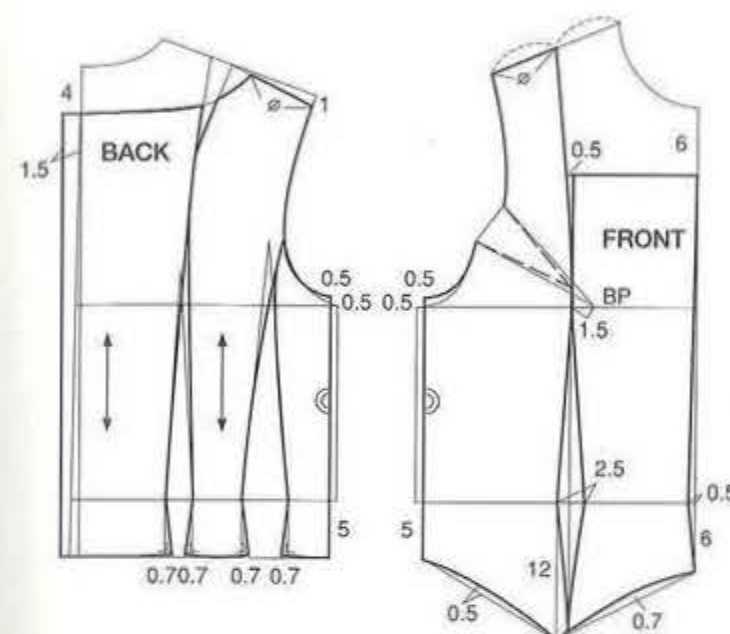
② アームホルダーズをたたむ。b~cを平行に開く (ここでは10cm) b~cとする。a~bも切り開き (ここでは10cm)、a~bとする。

15 ページ “前にニョキッと”

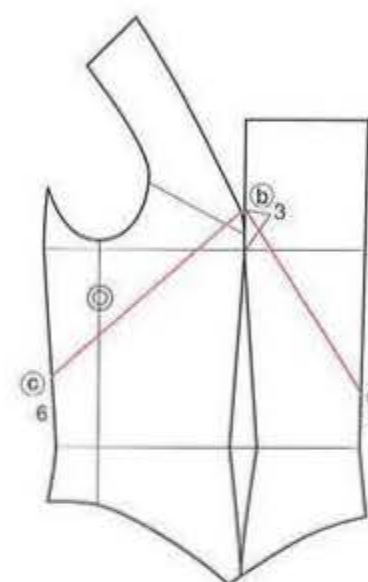
ブラウスの2枚重ね?

レイアード風“ニョキッと”。

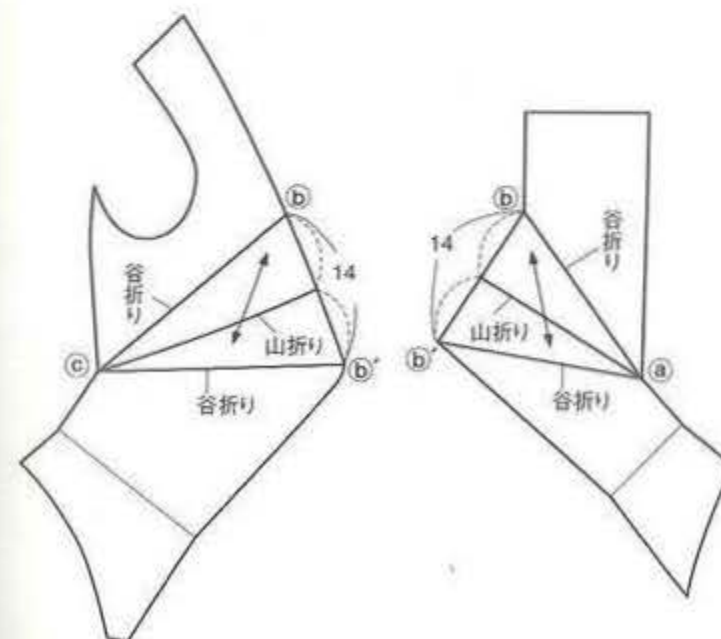
切替え線の位置、山折り線の長さにより、自由に布を突出できる。



① ベースになるブラウスの作図をする。



② 前身頃と後ろ身頃の脇を突き合わせ、アームホルダーズをたたむ。ニョキッと出したい位置、a~b~cをかく。



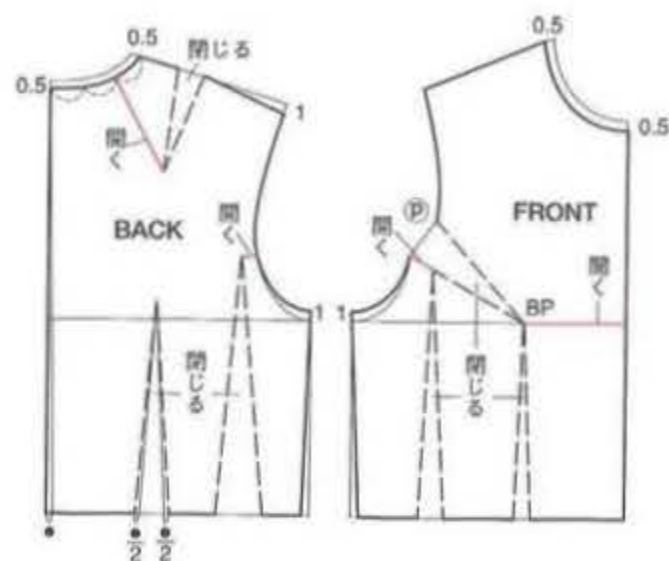
③ a~cそれぞれを基点として切り開く (ここでは14cm)。山折り線にバイアスを通す。

16 ページ “ストールみたい”

ストールをかけたように見えるのは、

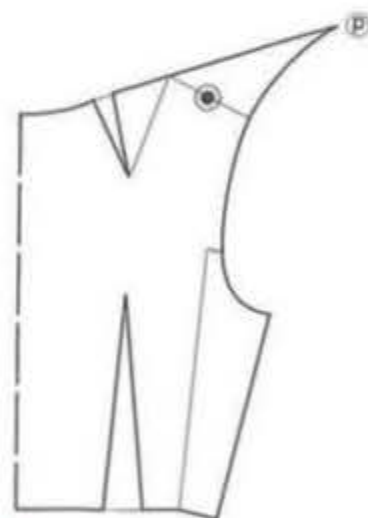
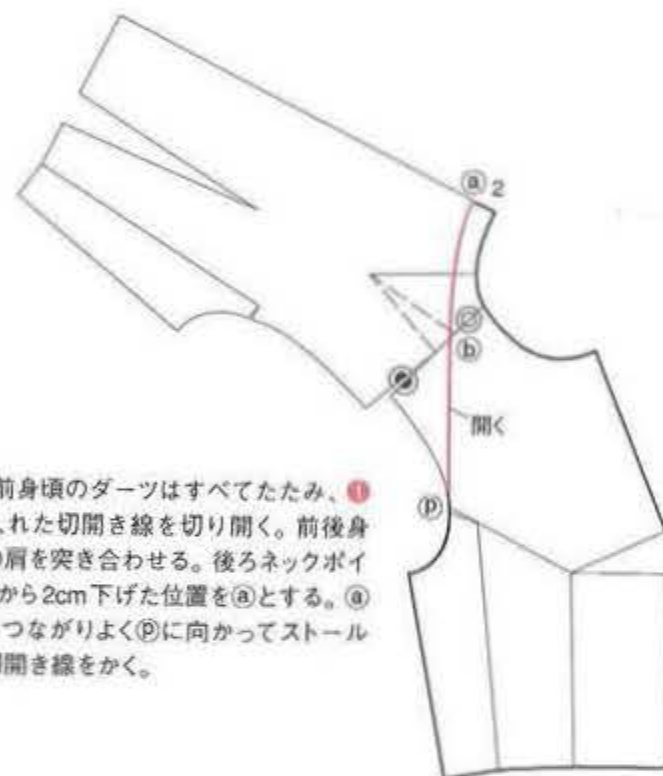
肩に添うようにニョキッと出た身頃からつながった1枚の布。

切開き線のかき方で、ストールの表情が変わってくる。

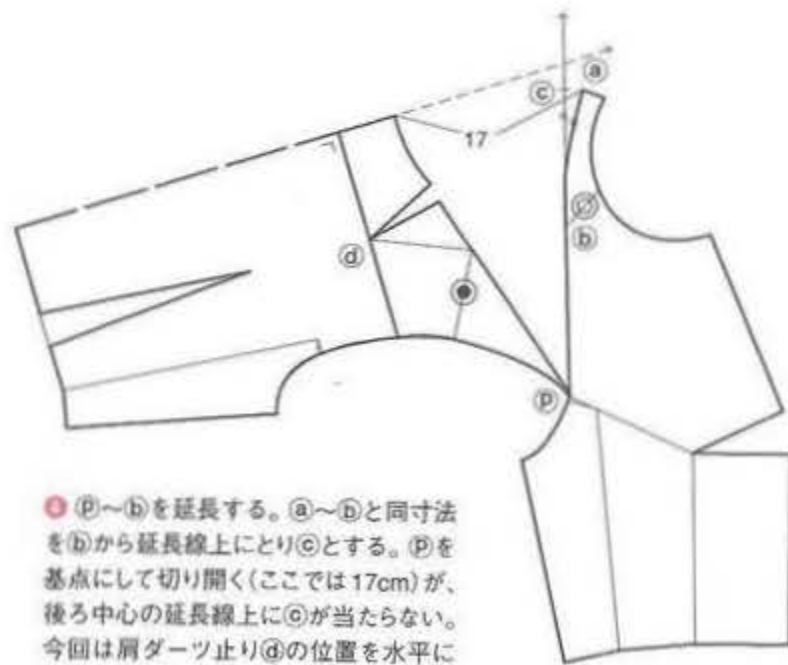


① 作図をする。衿こしがつかえるので原型から衿ぐりをカットする。前身頃は、バストポイントから水平に前中心に向かって切開き線を入れる。

② 前身頃のダーツはすべてたたみ、①で入れた切開き線を切り開く。前後身頃の肩を突き合わせる。後ろネックポイントから2cm下げた位置を③とする。③からつながりよく④に向かってストールの切開き線をかく。



③ 肩ダーツは衿ぐりに移動する。残っている前後の肩を合わせる。



④ ④～⑤を延長する。④～⑤と同寸法を⑥から延長線上にとり⑦とする。⑦を基点にして切り開く(ここでは17cm)が、後ろ中心の延長線上に⑦が当たらない。今回は肩ダーツ止り④の位置を水平に切替え線を入れる。



⑤ 後ろ身頃下側のパターン。

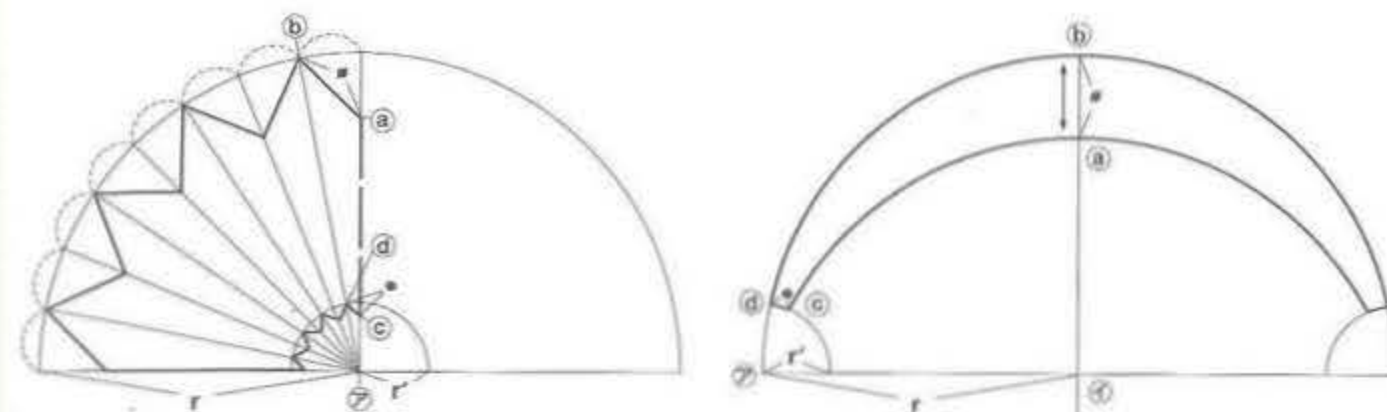
⑥ 後ろ中心の延長線が⑦に交わるまで④を基点に肩ダーツを閉じる。⑦から後ろ中心の延長線上の1cm下がった位置を⑧とする。⑧～④はダーツとして縫う。



⑦ 着用時、衿ぐりの落着きが悪い場合は、衿ぐりの伸止めを兼ねて、芯をはったり、谷折りに途中までコバステッチをかける。

球のジャバラを作る

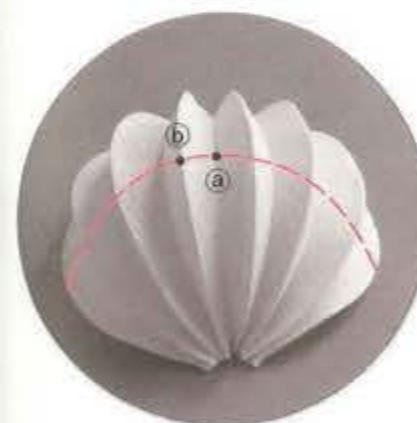
子どものころ、紙をたたんで開いて遊んだ、あの楽しさが忘れられない。
三日月形を交互に折りながら、何枚もつなげたら球になる。
シャープな陰影の半球は、繊細なディテールの袖になった。



- ① ⑦を中心に、半径 r の半円をかく。
 - ② ⑦を中心に、半径 r' の半円をかく。
 - ③ ジャバラに入れる折り目の本数で半円周を割る。
 - ④ ジャバラの凹凸の幅を決め、ギザギザにかくと断面図が完成する。
- ①~④=● ⑤~⑧=●

- ⑤ ①を中心に、半径 r の半円をかく。
- ⑥ ②を中心に、半径 r' の半円をかく。
- ⑦ ②を直上して、外周とぶつかる点を⑤とする。
- ⑧ ⑤から外周側のジャバラの幅 m をとり、⑥とする。
- ⑨ 半径 r と r' の円の交点を④とする。
- ⑩ ④から半径 r' の円周上に、中心側のジャバラの幅をとり、③とする。
- ⑪ ③④を円周とする円の中心を、④から直下した線上に求め⑧とする。
- ⑫ ⑧から弧をかき三日月形にする。この三日月形がジャバラのパターンとなる。折り目の数、パターンが必要になる。

広げた図



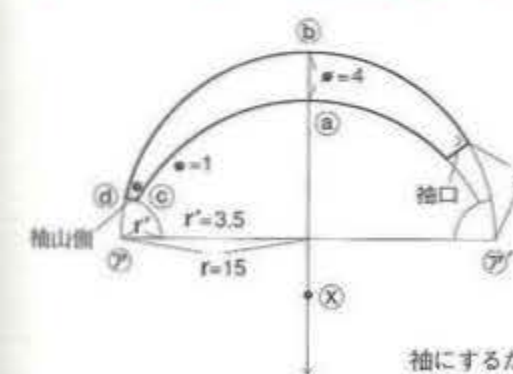
たたんだ図



斜めに引っ張った図



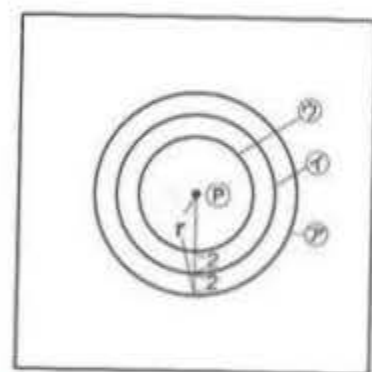
17ページ“球のジャバラ”



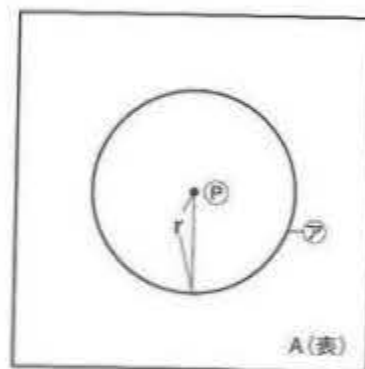
袖にするための標準的な寸法を示した。⑦から8cm上がったところから直角をとり、袖口とした。袖は三日月形のパターン16枚で構成。袖を落ち着く位置にセットする。



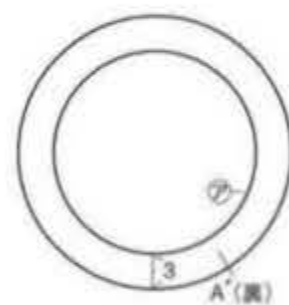
円のジャバラを作る



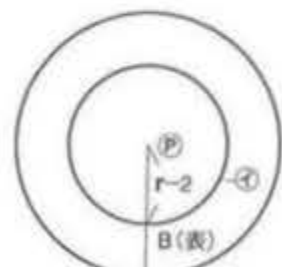
- ① ①を中心とした半径 r の円を①とする。
②を中心とした半径 $r-2$ の円を②とする。
③を中心とした半径 $r-4$ の円を③とする。



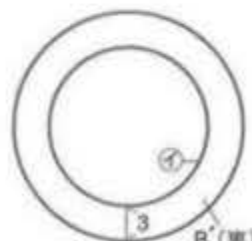
- ② 土台Aに半径 r の円②をあける。



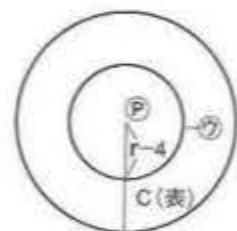
- ③ Aの裏側につける3cm幅のドーナツ形の円をA'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。



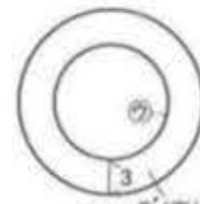
- ④ 円②とA'の外周でできたドーナツ形の円をBとする。



- ⑤ Bの裏側につける3cm幅のドーナツ形の円をB'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。



- ⑥ 円②とB'の外周でできたドーナツ形の円をCとする。



- ⑦ Cの裏側につける3cm幅のドーナツ形の円をC'とする。裏側につくのでパターンは裏が出る。

- AとA'が縫われ、A'とBが外周で縫われている。同じ繰返しでBとB'、CとC'がジャバラに縫われ、構成されている。

18ページ“円のジャバラ”

円が少しずつ小さくなって、だんだんずれて……

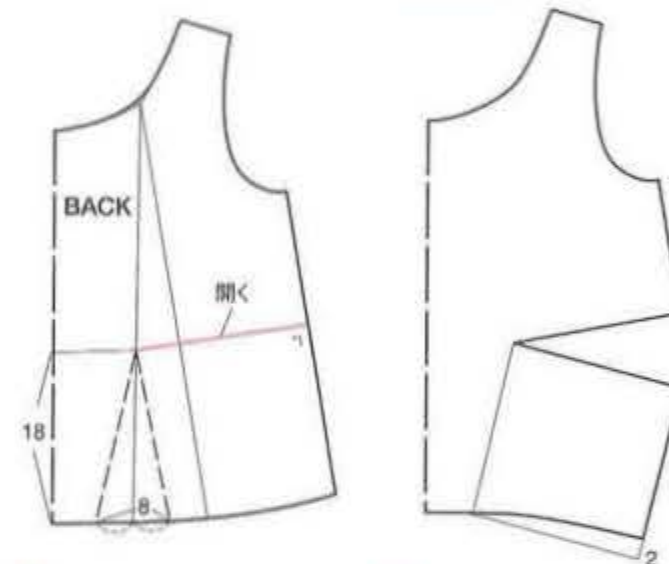
奥のほうへ行くにしたがい、トンネルのように消えていく。

くびれた後ろのウエスト付近のジャバラのトンネルは神秘的で、

一瞬、体に穴があいてしまったように感じる。

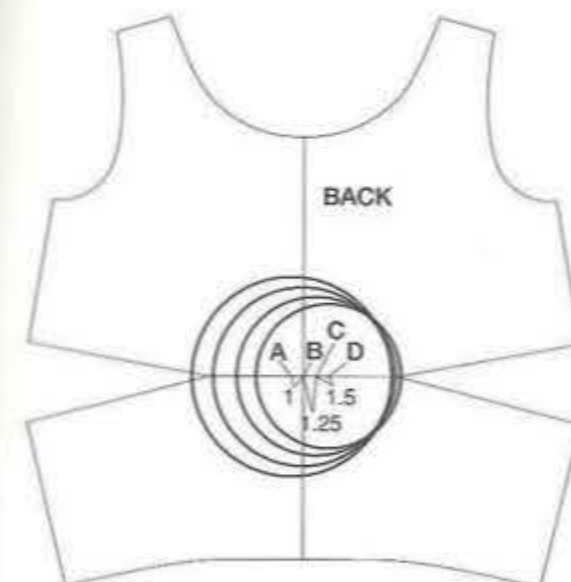


- ① 土台になる身頃の作図をする。後ろ身頃は体から離すため、切り開いてゆとりを出した。後ろにデザインポイントとなるジャバラがあり、重みが出るので前の衿ぐりを中心で上げた。



- ② 裾でダーツのようにたたむことにより、ふくらんだシルエットを作る。

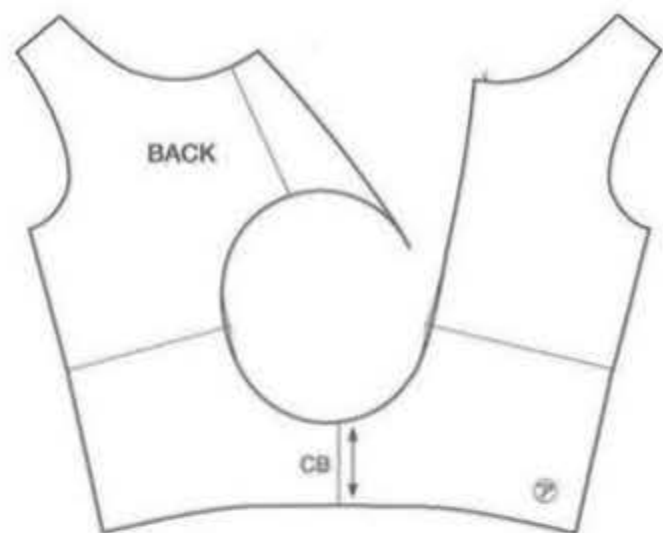
- ③ 裾をたたんで脇で開き、ダーツにする。裾は前身頃の脇丈と同寸にして裾線を書く。



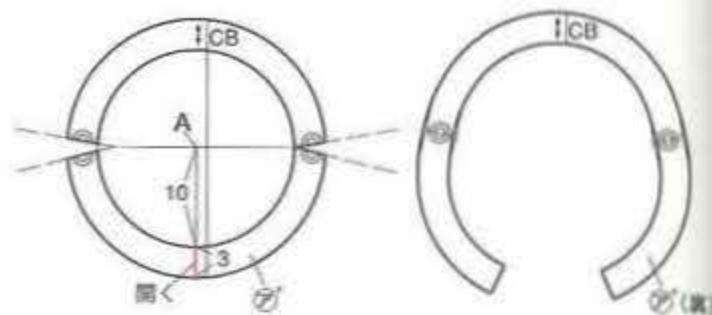
- ④ 左右のダーツ止りを結び、A～Dを中心にした円を書く。中心を移動させることで円が右に動く効果を出す。Aを中心半径10cmの円を書く。Bを中心半径9cmの円を書く。Cを中心半径8cmの円を書く。Dを中心半径7cmの円を書く。それぞれの円が胸ぐせダーツにかかることにより、ジャバラが立体的になる。



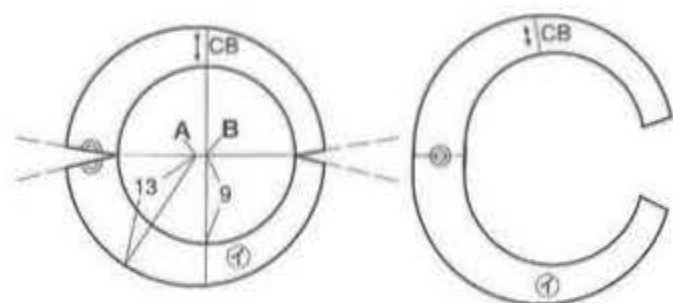
- ⑤ Aを中心半径10cmの円を書く。ダーツはたたみ、衿ぐりで切り開く。



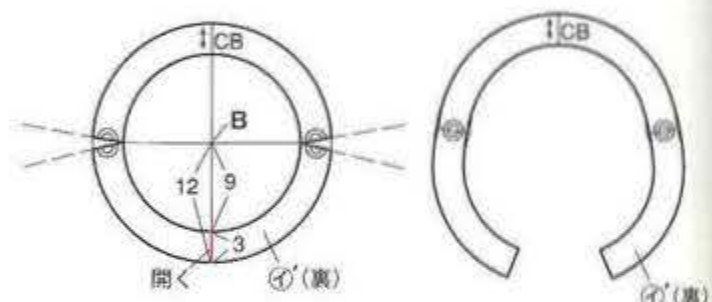
① 円のラインを訂正する。後ろ身頃を②とする。



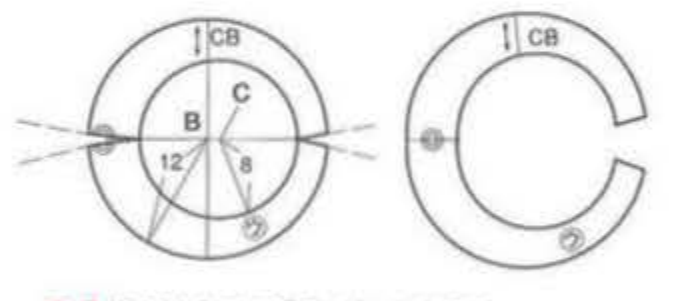
② ①の裏側に見返しのよう、ジャバラを作る。Aを中心に3cm幅の奥行きをつけて、半径13cmの円をかき③とする。③のダーツを突き合わせて円の底で切り開き、縫い目とする。円のラインをつなぎよく訂正する。③は裏側につくのでパターンは裏が出る。



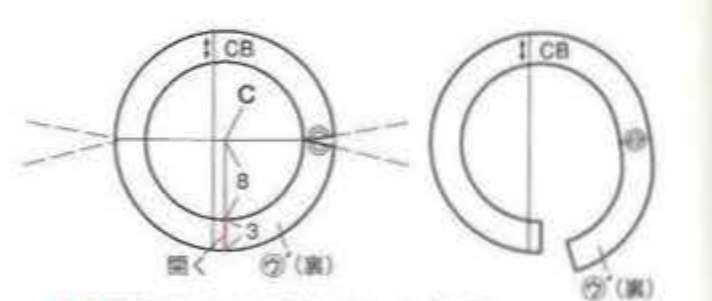
③ Bを中心に半径9cmの円をかく。③とつなげるため、③の外円と同じ大きさの円をかく(半径13cmの円)。縫い目を目立たせなくするため、はぎ目は脇にとった。ダーツを突き合わせてラインの訂正をする。



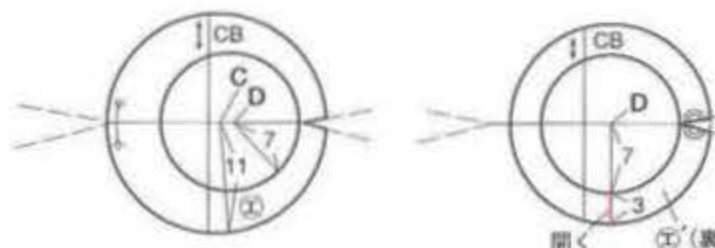
④ Bを中心に半径12cmの円をかく。そのうち3cmはジャバラの奥行き幅である。③と同様に④のパターンができる。



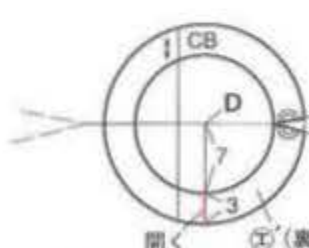
⑤ ③と同じようにして⑤のパターンを作る。



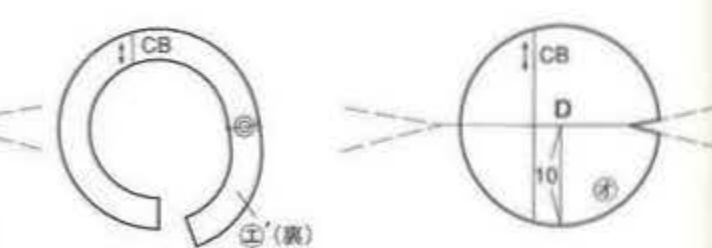
⑥ ④と同じようにして⑥のパターンを作る。



⑦ ⑤と同じようにして⑦のパターンを作る。



⑧ ⑥と同じようにして⑧のパターンを作る。

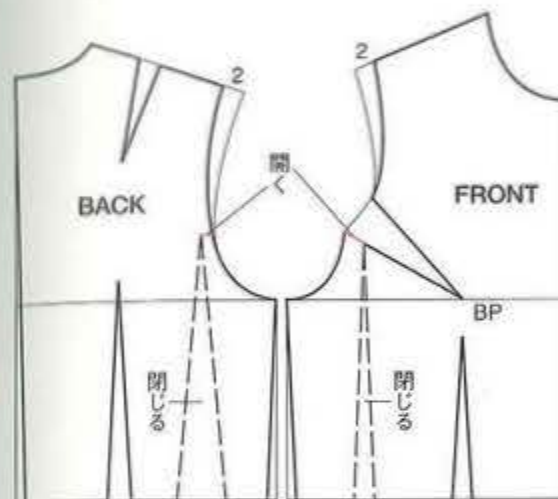
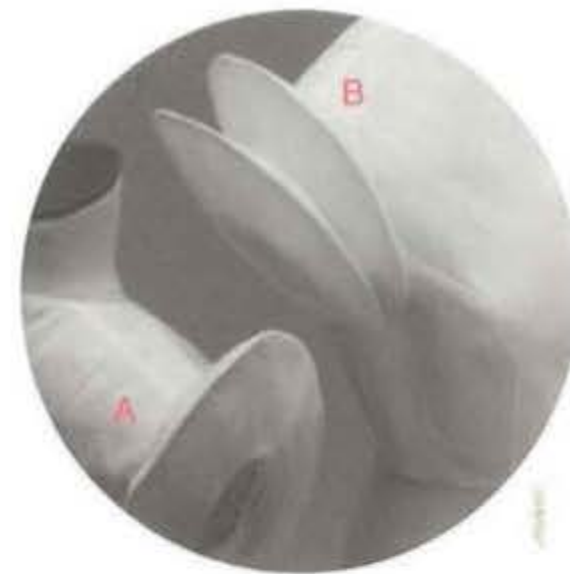


⑨ ⑧の外円と同じ大きさの円にし、⑨とする。

●縫い方は②と③、④と⑤、⑥と⑦、⑧と⑨を中表にして内側の円どうしを縫い、表に返す。次に②と④、③と⑥、⑤と⑧、⑦と⑨の外円を縫う。

19ページ“サークルスリーブ”

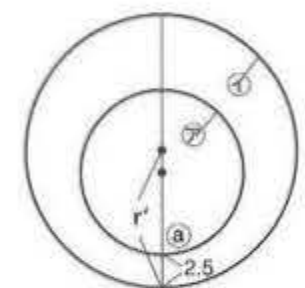
大、中、小の円で構成された立体は、水平に置くと、平たくなってしまふ、これもジャバラの一種だ。
ジャバラ一つでは、キャップスリーブ風。いくつもつなげていくと、ロボットの腕のよう。パーマネント加工できる素材で作りたい。



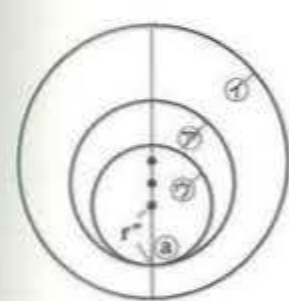
① 身頃の作図をする。肩幅が広く見えるデザインなので、袖ぐりを2cm内側に入れた。



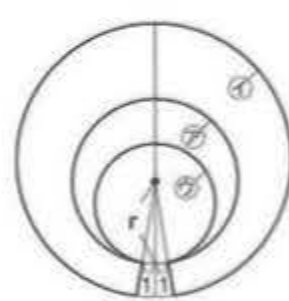
② アームホールに縫い代分2cmを足した円周になる円②をかく。これが、袖つけ線になる。
 $r = \frac{AH+2}{6.28}$



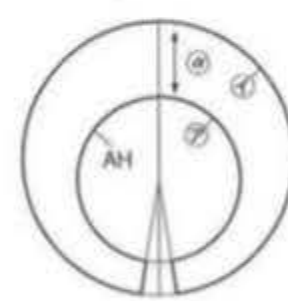
③ 袖の外円になる③をかく。好みの大きさがいいが、今回は半径r'=12cmにした。r'は袖下で②より2.5cm下がったところからとる。



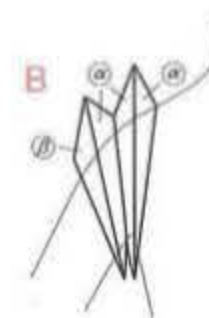
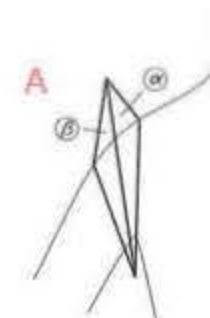
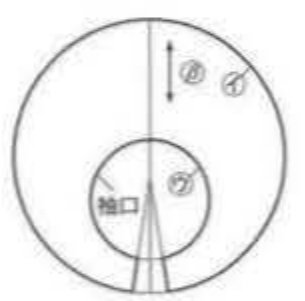
④ 袖口の円④をかく。④の半径r'を求める。
 $r' = \frac{\text{袖口寸法} + 2(\text{ゆとり}) + 2(\text{縫い代分})}{6.28}$
袖口寸法は肩線上で袖つけ線より5~6cm下がったところを1周した。



⑤ 縫い代分1cmを円④の中心からとる。



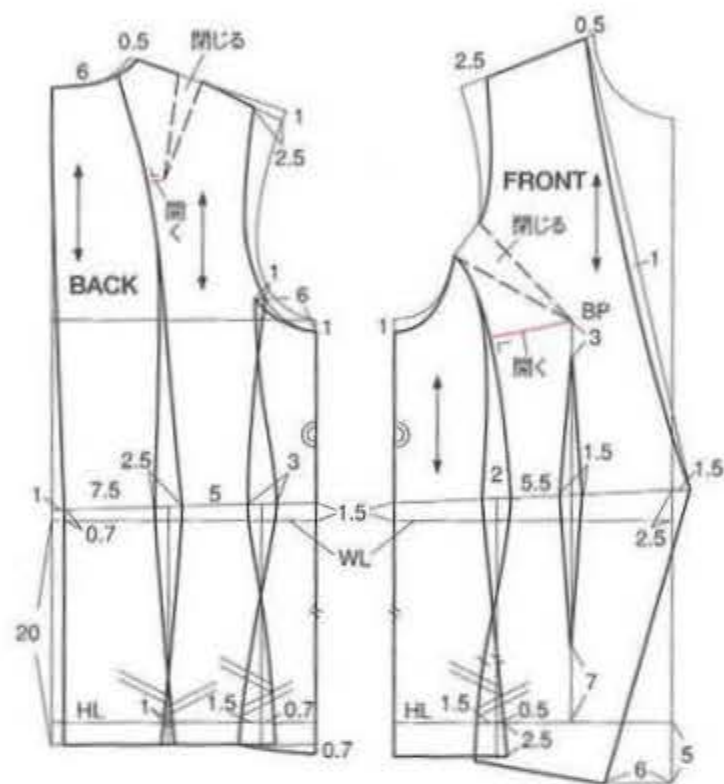
⑥ ②と④で構成されたパターンを⑥、②と⑤で構成されたパターンを⑦とする。この二つのパターンで袖ができています。



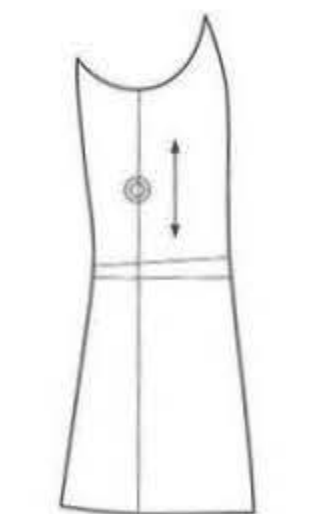
これは二つにつなげた、サークルスリーブだ。パターンはAと同じだが、②のパターンが三つと④のパターンが一つでできている。数を増やす場合は、袖口幅と袖口の円の位置を考慮する必要がある。

20 ページ“四角のジャバラ”

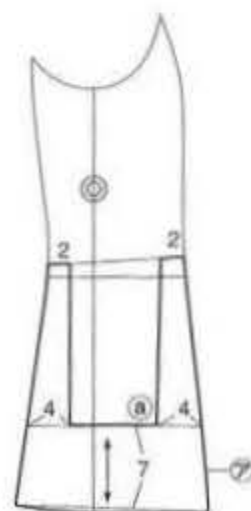
四角を重ねたジャバラは、きりとシャープな表情。
グレーディングしたように規則的に少しずつ小さくなって、
服のフォルムをいっそう美しく引き立てる。



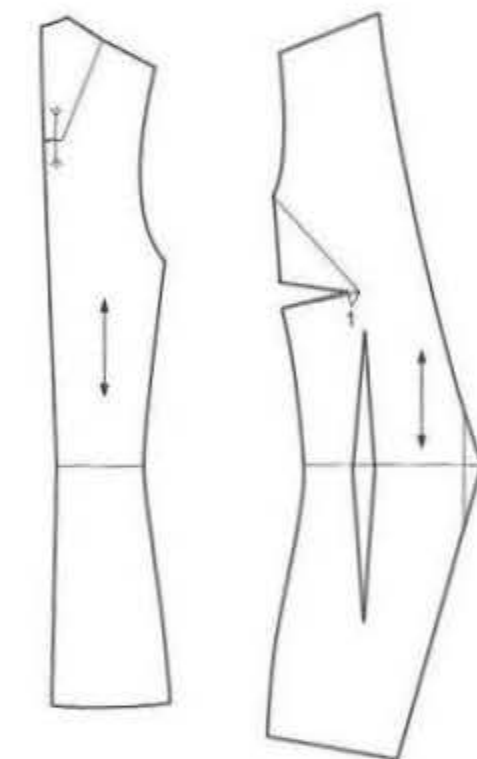
① ベストの作図をする。ウエストをフィットさせて、裾でフレアを出したデザイン。



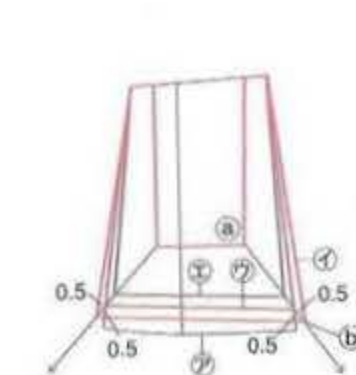
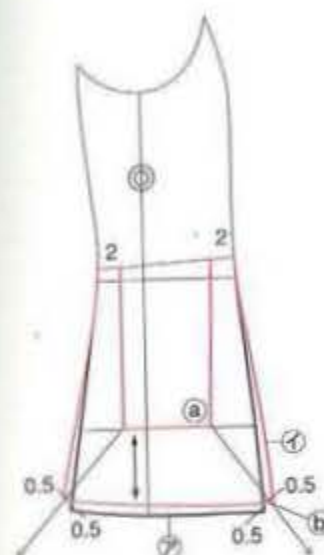
② 左の脇にジャバラを作る。



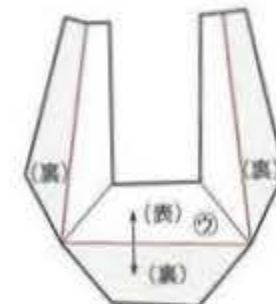
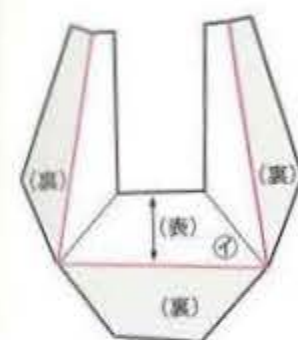
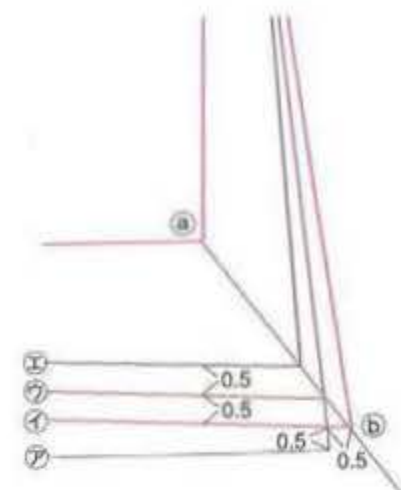
③ ジャバラのいちばん下になる脇布は、ハイウエストから下の部分になる。ジャバラにするための穴をあけ、⑦とする。



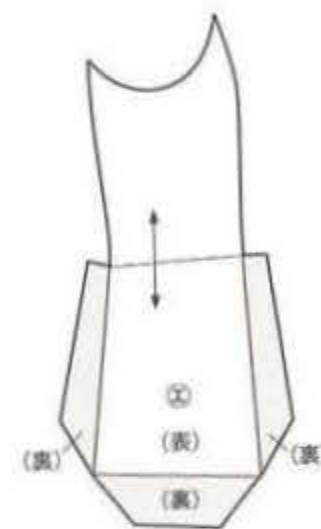
④ 肩ダーツ、胸ダーツをたたんで展開する。



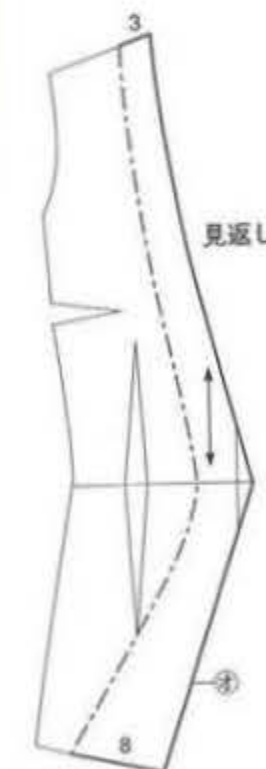
⑤ ⑦につなげる。2番目のジャバラを⑧とする。⑧は、⑦より裾から0.5cm短く、0.5cm幅を広くとり、できた角を⑨とする。⑧と⑨を直線で結ぶ。後ろ側も同様にする。⑧より0.5cm短く、⑧～⑨の線上に角をとって⑩、さらに0.5cm短くして⑪のジャバラとする。



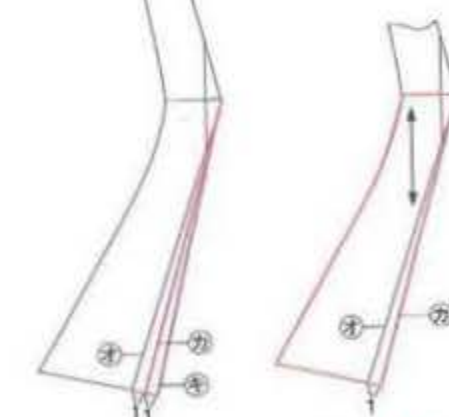
⑥ ①②③は、裾、両脇の裏側にくるジャバラを裁ち出して1枚でできている。



⑦ いちばん上のジャバラ⑧は、身頃のウエストから上の部分とパターンが一体になっている。また、⑦⑧⑨のように穴はあけない。



⑧ 見返しを作図する。



⑨ 右前端的のジャバラのパターンを作る。⑧の見返しを⑩とする。左脇のジャバラのように、上になるほど小さくなるように⑪⑫のパターンも作る。⑪⑫は縫い返すのでパターンは2枚必要。

PATTERN MAGIC

Part 2 デコレーションの仕組み

ねじったり、つまんだり、

垂らしてみたり……

布のさまざまに変化する表情を

自由に服に取り入れてみる。

サプライズだけでなく、

そこにエレガンスが表現できたときは

心からうれしい。

デコレーションの仕組みはぜひ、

原型をベースにして、写し取ってほしい。

そうすれば思いのままに、

デザイン変化が楽しめる。



ジャングル 解説64ページ



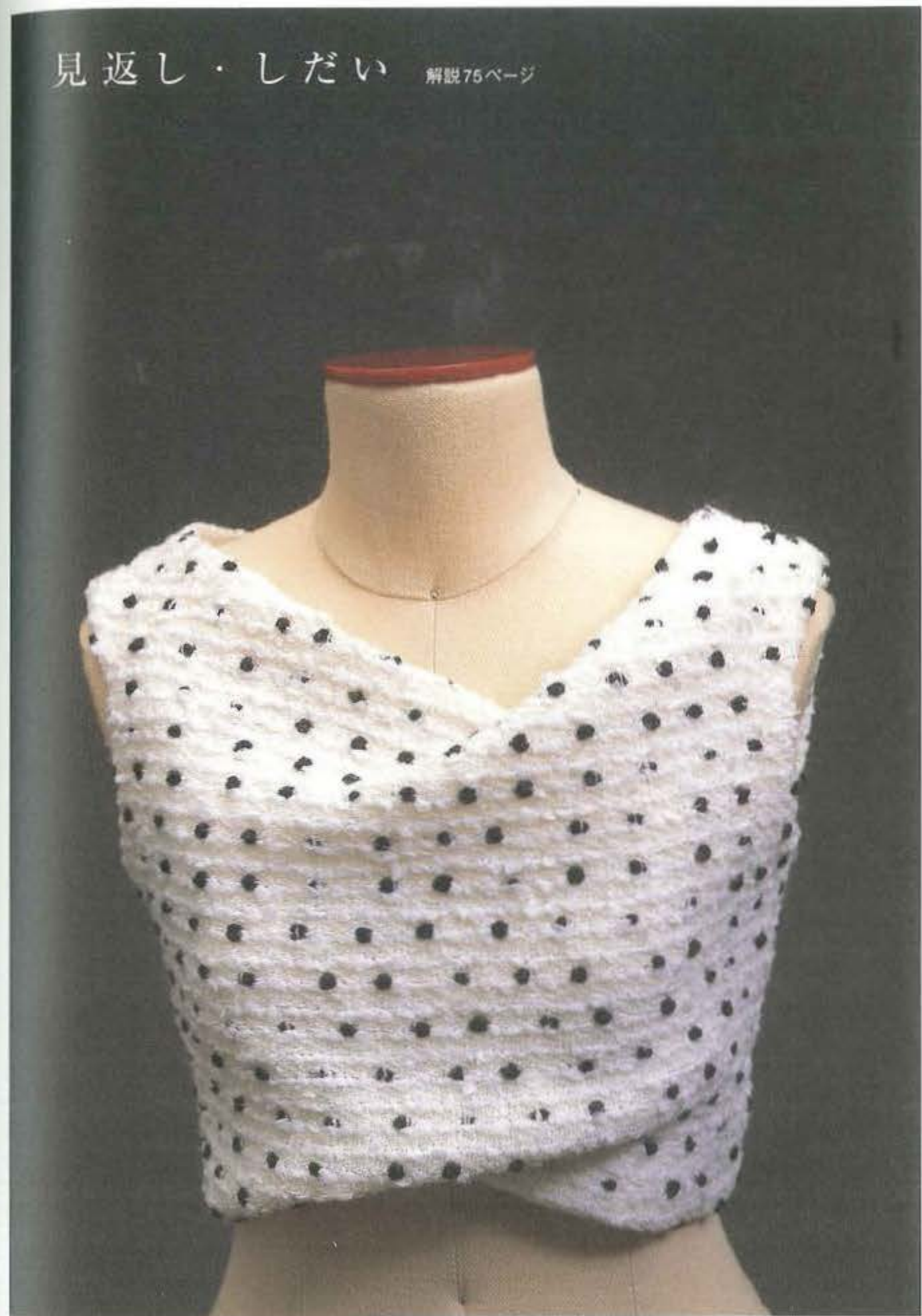
スター 解説66ページ





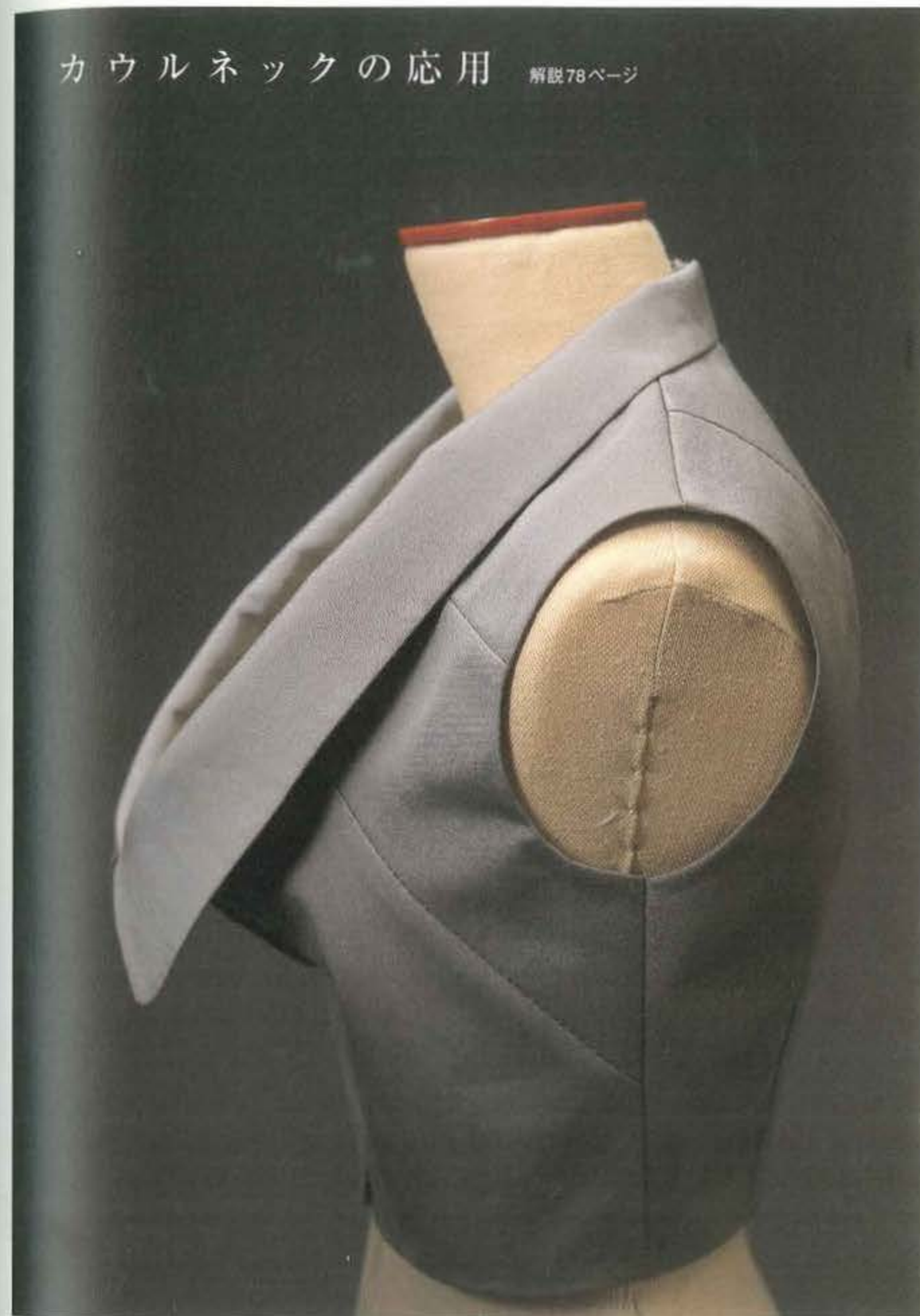
クイックターン 解説70ページ

見返し・しだい 解説75ページ

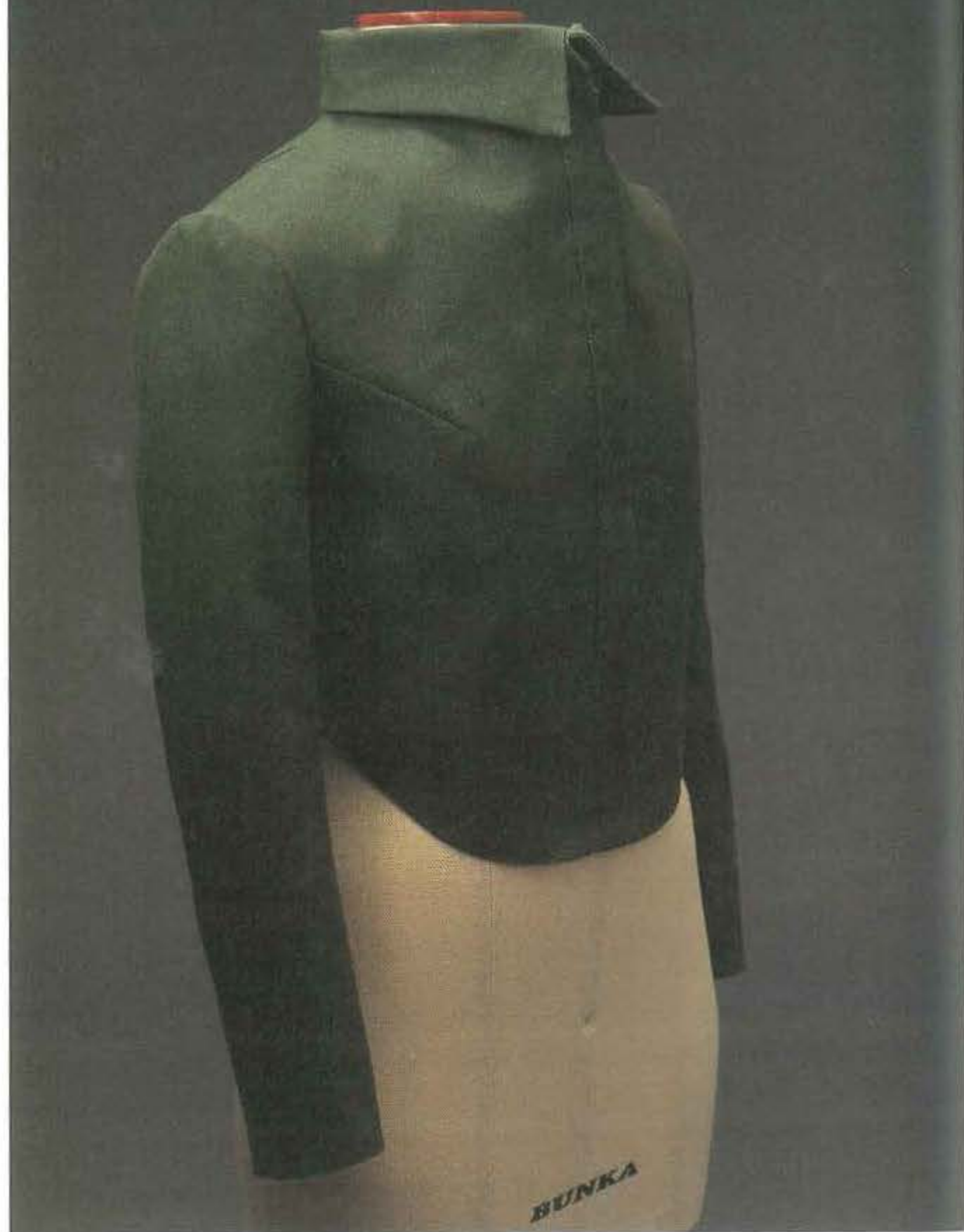




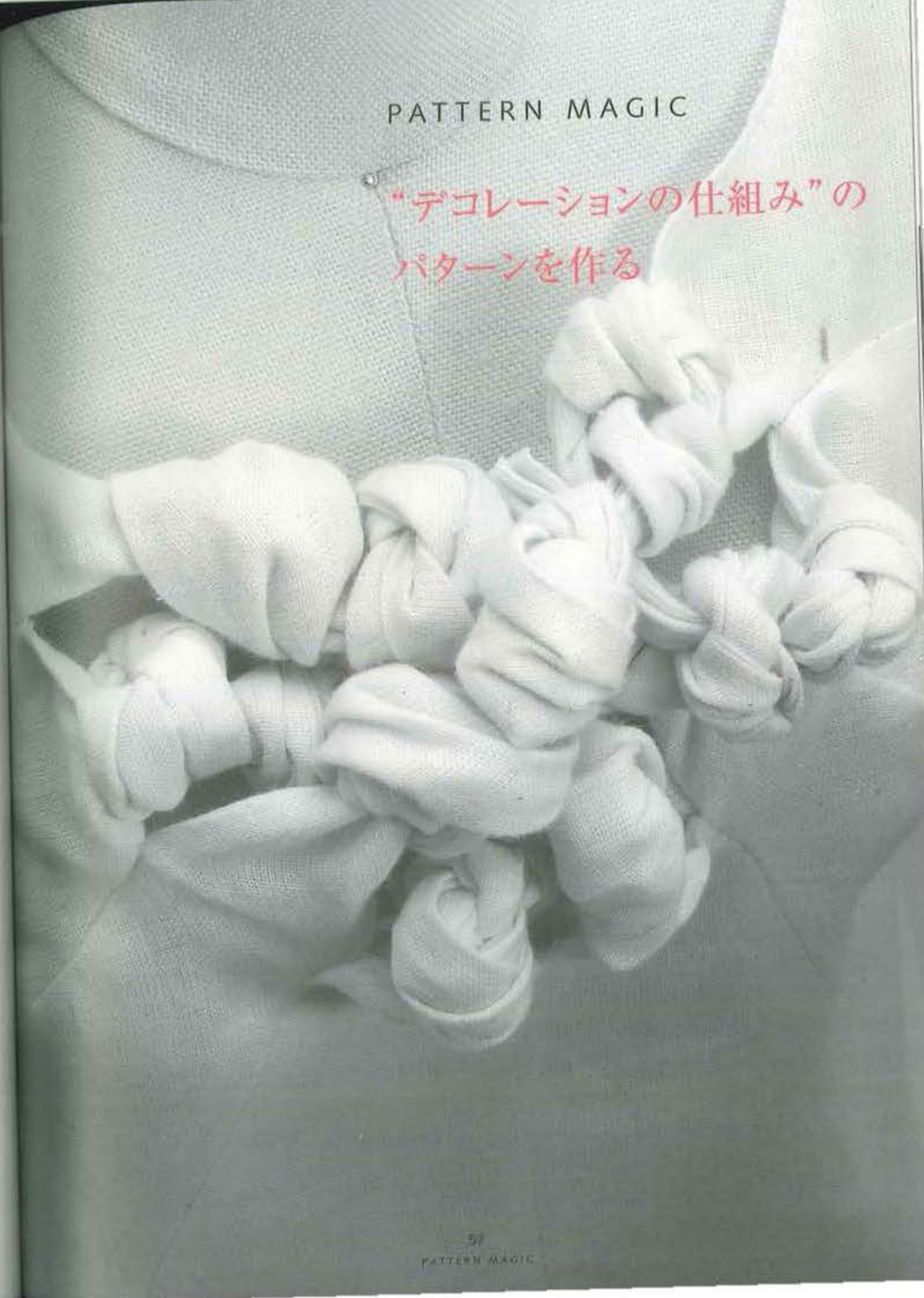
カウルネック 解説76ページ



カウルネックの応用 解説78ページ



“デコレーションの仕組み”の
パターンを作る



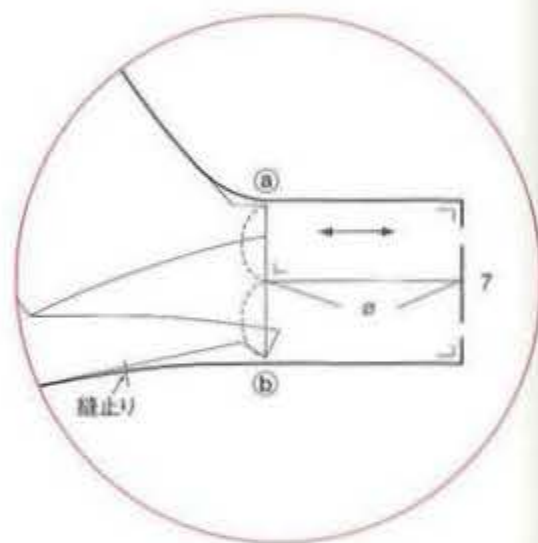
ノット

“結ぶ”という機能の形は、服の飾りとして充分美しいことに気がついた。
フォルムに自然に溶け込むように、パターンにする方法を考えてみた。

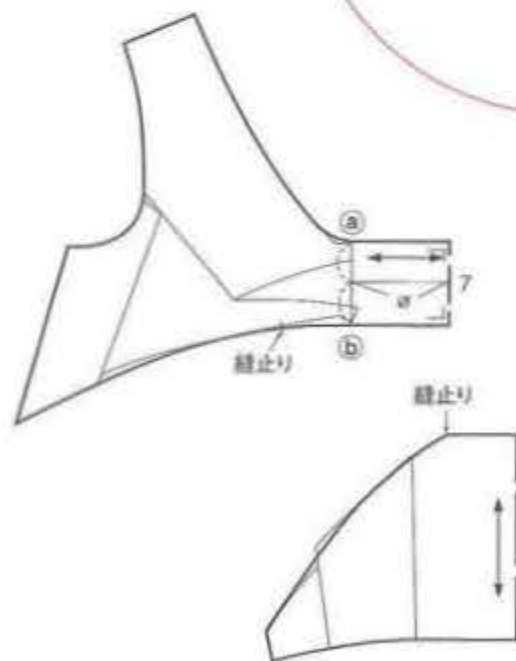
ノットを身頃に入れてみよう



- ① 出来上りと同じ状態に縫い返したひも(幅7cm)を用意し、長さをはかっておく。
- ② ひもにノットを作り長さをはかる。 ϕ =ノットの長さになる。



- ③ 前身頃の作図をする。ノットの位置(a)(b)を前中心上にとる。(a)からノットの幅2cmをとり、衿ぐりと切替え線をかく。



- ④ ダーツをすべてたたむ。(a)~(b)を2等分した位置からノットの長さ ϕ と、ひもの幅7cmをとり、つながりよく訂正する。

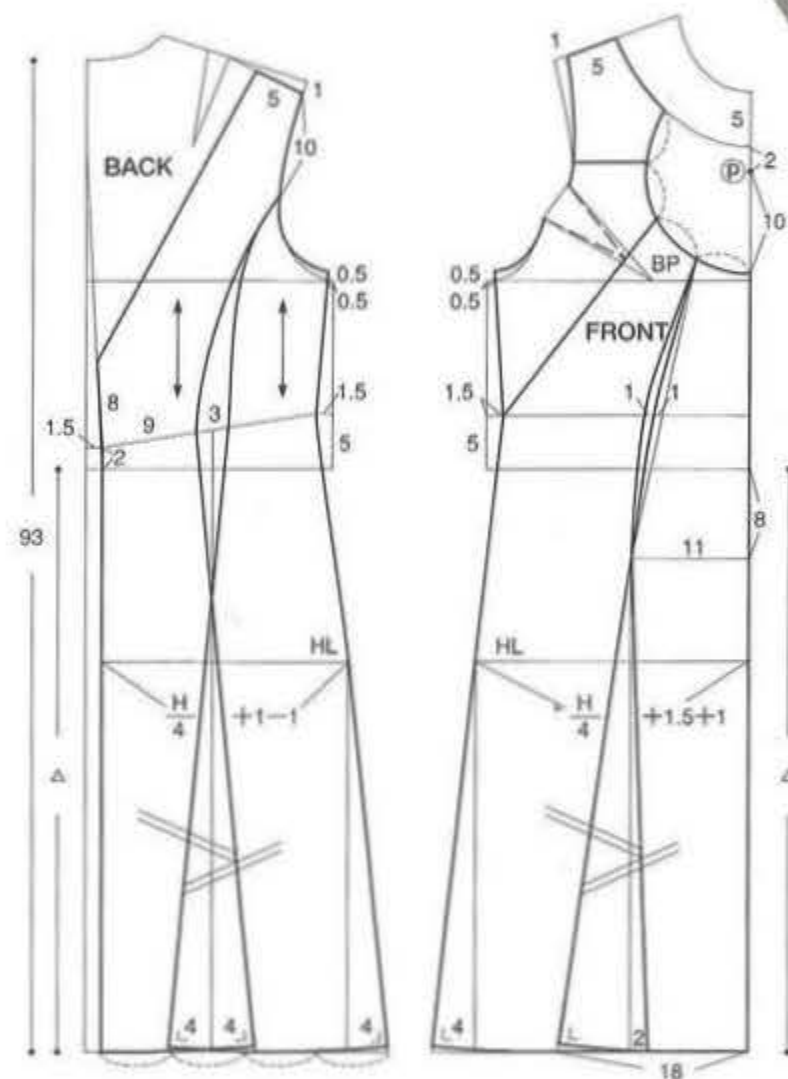


49 ページ “ノット”

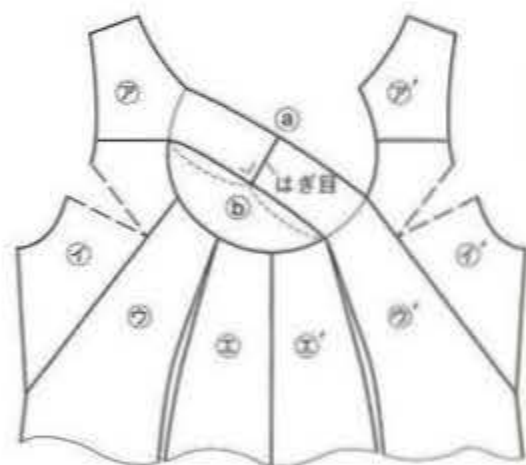
身頃にデザインされたノット(結び玉)。

鈴のように音が聞こえてきそうな気がする。

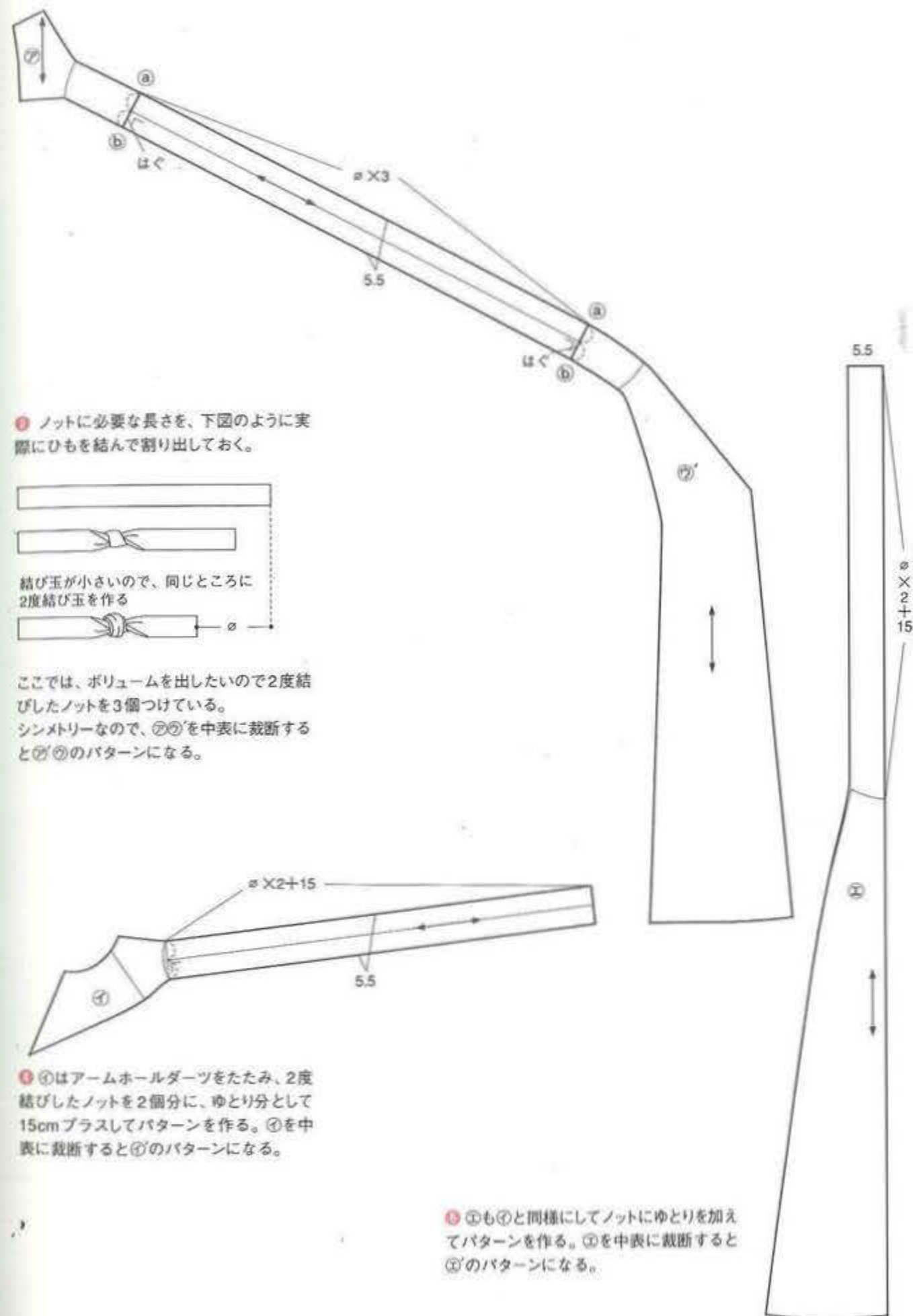
ランダムにいくつもつけたら、たくさんの音がにぎやかな、インパクトのある服が出来上がった。



● 作図をする。②を中心に半径10cmのネックラインをかき、4等分した衿ぐりに向かって身頃を四つのパーツに分ける。



③ 半身で四つのパーツに分けられた身頃を、右は④⑤⑥、左は⑦⑧⑨とする。胸もとにノットを作る方法はいくつかあるが、最初に左右からたすきのようにノットを作ったひもをかけると身頃が安定する。あとは好きなところにノットを作り、あとから止めつける方法をとってみた。まず⑦と⑨をひもでつなげる。ひもの半分の位置④～⑥にはぎ目を入れる。シンメトリなので⑦と⑨も同様にたすきがけにする。



① ノットに必要な長さを、下図のように実際にひもを結んで割り出しておく。

結び玉が小さいので、同じところに2度結び玉を作る

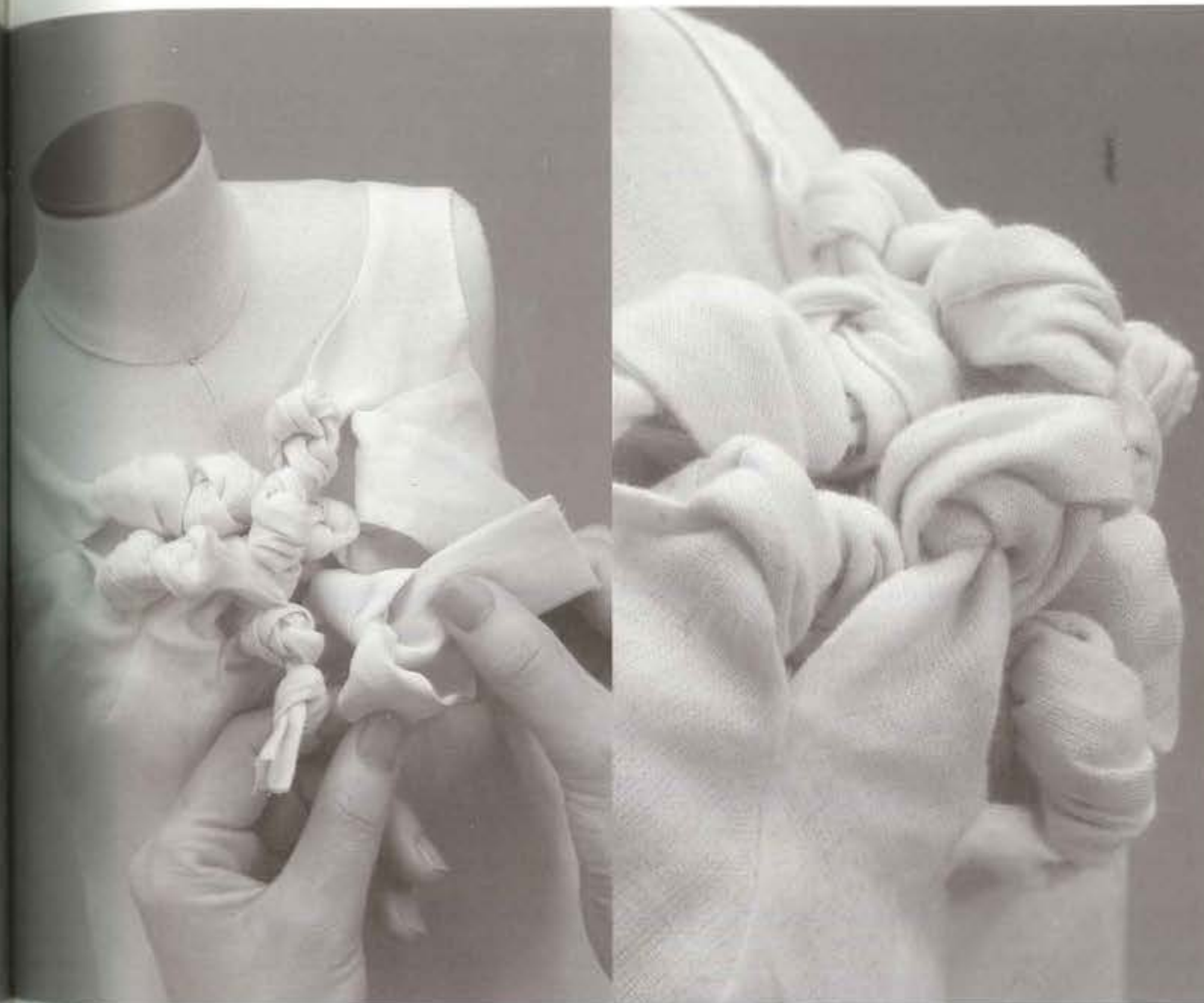
ここでは、ボリュームを出したいので2度結びしたノットを3個つけている。
シンメトリーなので、㊦㊦を中表に裁断すると㊦㊦のパターンになる。

③④はアームホルダーズをたたみ、2度結びしたノットを2個分に、ゆとり分として15cmプラスしてパターンを作る。④を中表に裁断すると⑦のパターンになる。

⑬ ⑩も⑦と同様にしてノットにゆとりを加えてパターンを作る。⑫を中表に裁断すると⑬のパターンになる。

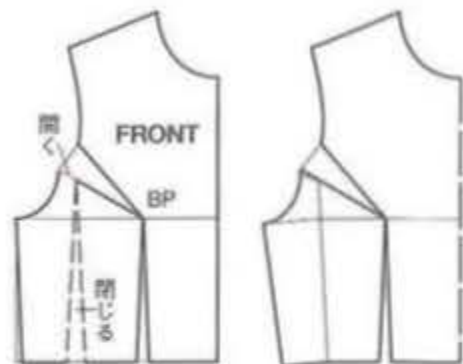


ノットのついたひもをたすきがけにした
らボディに着せ、ほかの4本はすきまを
埋めるようにノットを作り、裏から見えな
いところで縫い止める。



50 ページ“ジャングル”

前身頃の、自由な切替えのラインが交差して、
重なり合って作る縦横無尽な表情、まるでジャングルのようだ。



① 原型のダートを切り抜く。



② 最初のパーツをかく。線をかくように自由にラインを入れる。
このときダートにかかる場合は、ダートを突き合わせてラインをかく。



③ 二つ目のパーツをかく。縫止りを入れる。



④ 三つ目のパーツをかく。縫止りを入れる。



⑤ 四つ目のパーツをかく。縫止りを入れる。

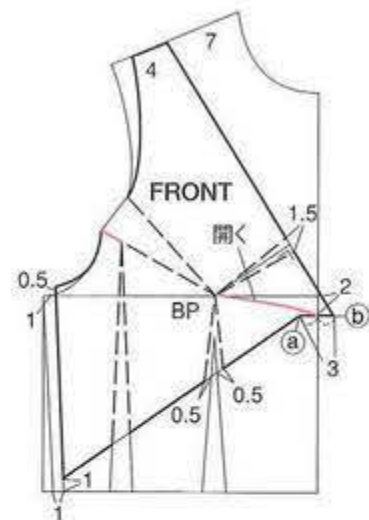
パーツの組合せ方を、いろいろ試してみるのは楽しい作業だ。右半身だけを縫い、左は好きなバランスになるよう自由に動かしてみるといい。さらに、パーツをかくときに、縫い止める距離を短くしたり、すきまを大きくあけるようにしておくと、多くの組合せ方が可能になる。



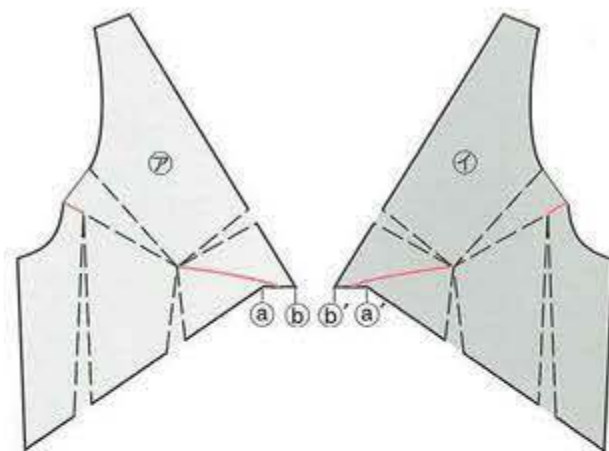
51 ページ“スター”

胸もとでねじって、伸縮素材のように体にフィットさせてデザインした。

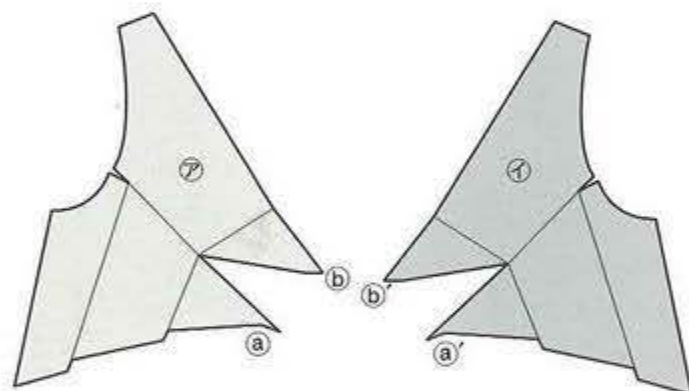
胸もとの放射状の布の重なりが、星(スター)のペンダント。



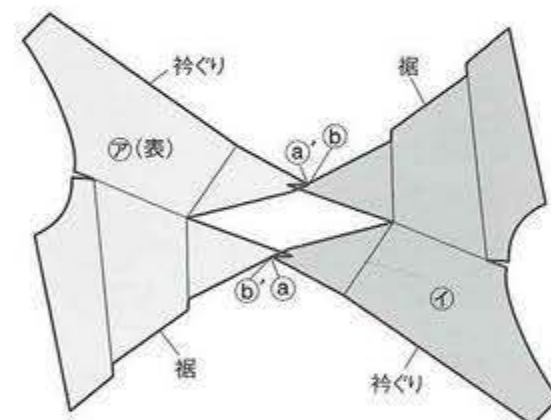
① 作図をする。体にぴったりと合わせると衿ぐりやアンダーバストに余りが生じるので、たんで胸ぐせに追加する。



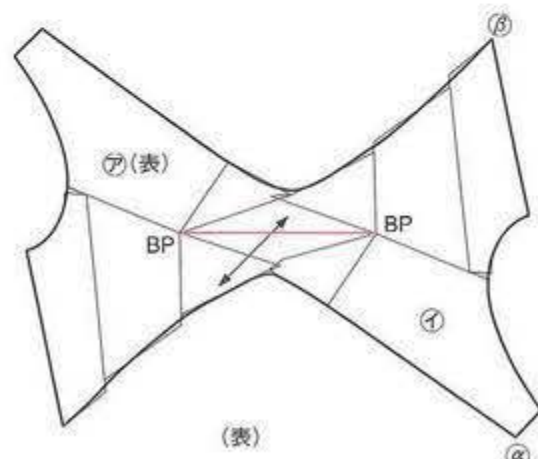
② 左右のパターンを⑦と①に分ける。⑦のa bを、①のa' b'とする。



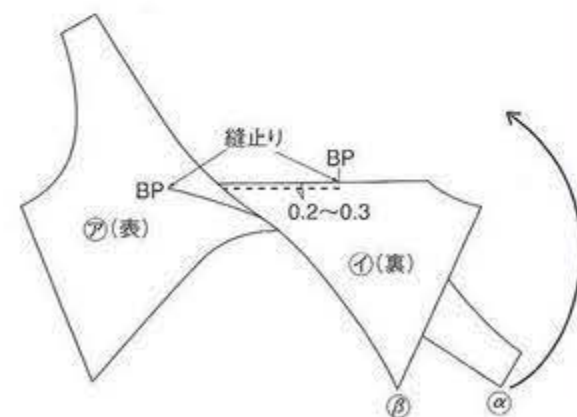
③ ダーツはすべてたむ。



④ ①は上下を逆にする。⑦のbと①のa'、⑦のaと①のb'を合わせる。



⑤ 衿ぐりと裾線をつなぎよくかく。⑦と①のバストポイント間を結ぶ。①の肩先を⑥、裾端を⑦とする。



⑥ ⑥を手前に折る。バストポイント間にコバステッチをかける。これは、ねじったときの折り山をはっきりをつけるため。⑥を後ろから回してねじる。ねじっているので④は裏面が出る。

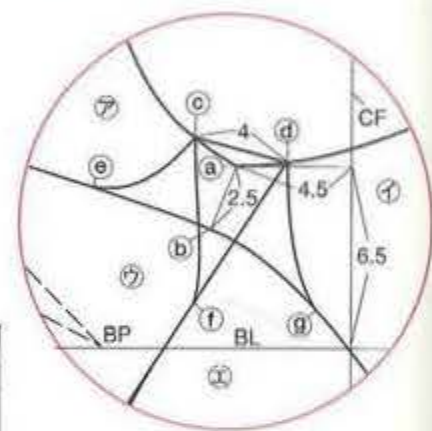
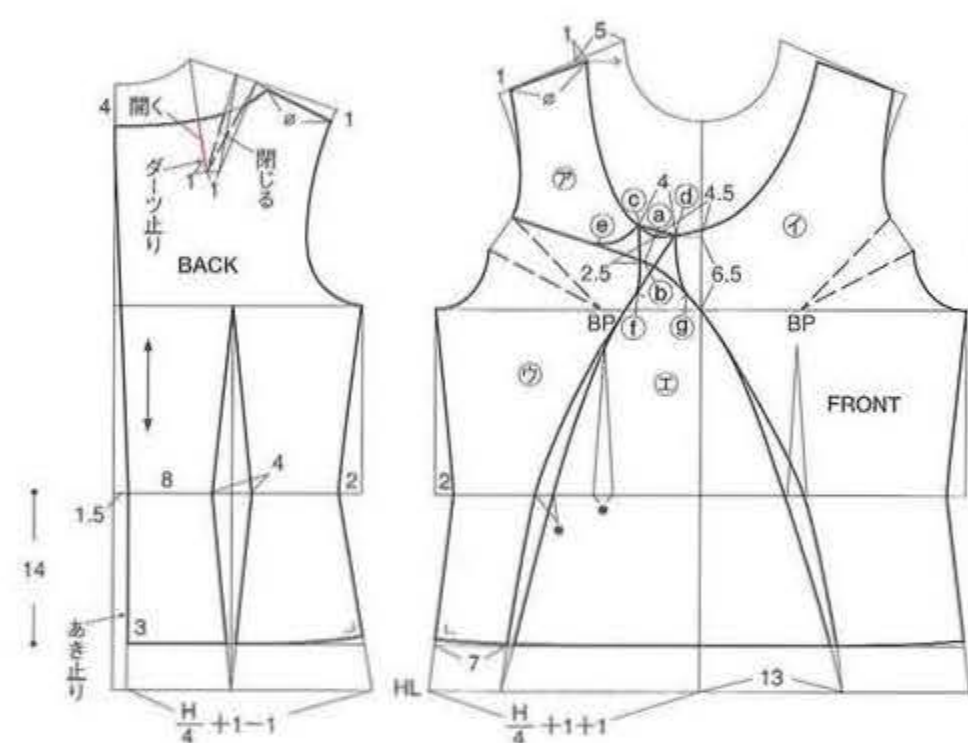


ドレープを クイックターン

水泳の折返し点で行なうクイックターンのように、
ドレープを回転してターンさせたら、より深い陰影が加わった。



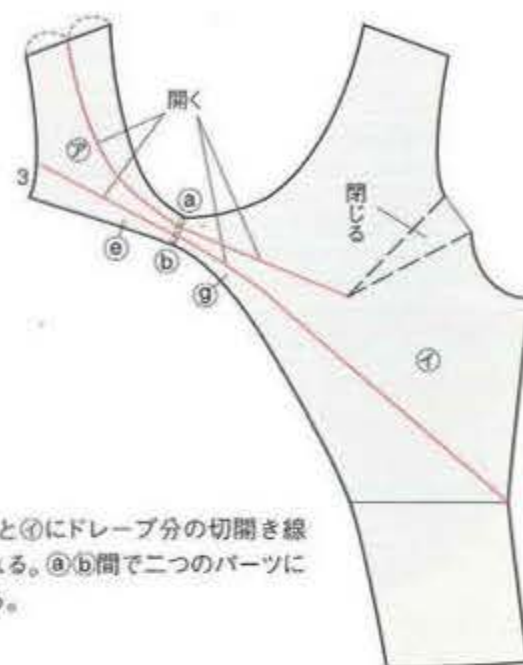
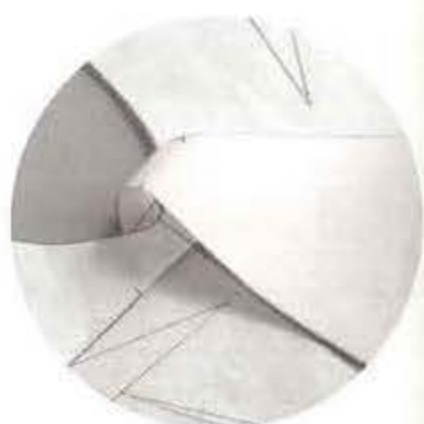
クイックターンの仕組みを知ろう



① 作図をする。前身頃にギャザーの寄っていない状態の切替え線を入れる。
まず②③をかき、④⑤をまたいだ②③を自由に絵をかくように入れる。ウエストのダーツは切替え線に入れる。



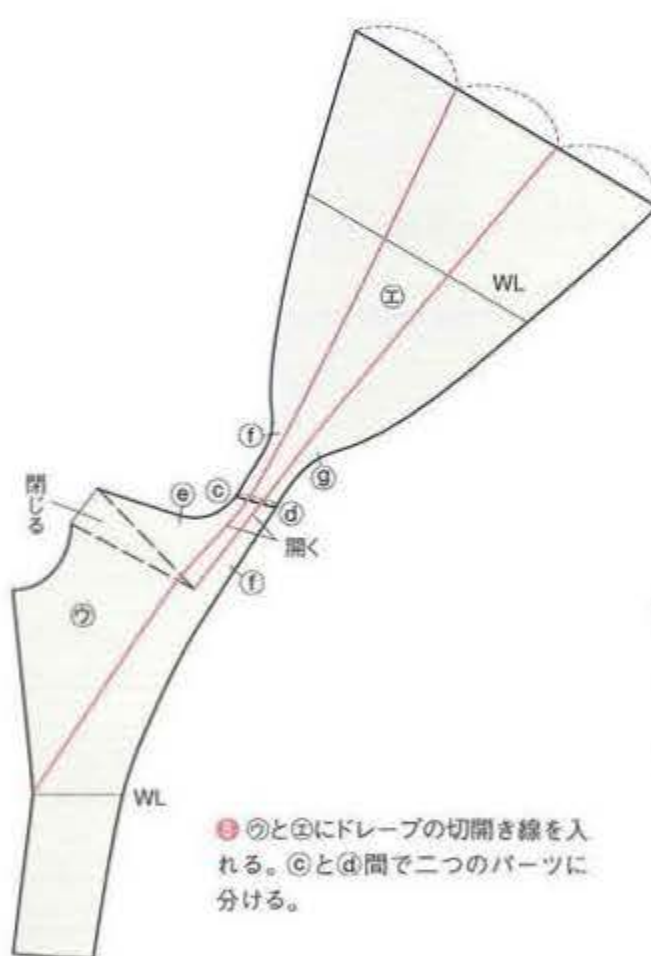
② ②がターンして③につながっているのがわかる。



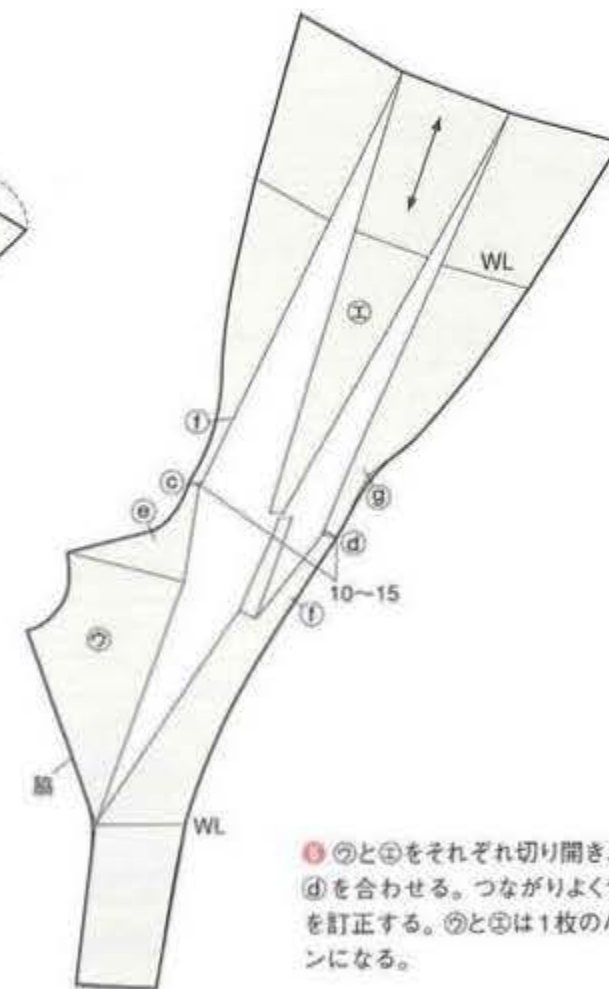
② ②と④にドレープ分の切開き線を入れる。⑥⑦間で二つのパーツに分ける。



③ ②と④をそれぞれ切り開き、⑥と⑦を合わせる。つながりよくラインを訂正する。②と④は1枚のパターンになる。



④ ②と④にドレープの切開き線を入れる。⑥と⑦間で二つのパーツに分ける。



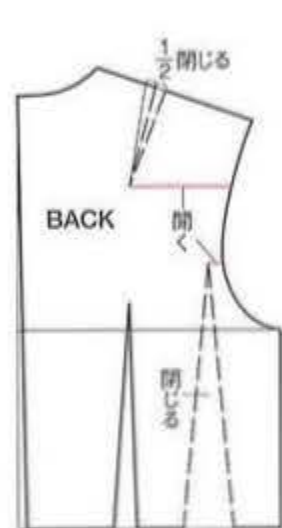
⑤ ②と④をそれぞれ切り開き、⑥と⑦を合わせる。つながりよくラインを訂正する。②と④は1枚のパターンになる。

縫い方順序

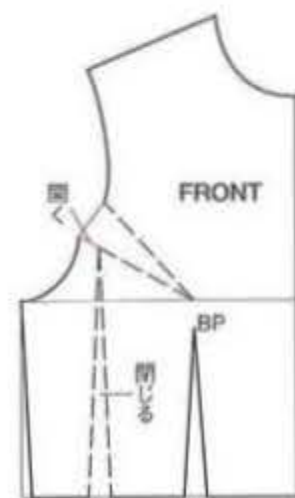
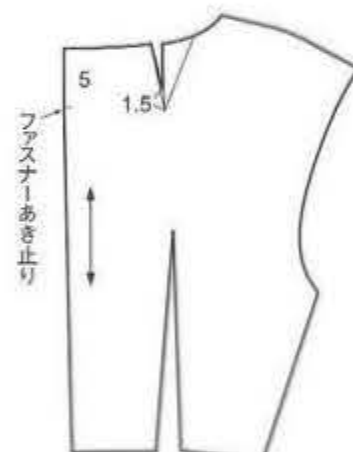
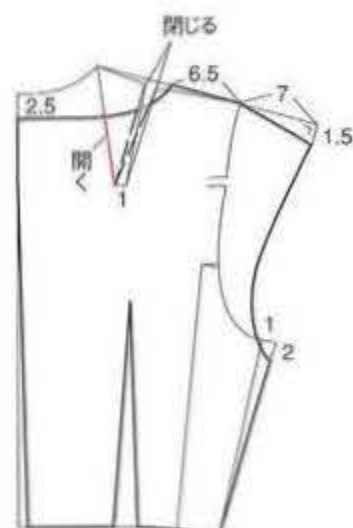
- ① ②と④を縫止り⑥まで縫う。
- ② ②を⑥～④でねじり、④⑤を縫止り①まで縫う。②は裏面が出る。
- ③ ①と⑤を縫止り⑦まで縫う。
- ④ ⑤の部分は裏面が出るので、布選びは注意したい。

52ページ“クイックターン”

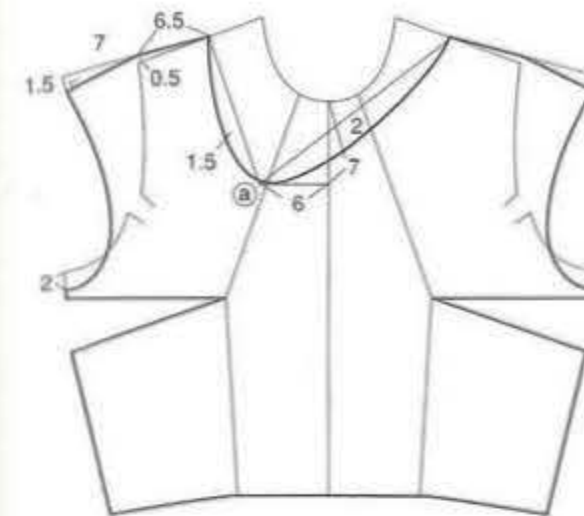
クイックターンしたドレープが、胸もとのスリットから現われた。
さらに複雑になった布の表情が美しい。



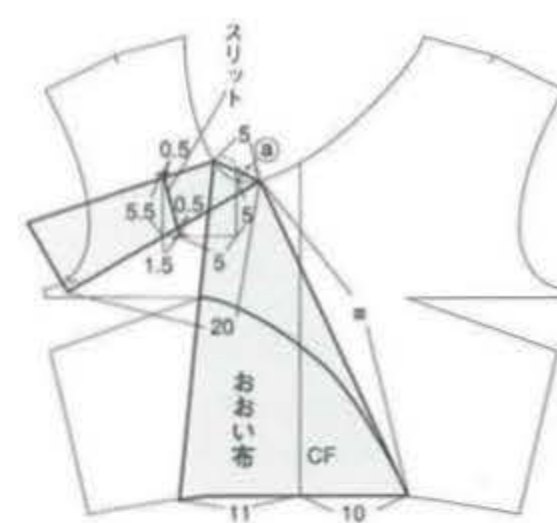
① 後ろ身頃の作図をする。



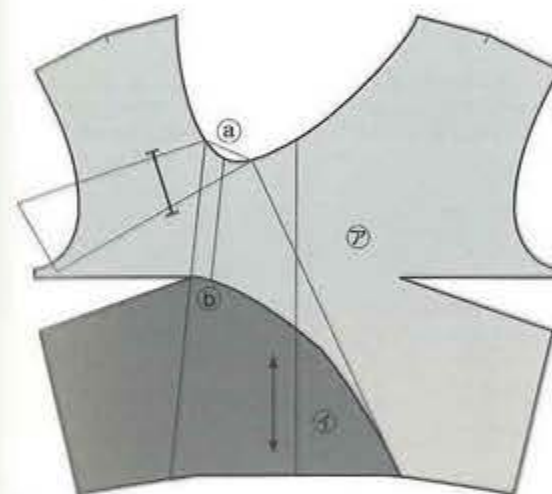
② 前身頃の作図をする。衿ぐりの大きくあいたデザインなので、前の衿ぐりの浮いてしまう分を閉じて脇ダーツに加える。



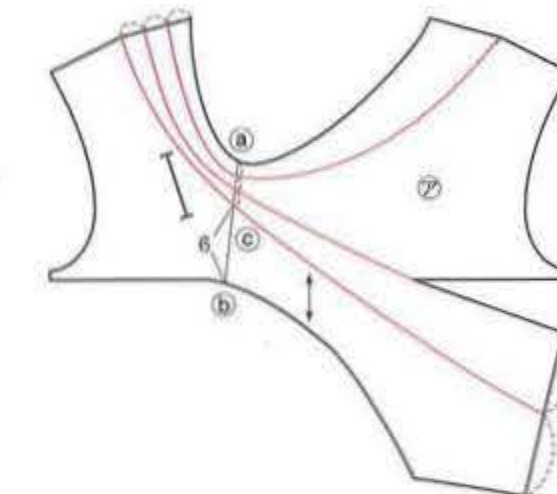
③ ダーツはすべて閉じる。アシンメトリーな衿ぐりのラインをかく。衿ぐりのいちばん深い部分を③とする。



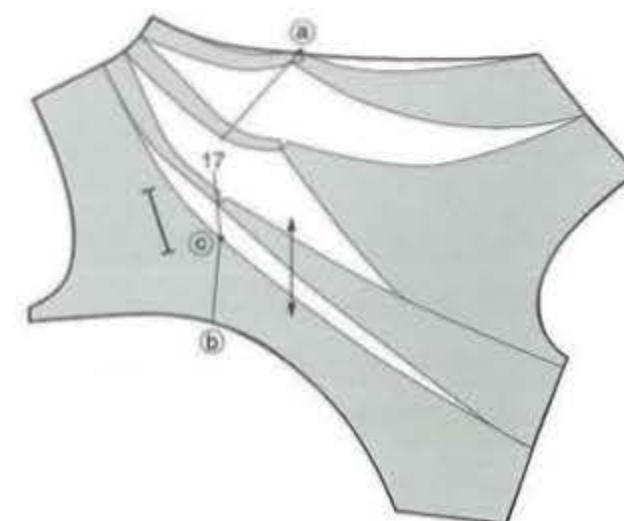
④ ウエストから衿ぐりに向かっておい布をかき、スリットの位置を決める。衿ぐりでターンさせたおい布をスリットにおさまるようにかき、おい布で隠れるように、身頃の切替え線を入れる。



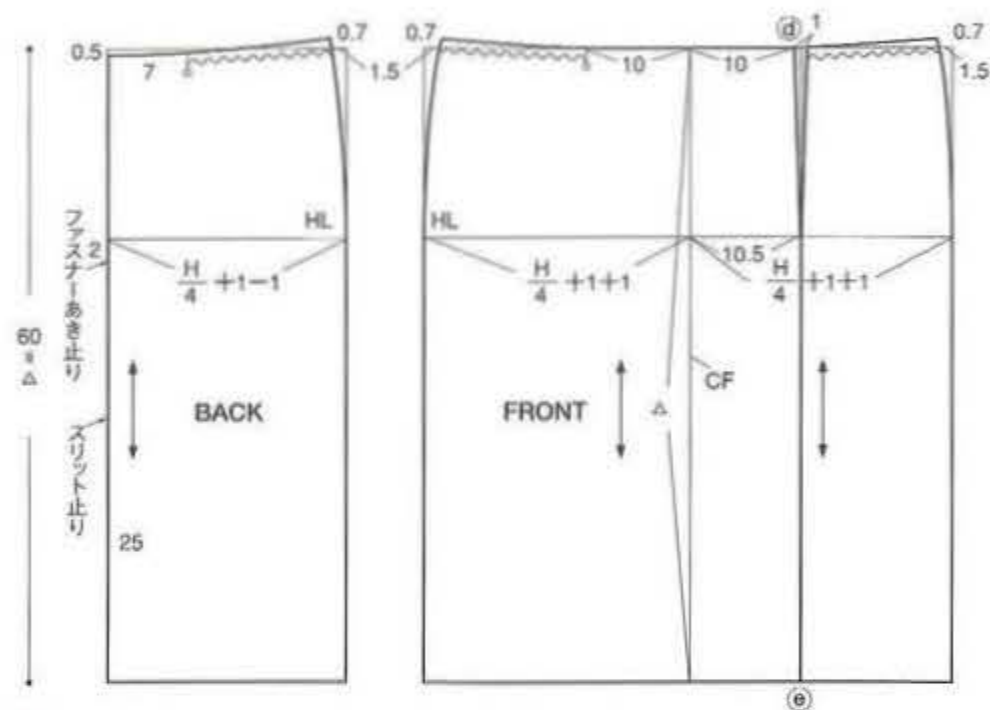
⑤ 前身頃は二つのパーツ、⑦と⑧に分かれる。⑦のaから、おい布の端に平行に⑥をとる。



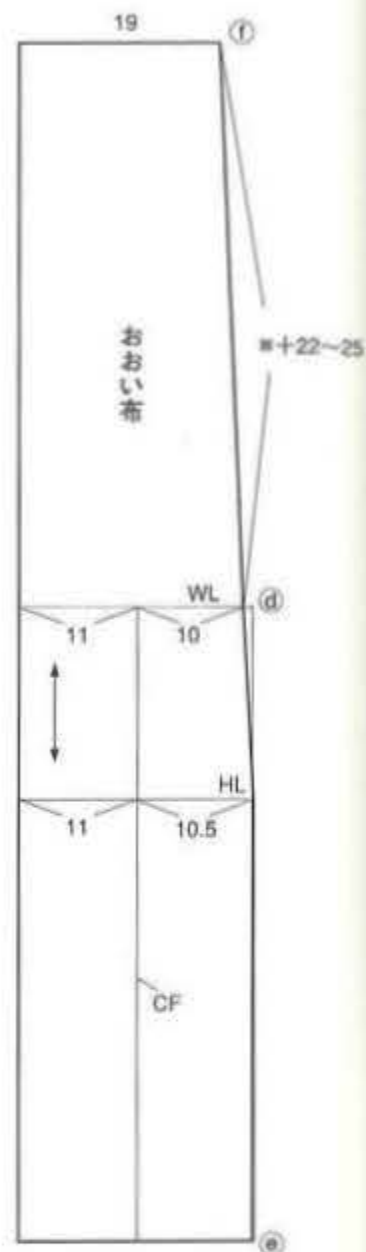
⑥ bから6cm上をcとする。a～c間を3等分し、ドレープの切開き線を、スリットの位置をはずしてかく。



⑦ a～c間を17cm開き、衿ぐり線をかく。



⑧ スカートの作図をする。



⑨ おおい布は前スカートの④～⑥に縫い込むので、スカートのパターンをベースにして作図する。ウエストラインから上は身頃から離れていて、衿ぐりでターンし、スリットから出てくる仕組みになっている。ウエストから上の長さに、④の※+22～25cmを加えたものがおおい布の長さになる。

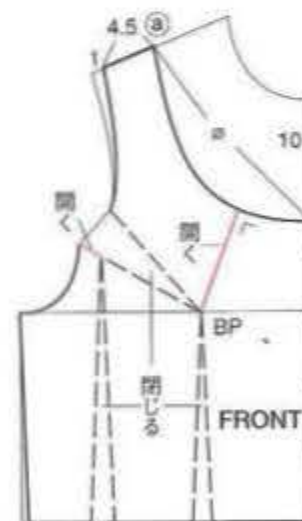


見返し・しだい

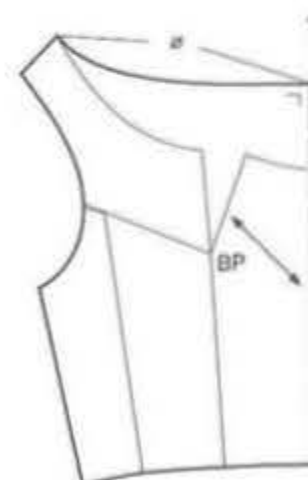
同じ身頃の同じ形の衿ぐりに、
違う形の見返しをつけてみた。
表には見えない見返しの形が、
完成した服にシルエットのように現われる。
ふだん脇役の見返しが
表の表情を決めている。



基本の前身頃

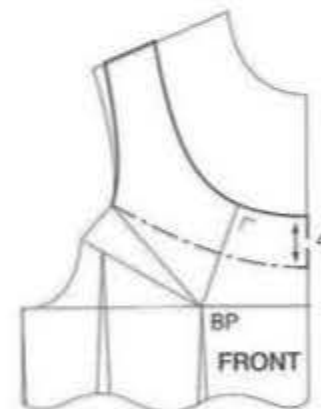


① 前身頃の作図をする。衿ぐりを丸くかき、バストポイントから衿ぐりに向かって直角に切開き線を入れる。衿ぐり寸法を②とする。



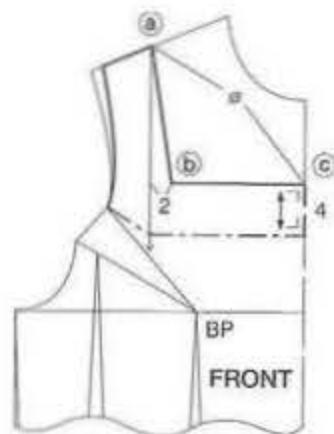
② ダーツをすべてたたみ、衿ぐりで開く。②寸法になるように、前中心を延長した線上に、身頃の衿ぐりのラインを引く。柔らかい表情を出したいので、布目は前中心でバイアスにするのがポイント。

見返しがカーブ



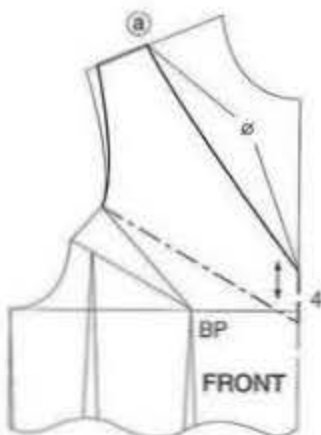
切り開く前の身頃の衿ぐりに見返し線を入れる。

見返しがスクエア



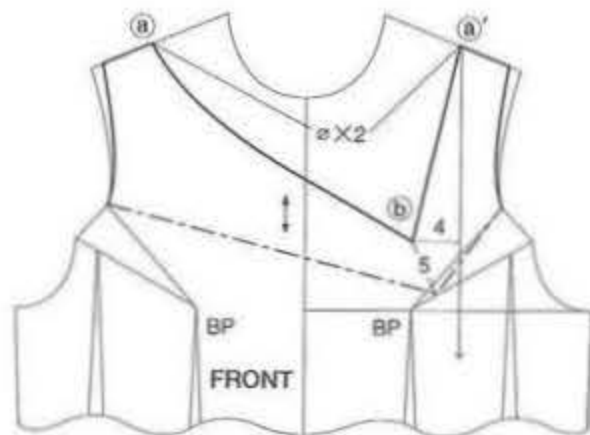
スクエアな衿ぐりをかく。a~b~cが ϕ 寸法になるようにする。

見返しがV



Vネックラインの衿ぐりをかく。aから ϕ 寸法になるようにする。

見返しがアシメトリー



アシメトリーな衿ぐりをかく。bを決めa~b~a'が $\phi \times 2$ になるようにする。身頃の衿ぐりがbで引っ張られるので、布が交差したように見える。

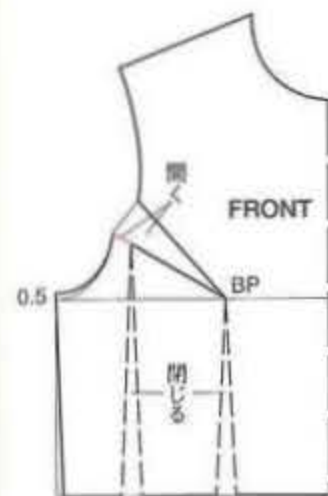
53ページ“見返し・しだい”

衿と裾のアシメトリーなドレープ。

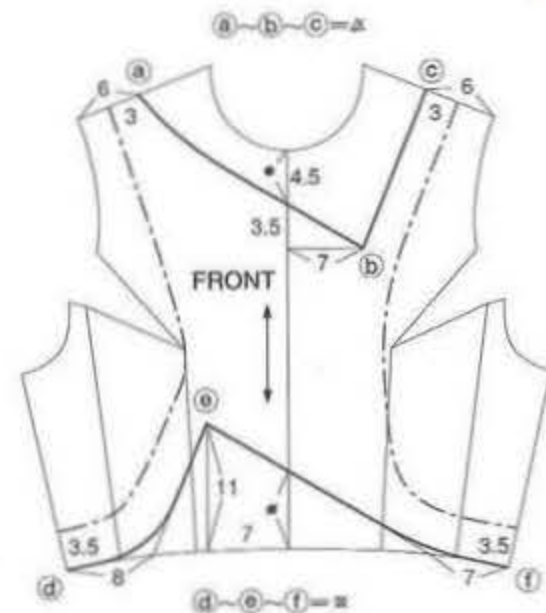
複雑で、柔らかい布の動きが

絵画に描かれた衣装のようにエレガント。

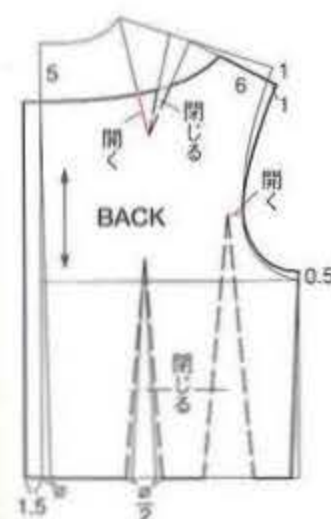
見返しによって衿ぐりや裾の形が変化するので、見返しを決めてから表の作図をしたほうが、形を出しやすいこともある。



① 前身頃の見返しの作図をする。ウエストダーツをすべてアームホールダーツに移動する。



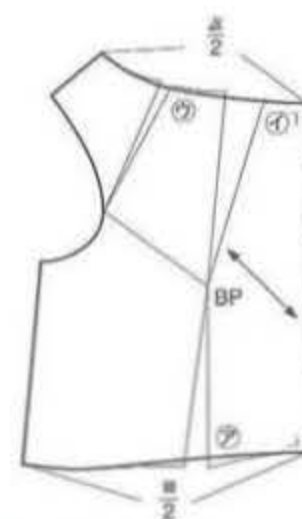
② アシメトリーな衿ぐりをかき、a~b~cの衿ぐり寸法を ϕ とする。布が重なって見えるように、裾は衿ぐりと逆のアシメトリーにかく。d~e~fの寸法を ϕ とする。



③ 後ろ身頃の作図をする。肩ダーツは衿ぐりに移動する。(後ろ身頃の見返しは省略する)



④ 前身頃の作図をする。前中心で衿ぐりは1cm、裾は3cmカットする。このとき②の ϕ の寸法より多くならないようにする。差が大きいほど、完成時の布の重なりが多くなる。



⑤ 裾が $\frac{\phi}{2}$ になるようにアームホールダーツをたたんで②で切り開く。残りのアームホールダーツをたたんで②で切り開く。次に衿ぐりが $\frac{\phi}{2}$ になるように②でさらに切り開く。衿ぐり、裾のラインをかく。

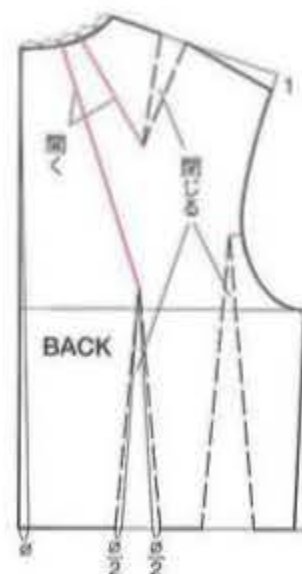
54ページ“カウルネック”

両肩からのエレガントな布の流れ。

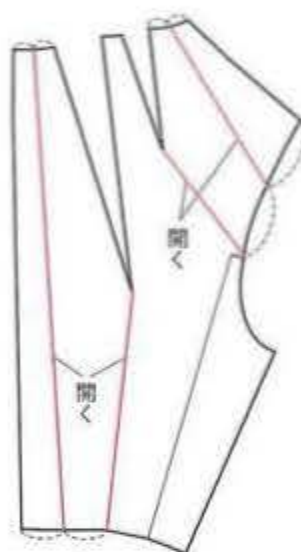
横から見るとフィットしたボディからドレープが突き出ているようだ。

“カウルネック”は中世の高僧衣に由来するとか……

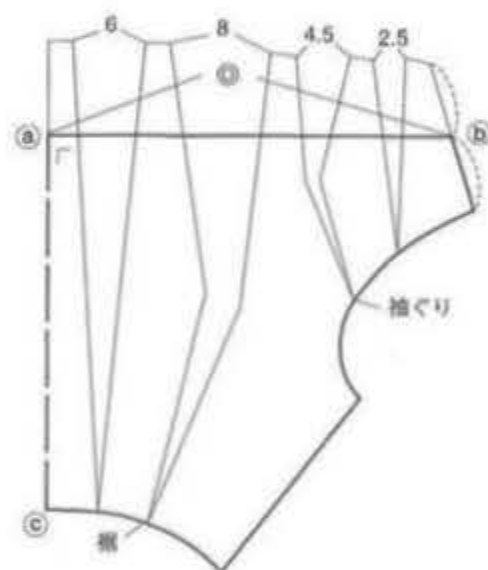
優雅なドレスに取り入れたい。



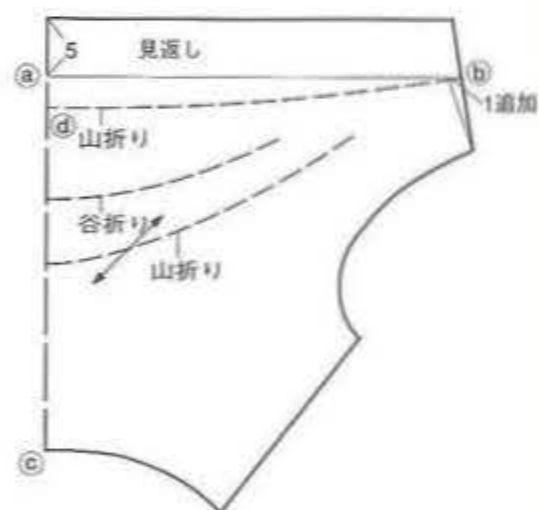
① ドレープを作図する。衿ぐりにドレープを作るので、ダーツはすべてたたんで衿ぐりで開く。



② 衿ぐりの切開き線を追加する。



③ 切開き分量は中心側を多く、肩線側は少なく配分して開く。肩幅を決めbとし、後ろ中心線と直角に交わる線をかき、後ろ衿ぐりとする。



④ ③のパターンに、衿ぐり(a~b)上で見返し分5cmを追加した布を粗裁する。ボディに着装すると④のように折り線が下がってくる。さらに落ち着くところに、2本目の山折り線ができる。

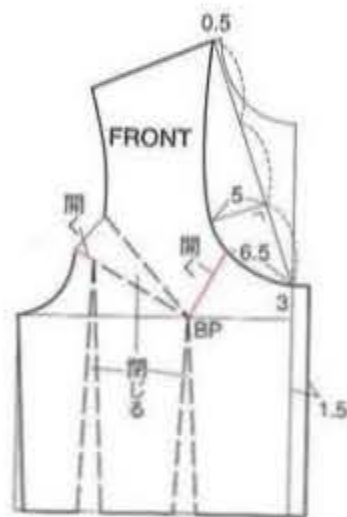


55 ページ“カウルネックの応用”

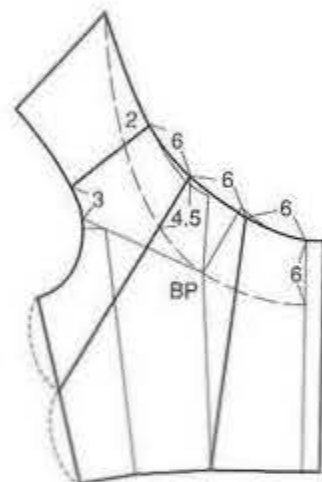
衿ぐりがふわっと広がったシルエットは、
横から見ると花開いたゆりの花のようにエレガントだ。



① 後ろ身頃の作図をする。



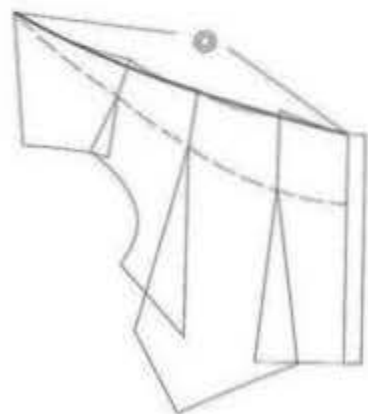
② 大きくあいた前の衿ぐりをかく。



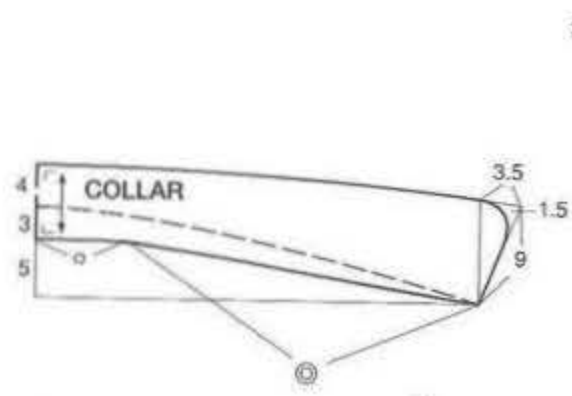
③ ダーツはすべてたたんで衿ぐりで開く。衿ぐりの外側に、バストポイントを通る大きいカーブを破線でかく。この破線は花びらが開くように衿ぐりが開いていくスタート位置である。



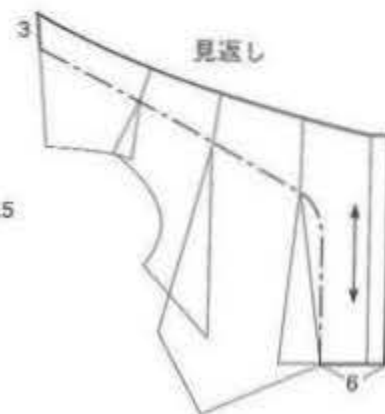
④ 切替え線と破線の交点から、衿ぐりを広げる。



⑤ パターンをつなげて衿ぐりを訂正する。



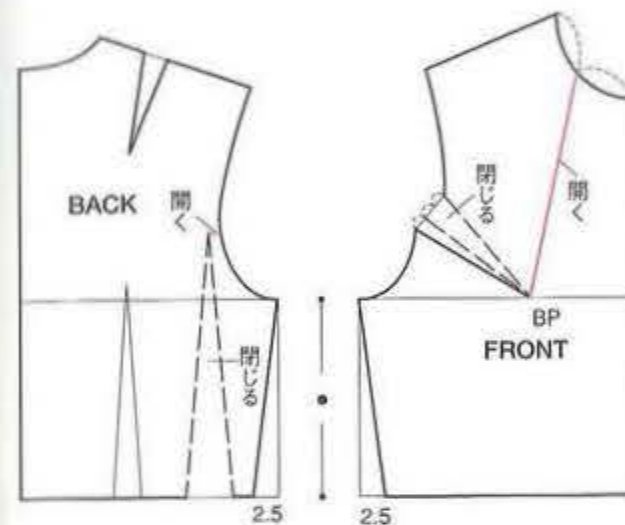
⑥ 衿の作図をする。



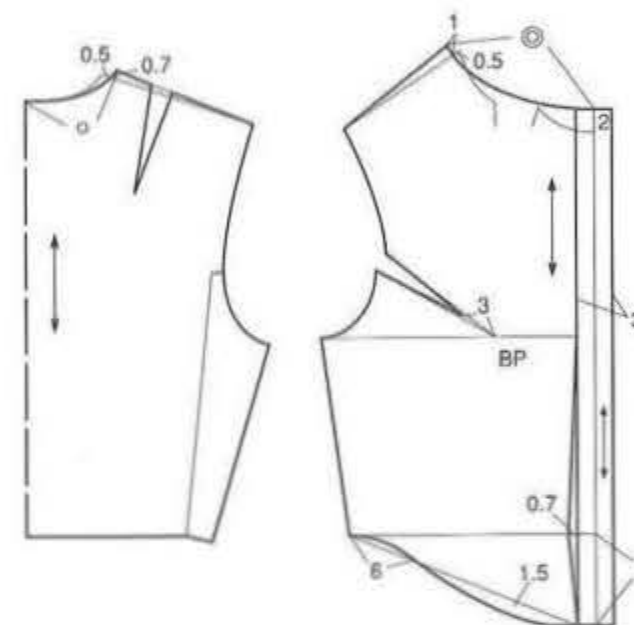
見返し

56 ページ“カウルネックの応用”

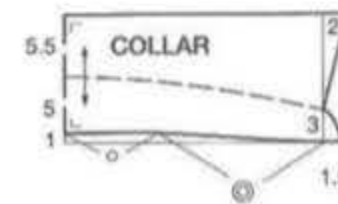
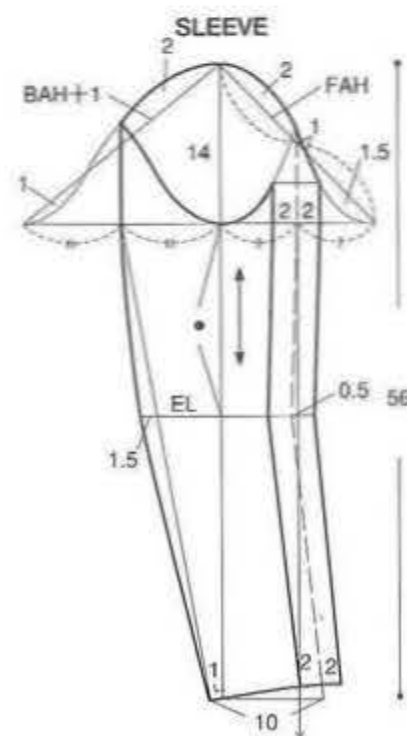
衿ぐりを大きく切り開くとドレープになるが、
少しだけ開いて、はと胸のようなシルエットのシャツにしてみた。
張りのある布で作るとより効果的だ。



① 作図をする。アームホールダーツの $\frac{2}{3}$ を閉じて、衿ぐりで開く。残りの $\frac{1}{3}$ はダーツにする。



② 着用するとつれるので、衿ぐりを前後それぞれ追加する。



③ 衿と袖の作図をする。個性的なボディとのバランスをとるため、袖はほっそりした長めの丈にした。

PATTERN MAGIC

Part 3 消える……

パターン マジック!

本物のマジシャンのように

パターン操作で

服の一部が消せたら面白い、と思った。

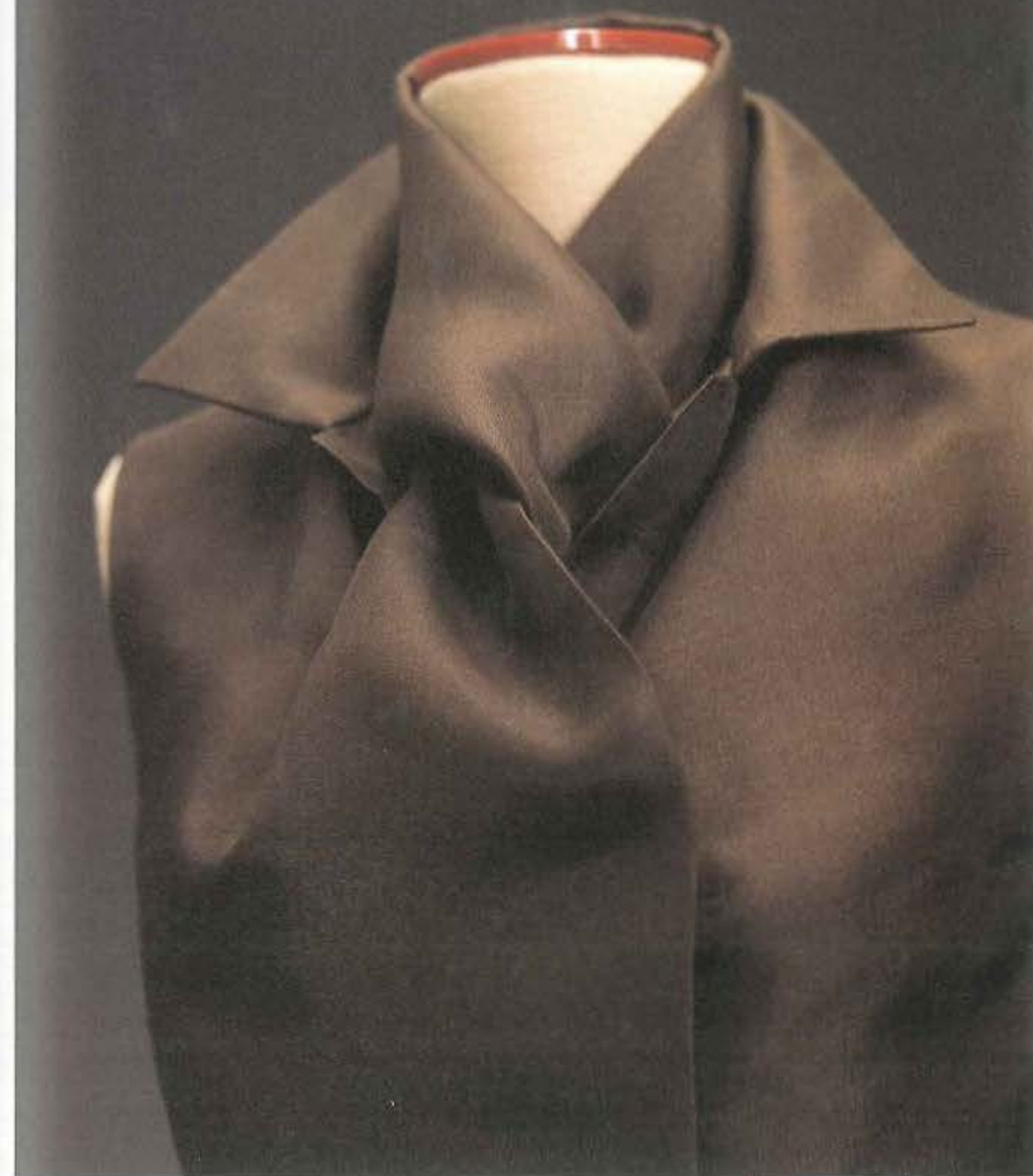
トロンプ・ルイユ(だまし絵)という

目の錯覚ではなく、

種も仕掛けもパターンしだい。



消えるスカーフ 解説86ページ





消えるネクタイ 解説88ページ



消えるラペル 解説90ページ

A



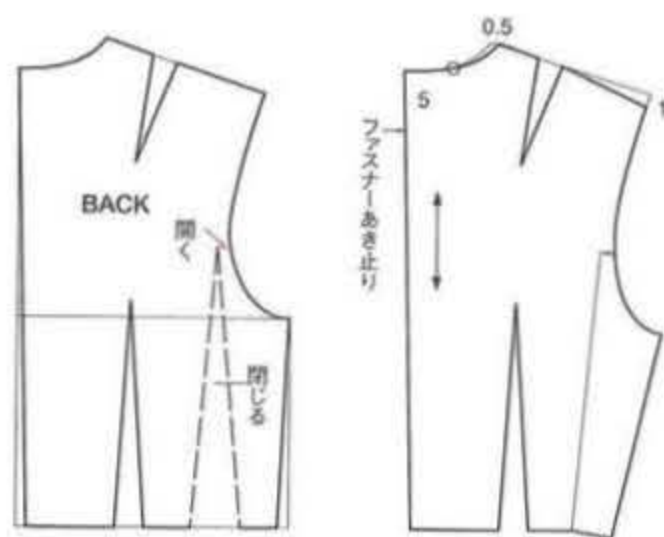
B



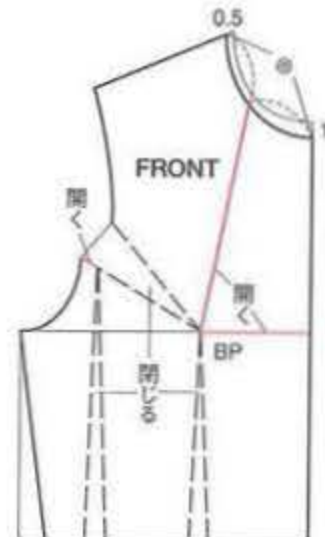
“消える……”の
パターンを作る

81 ページ “消えるスカーフ”

首にふわっと巻いたスカーフが、
身頃に溶け込んで、消えた!



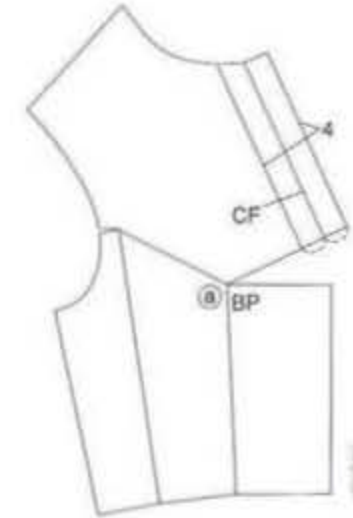
① 作図をする。後ろ身頃の脇側のダーツはたたむ。



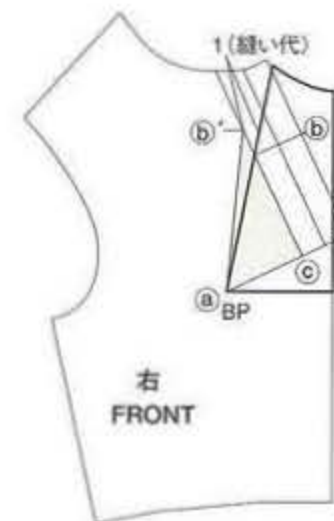
② 前身頃は、バストラインと袖ぐりの2か所で、それぞれダーツをたたんで切り開く。



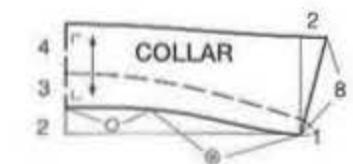
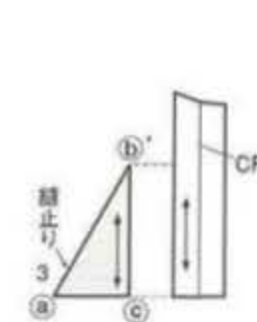
③ バストラインで切り開くパターンを②、袖ぐりで切り開くパターンを①とする。



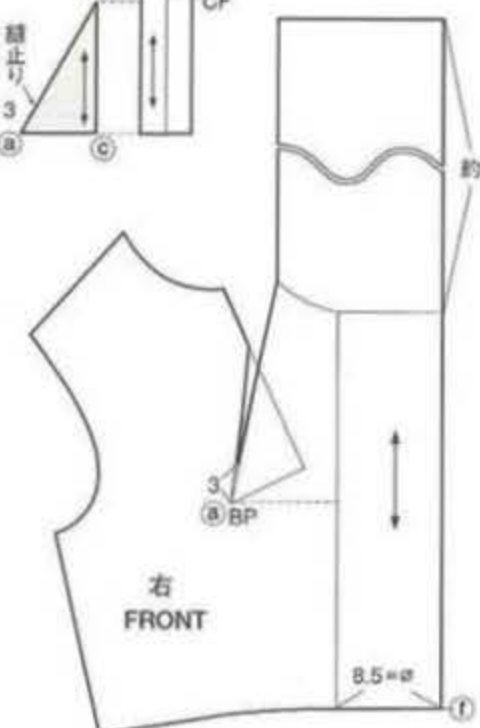
④ ②のパターンのBLから上に前立てをつける。バストポイントを③とする。



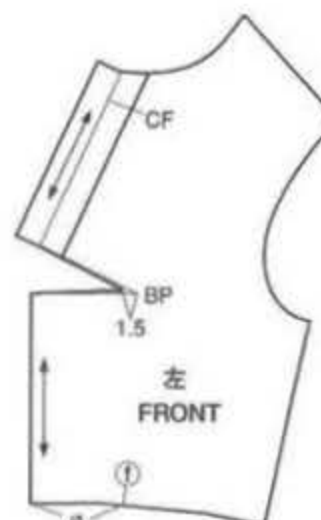
⑤ 上前身頃の作図をする。③のパターンに、④のパターンを重ねる。④はスカーフが溶け込んで、消えるほうの身頃になる。スカーフをつなげると身頃と重なる部分ができるので、身頃のほうは別裁ちにする。③④⑤の三角形の部分になる。三角形の③④⑤を身頃と縫い合わせるのに、縫い代が必要なので1cmゆとりを入れ、③を④へ移動する。③④⑤は別裁ちにする。



⑥ 衿の作図をする。



⑦ スカーフと身頃をつなげたパターン。

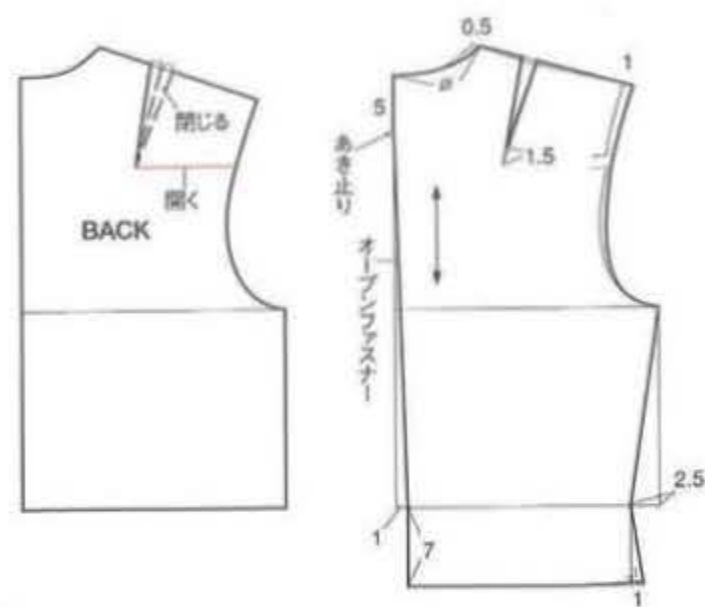


⑧ 下前は、⑦の身頃を使用する。ダーツは短くしてスカーフで隠れるようにする。

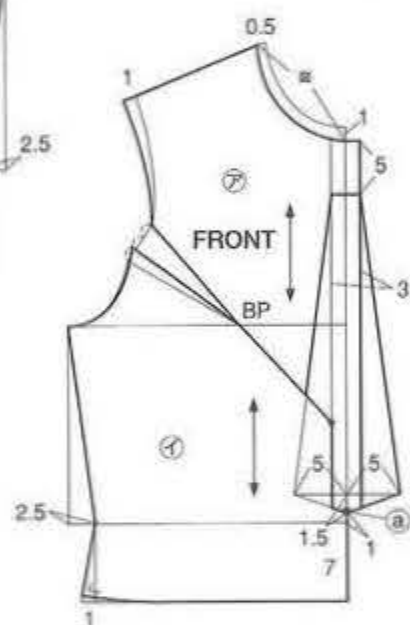
82 ページ “消えるネクタイ”

どうなっているのだろう?

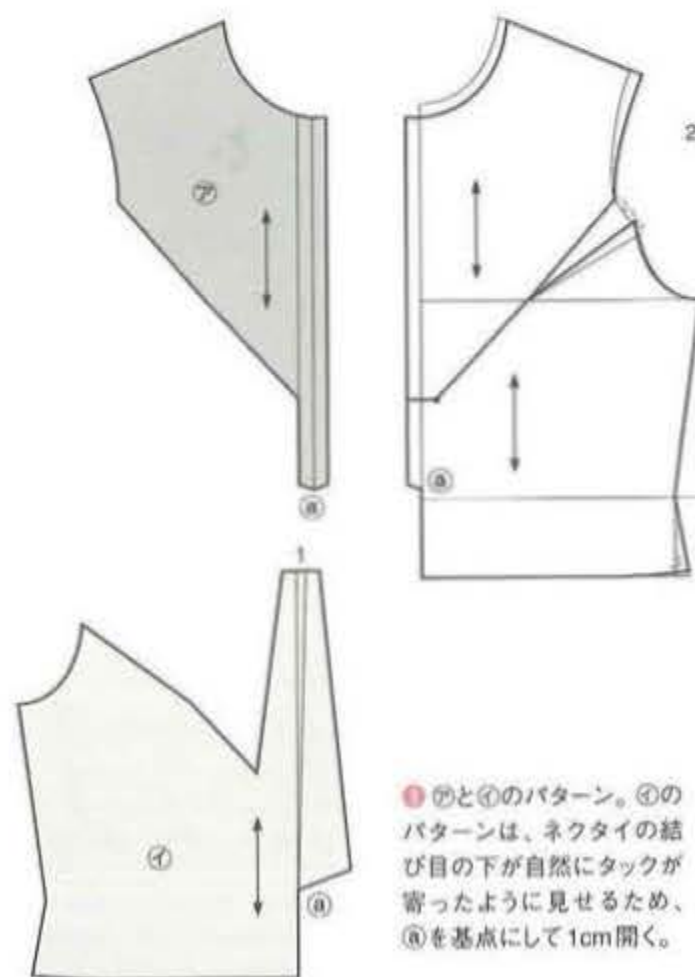
ネクタイの先が、シャツの中に消えている。



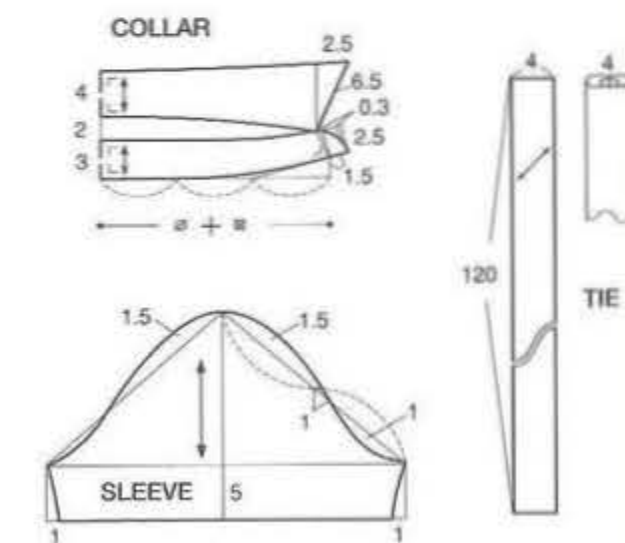
① 作図をする。後ろ中心をファスナーあきにする。



② 前身頃に、ネクタイの結び目から下の部分をかく。ネクタイの右下を消すために前身頃に切替え線を入れた。右身頃はネクタイの部分が重なるので②と③のパターンに分けた。前中心とネクタイの先の交点を④とする。



③ ②と③のパターン。④のパターンは、ネクタイの結び目の下が自然にタックが寄ったように見せるため、④を基点にして1cm開く。



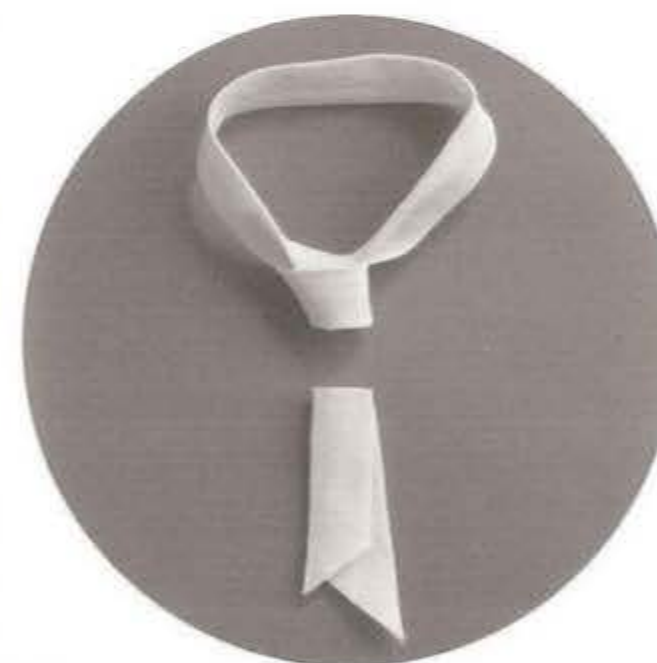
④ 衿と袖の作図をする。
⑤ ネクタイの長さは本縫いで決めるので、多めにとっておく。



⑥ ネクタイを結ぶ。



⑦ 身頃をボディに着せて、ネクタイをつけてみる。好みの状態で結び目の位置を決めるが、頭の入る寸法をとる。



⑧ 結び目の位置が決まったら、結び目から下をカットする。カットした部分は不要になる。



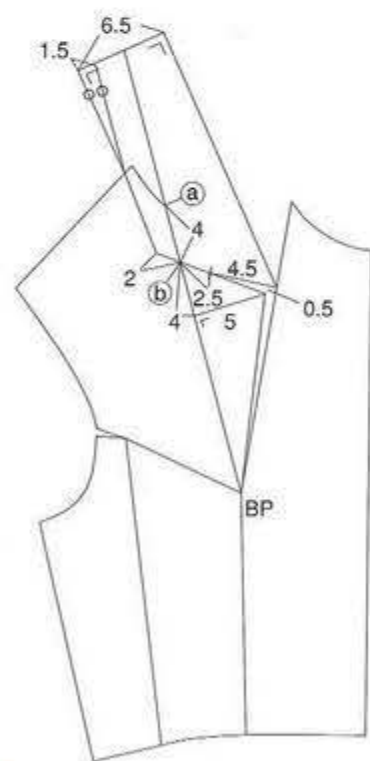
⑨ ネクタイの上の部分を衿にかけ、身頃⑦のネクタイを結び目の中に入れる。自然な感じになるようにネクタイをセットし、目立たないようにまつ。

83ページ“消えるラベル”

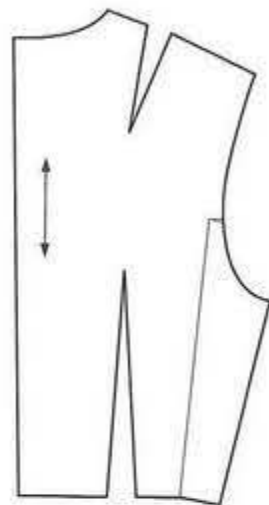
テーラードカラーのラベルは、
どこから始まっているのだろう。



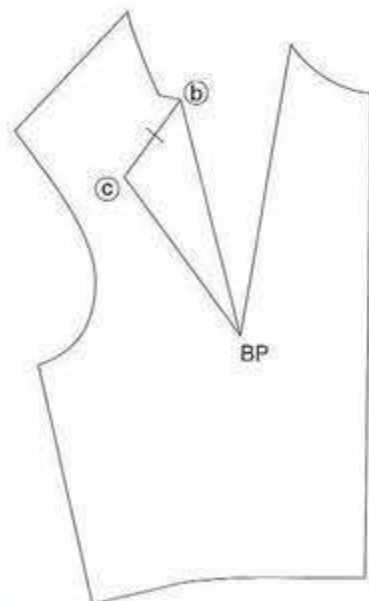
① 作図をする。後ろ身頃の脇側のダーツはたたむ。



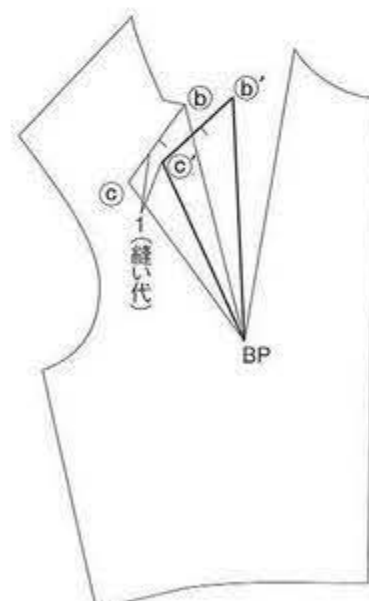
② ダーツをたたみ、テーラードカラーの作図をする。ラベルの始まる位置を⑥とする。



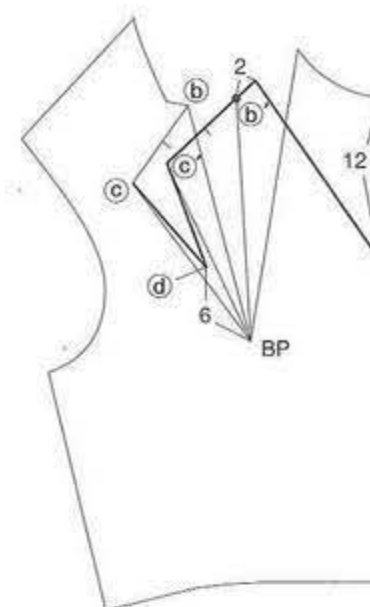
③ 切開き線をかき、衿ぐりと切開き線の交点を④とする。



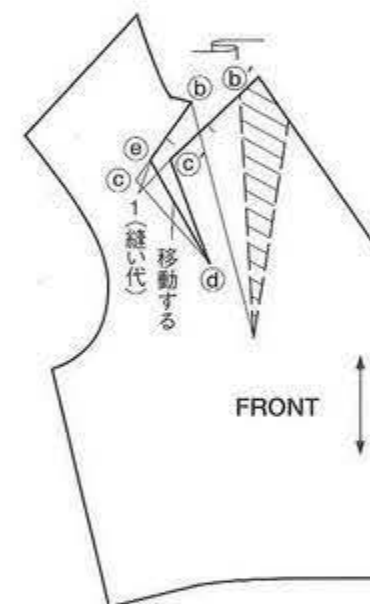
④ ⑥とバストポイントを結んだ線を軸としてラベルを反転して写す。ラベルの先を⑦とする。



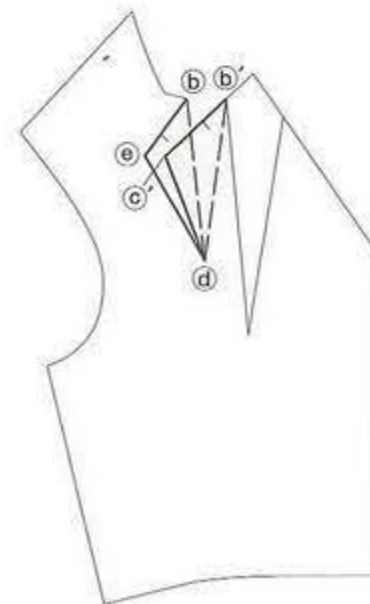
⑤ ラベルの縫い代をとる。バストポイントを基点とし、ラベルの角が1cm開く位置まで移動し、⑧⑨とする。



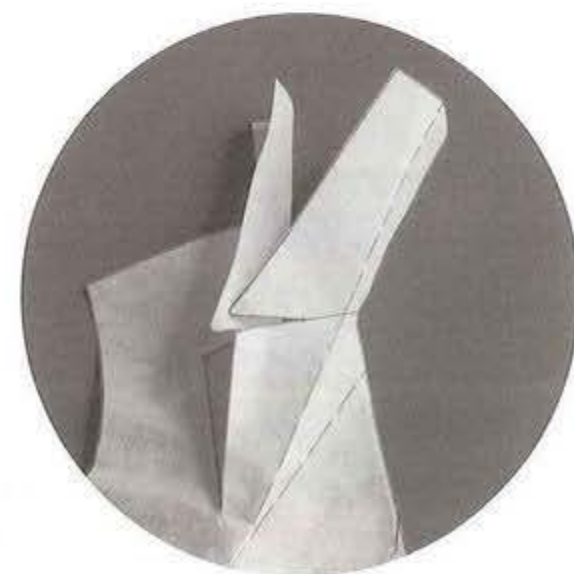
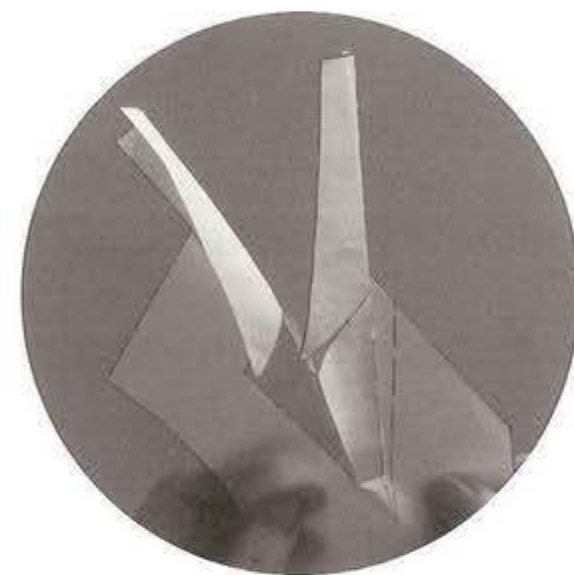
⑥ ⑧⑨を2cm延長し、前中心と結んで衿ぐりとする。バストポイントから6cm上がった位置を⑩とする。⑧⑩、⑧⑩を結ぶ。



⑦ 身頃の切替え線を目立たせないように縫い代分として1cm残し、⑧⑩を移動し、⑪⑫とする。



⑧ ⑪⑫⑬でできた三角形を反転する。⑪⑫の線上に⑪⑬⑭を合わせる。⑪⑫と⑪⑬の長さが違うので⑪⑬と⑭を結び直す。⑪⑬⑭⑮⑯でできる菱形がラベルに隠れる部分になる。



作図で仕組みがわかりづらい部分は、ソーイングペーパーで作ってみると理解しやすい。

84 ページ“消えるポケットA”

絵をかき始めて、

途中でやめてしまったように

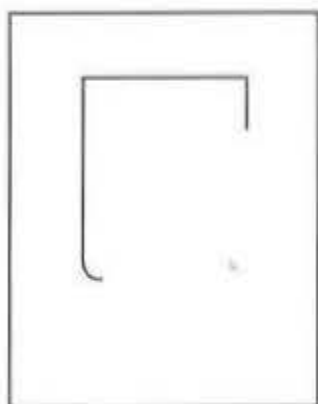
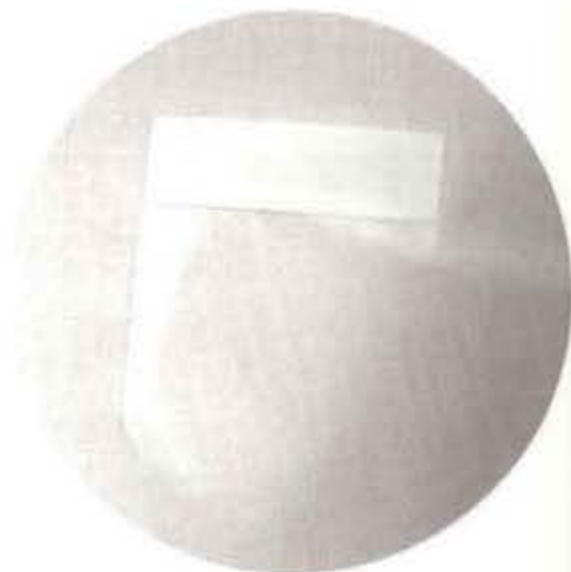
ポケットが消えている。

やはり“ダーツをたたんで開く”

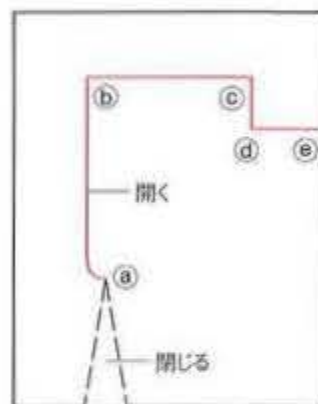
のハイテク的な応用。

●ポケットA、B、Cは、

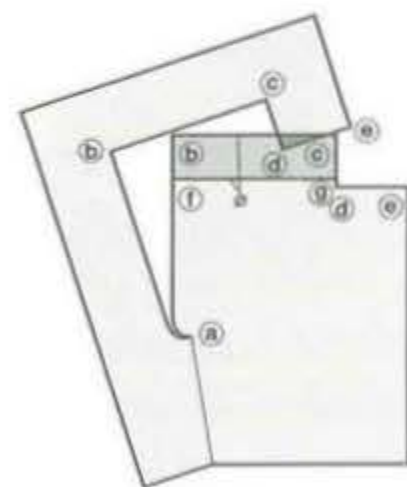
本来のポケットの機能は持たない。



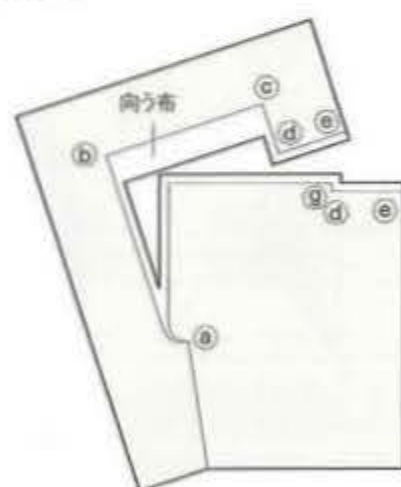
① ポケットのアウトラインをかき、角の消したいところを消しゴムで消す。



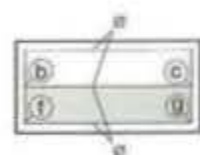
② ポケットを立体につける場合、ダーツを利用すると切替え線を消すことができる。①をダーツ止りにして、切替え線④～⑤の1本だけでアウトポケットを作ってみる。



③ ダーツをたたむと、土台とポケットが重なってしまった。そこで、ポケット口を切り替えることにした。縫い代分と、切替え線のバランスを考えて寸法とした。



④ ポケット口を切り替えることで縫い代分ができる。



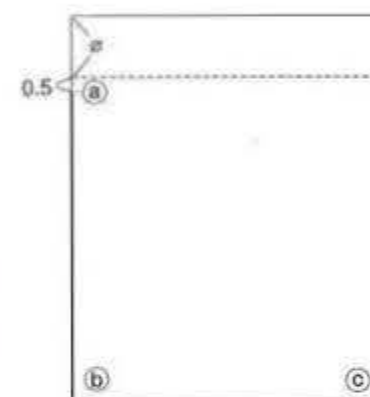
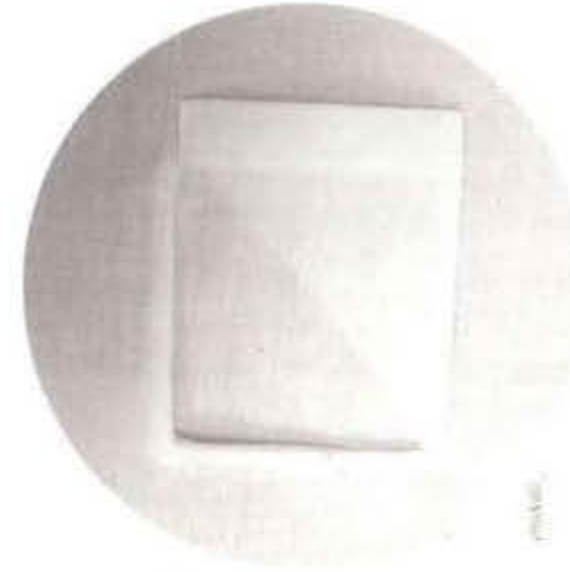
⑤ 切替えに縫い代をつける。土台のポケット口周辺(⑥～⑦の下)の土台布は向う布を兼ねるので、できるだけ多くとりたい。

84 ページ“消えるポケットB”

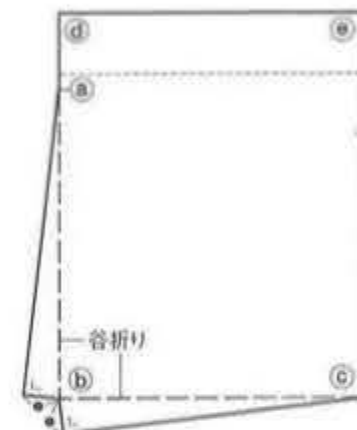
難破船が海に沈んでいくように……

アウトポケットの左の角が少し沈没し始めた。

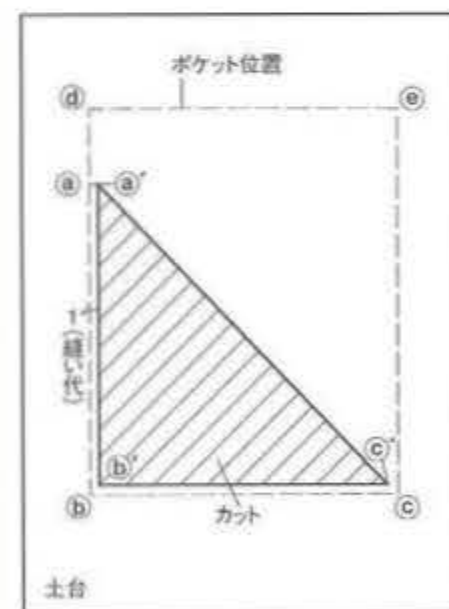
これも“消える”の表現だ。



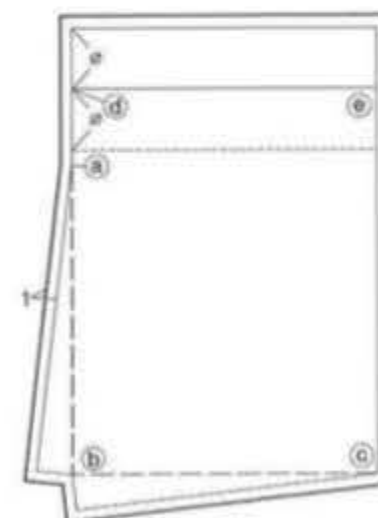
① アウトポケットの沈めたい位置を決める(①～②)。



② ①を基点にして、沈める深さ●を決め、直角に①、②と結ぶ。①～②～③は谷折りになる。



③ 土台布のポケットつけ位置①～②～③に縫い代をつける。①～②～③で囲まれた三角形は不要部分なのでカットする。



④ ポケットのパターンは、ポケット口の折返し分を加え、縫い代をつける。

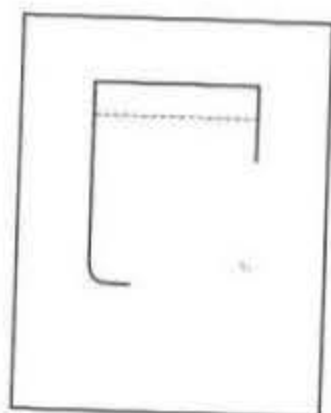
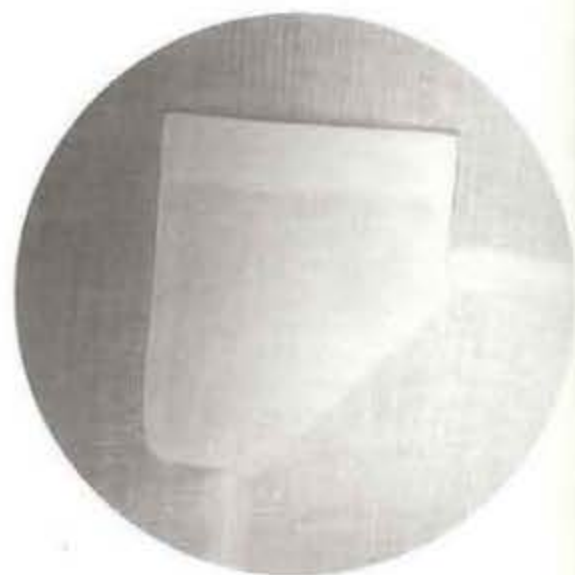
消えるポケットC

ポケットの角が消えている。

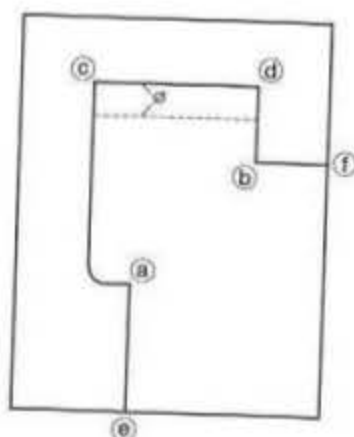
不思議だが実は、

ポケットの形をした切替え線……

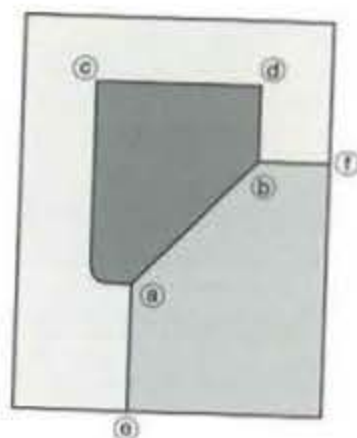
というのが、マジックの種明し。



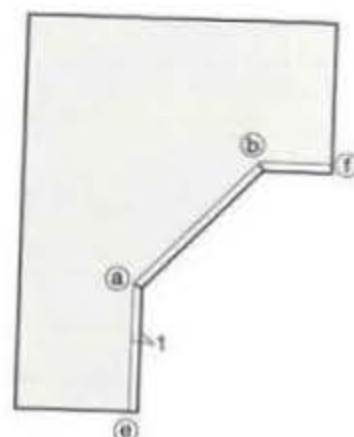
① ポケットのアウトラインをかき、角の消したいところを消しゴムで消す。



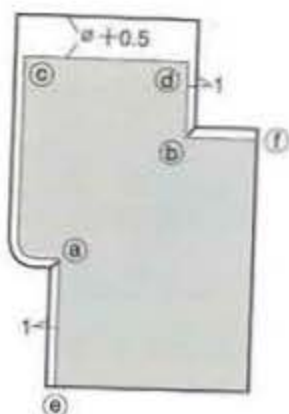
② 消したところa、bから、a~e、b~fと切替え線を入れる。a、bを通っていれば、e、fの位置はどこでもいい。



③ a~b~d~cで囲まれたところが重なった、二つのパターンを作る。



④ 土台とポケットに縫い代をつける。



この本の使い方

女性のための服は体にフィットさせるだけでなく、より魅力的に見せるという大きな目的がある。そのために服のデザインは尽きることなく、時代を越えて、永遠の楽しみを私たちに与えてくれる。イメージをシルエットやディテールにするために、ここでご紹介したパターンを作る方法を役立ててほしい。この本の発想に学び、さらに自分なりの新しいやり方を見つけてもらえればもっとうれしい。この本に掲載した服のデザインの作図、パターンの操作はすべて文化式原型成人女子用Mサイズ(バスト83cm、ウエスト64cm、背丈38cm)をベースにしている。そして、立体のパターン操作には $\frac{1}{2}$ のボディを使った。このボディはすべての寸法が $\frac{1}{2}$ になっていて、表面積は $\frac{1}{4}$ 、体積は $\frac{1}{8}$ になる。 $\frac{1}{2}$ のボディを使うと、全体のバランスや雰囲気を簡単に把握することができて便利だ。またパターンの成立ちをわかりやすく紹介することを目的としたため、パターンには実際に仕立てるために必要な表記、また、布の使用量の掲載も省略してある。

作図の略称表記

- BP
Bust Point (バストポイント、乳頭点)
- AH
Arm Hole (アームホール、袖ぐり)
- FAH
Front Arm Hole (前アームホール)
- BAH
Back Arm Hole (後ろアームホール)
- B
Bust (バスト、胸囲)
- W
Waist (ウエスト、腰囲)
- H
Hip (ヒップ、腰囲)
- BL
Bust Line (バストライン、胸囲線)
- WL
Waist Line (ウエストライン、腰囲線)
- HL
Hip Line (ヒップライン、腰囲線)
- EL
Elbow Line (エルボーライン、肘線)
- CF
Center Front (センターフロント、前中心)
- CB
Center Back (センターバック、後ろ中心)

作図中の表示記号

案内線		目的の線を引きのために案内となる線。細い実線で表わす。
等分線		一つの限られた長さの線が等しい長さに分けられていることを表わす線。細い破線で表わす。
出来上り線		パターンの出来上りの輪郭を表わす線。太い実線または破線で表わす。
わに裁つ線		わに裁つ位置を表わす線。太い破線で表わす。
ステッチ線		ステッチの位置を表わす線。細い破線で表わす。
ギャザー		ギャザーを入れる位置を表わす。細い実線で表わす。
見返し線		見返しをつける位置と大きさを表わす線。一点破線で表わす。
直角の印		直角であることを表わす。細い実線で表わす。
線の交差		左右の線が交差することを表わす。
布目線		矢印の方向に布の織地を通すことを表わす。太い実線で表わす。
バイアス方向		布のバイアス方向を表わす。太い実線で表わす。
伸ばす印		伸ばす位置を表わす。
いせる印		いせる位置を表わす。
閉じて切り開く印		パターンのダーツを閉じ、その反動を開くことを表わす。
別々のパターンを続けて裁つ印		布を裁つときにパターンを続けることを表わす。

パターン展開のベースになっているのは、

文化式原型成人女子用

現代の日本人女性の体型を考へて作られた文化式原型は、ダーツ(胸ぐせダーツ、後ろ肩ダーツ、ウエストダーツ)によって体にフィットさせて立体的に作られている。

原型を作図するためには、バスト(B)、ウエスト(W)、背丈の寸法が必要である。各部の寸法はバスト寸法を基準に、またそれぞれのダーツの分量もバスト、ウエスト寸法から算出するようになっている。各ウエストダーツは、 $\frac{W}{2}$ に3cmのゆとりを加えて算出してあり、身幅 $-(\frac{W}{2}+3)$ となる。体にきれいにフィットする分、詳細な計算が必要だが、各部寸法の早見表を参考にすれば比較的簡単に作図することができる。また、98、99ページにバスト77、80、83、86、89cmの原型をそれぞれ $\frac{1}{2}$ にしたものを掲載してある。こちらも活用してほしい。

各部寸法の早見表

単位はcm

B寸法	身幅 $\frac{B}{2}+6$	(A)~BL $\frac{B}{12}+13.7$	背幅 $\frac{B}{8}+7.4$	BL~(B) $\frac{B}{5}+8.3$	胸幅 $\frac{B}{8}+6.2$	$\frac{B}{32}$	前衿ぐり幅 $\frac{B}{24}+3.4=㉑$	前衿ぐり深さ $㉑+0.5$	胸ぐせダーツ $(\frac{B}{4}-2.5)^*$	後ろ衿ぐり幅 $㉑+0.2$	後ろ肩ダーツ $\frac{B}{32}-0.8$
77	44.5	20.1	17.0	23.7	15.8	2.4	6.6	7.1	16.8	6.8	1.6
78	45.0	20.2	17.2	23.9	16.0	2.4	6.7	7.2	17.0	6.9	1.6
79	45.5	20.3	17.3	24.1	16.1	2.5	6.7	7.2	17.3	6.9	1.7
80	46.0	20.4	17.4	24.3	16.2	2.5	6.7	7.2	17.5	6.9	1.7
81	46.5	20.5	17.5	24.5	16.3	2.5	6.8	7.3	17.8	7.0	1.7
82	47.0	20.5	17.7	24.7	16.5	2.6	6.8	7.3	18.0	7.0	1.8
83	47.5	20.6	17.8	24.9	16.6	2.6	6.9	7.4	18.3	7.1	1.8
84	48.0	20.7	17.9	25.1	16.7	2.6	6.9	7.4	18.5	7.1	1.8
85	48.5	20.8	18.0	25.3	16.8	2.7	6.9	7.4	18.8	7.1	1.9
86	49.0	20.9	18.2	25.5	17.0	2.7	7.0	7.5	19.0	7.2	1.9
87	49.5	21.0	18.3	25.7	17.1	2.7	7.0	7.5	19.3	7.2	1.9
88	50.0	21.0	18.4	25.9	17.2	2.8	7.1	7.6	19.5	7.3	2.0
89	50.5	21.1	18.5	26.1	17.3	2.8	7.1	7.6	19.8	7.3	2.0

ウエストダーツ寸法の早見表

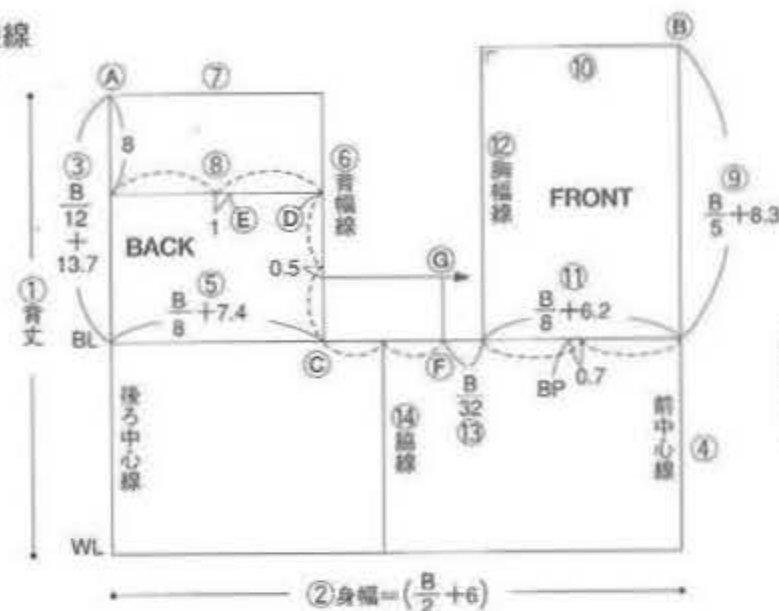
単位はcm

総ダーツ量 100%	f	e	d	c	b	a
	7%	18%	35%	11%	15%	14%
9	0.6	1.6	3.1	1	1.4	1.3
10	0.7	1.8	3.5	1.1	1.5	1.4
11	0.8	2	3.9	1.2	1.6	1.5
12	0.8	2.2	4.2	1.3	1.8	1.7
12.5	0.9	2.3	4.3	1.3	1.9	1.8

原型の作図のしかた

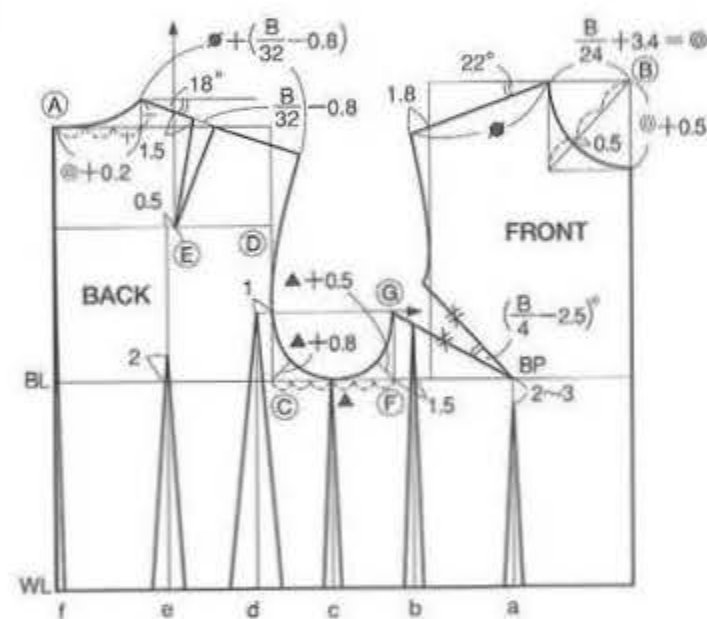
原型は身頃原型と袖原型があるが、ここでは本書で使用している身頃原型のみを掲載した。

基礎線



身頃の作図は、まず基礎線を引く。各部の寸法を正確にとり、①~⑬の順にかいていく。この順番に作図を進めると早見表の数字も左から順に読み取るようになっている。

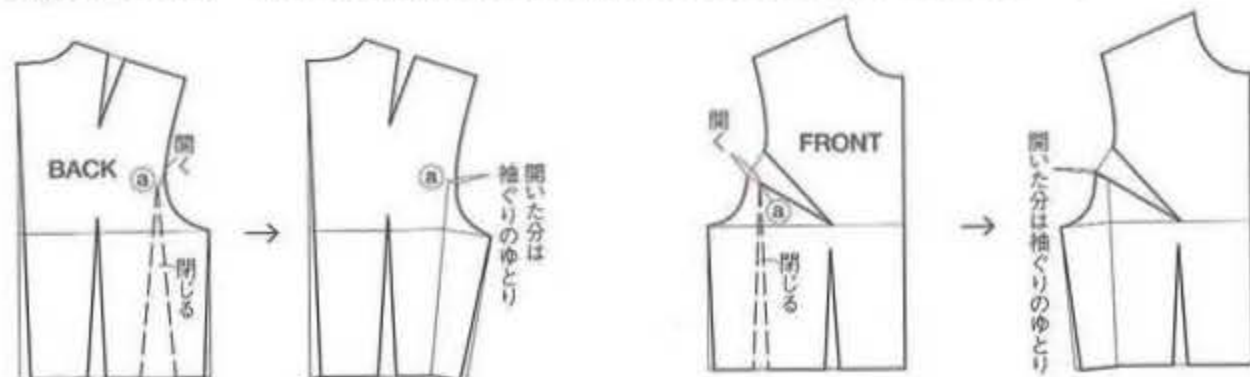
輪郭線



基礎線が出来上がったら、衿ぐり、肩線、袖ぐりの輪郭線をかき、最後にダーツをかき入れる。

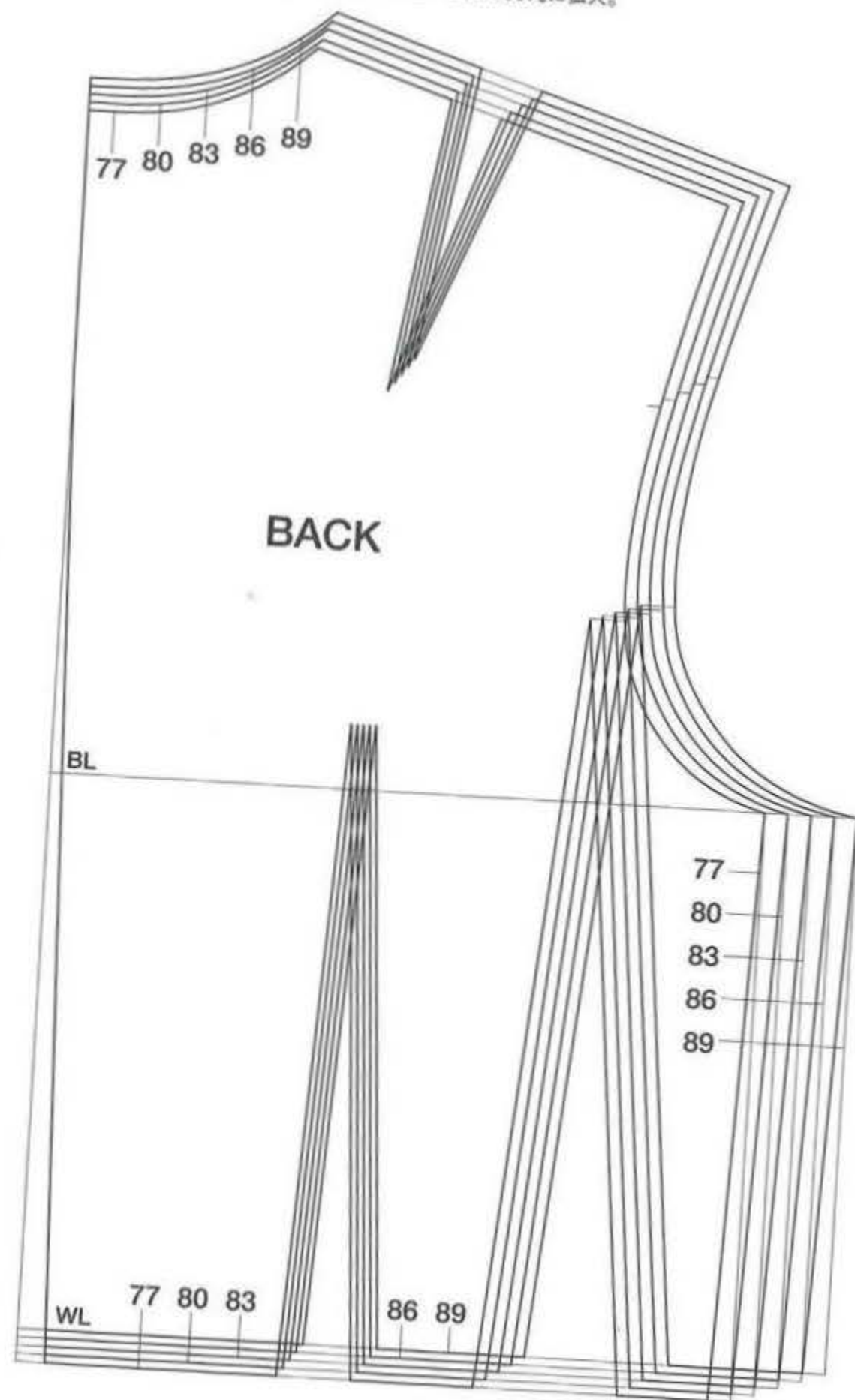
ダーツの移動での注意

㉑を基点としてウエストダーツをたたむと袖ぐりが開くが、その分量はごくわずかなので、袖ぐりのゆとりと考える。また、原型のウエストダーツは、作図で利用する場合は表記しているが、必要のない場合は省略した。



文化式原型成人女子用 Mサイズ(1/2)

◎実物大原型として使用するとき、コピー機で200%に拡大。



バスト(B)	ウエスト(W)	背丈
77	58	38
80	61	
83	64	
86	67	
89	70	

単位はcm

